

平成 **26** 年度

こどもの城

事業年報

公益財団法人 児童育成協会

平成 **26** 年度

こどもの城

事業年報

閉館にあたって

平成27年3月31日〔こどもの城〕は30年の幕を閉じました。

ご来館いただいた方に厚く御礼申し上げますとともに、永きにわたり〔こどもの城〕の事業を支えていただきました全ての方々に心より感謝申し上げます。

〔こどもの城〕は、昭和60(1985)年、世界に例のない国立総合児童センターとして創設されて以来子どもたちの健全な育成のために多くの役割を果たしてきたと考えております。「子どもは歴史の希望」を基本理念として年間300日、夏も冬も休まず活動を続け、事故もなく2,850万人もの方にご来館いただいたことは大きな誇りです。

あらためて申し上げるまでもありませんが、子どもにとっての遊びは成長・発達の重要な要素であり、遊びのプログラムの目的は子どもの心身の健康、知的・社会的な適応力、情操がバランス良く発達することにあります。これに沿って、児童活動部門では体育・プレイ・造形・音楽・映像科学などの活動があり、保育・小児保健では実践活動と研究が行われ、実施したプログラムは延べ300,000回に及びます。劇場部門では児童演劇や合唱、ダンス、和太鼓など20,000回の文化芸術公演が発信されました。

全ての部門の研修で育った25,000人の方々が全国で活躍されています。また、〔こどもの城〕における活動だけでなく、各地の児童館などにプログラムを伝える活動や各地での研修会を開催するなど、その活動は全国に及んでいます。

〔こどもの城〕の閉館は国の決定ですが、この背景には社会環境が大きく変化する中で、財政上の問題や国立総合児童センターとしての総合的・統括的な事業も限定されるなど、当初の基本構想と異なった運営を迫られることになったことなどにもあると思います。〔こどもの城〕は閉館いたしましたが、長年かけて培われたその心はこれからも生き続け、今後も全国で活かされて実を結んでいくのではないかと期待しています。

閉館した今でも「今日は楽しかった、また来ようね」という笑顔の親子の声が耳から離れません。もう一度、施設、劇場などすべての関係者の方々、ボランティアの皆さん、〔こどもの城〕の事業を支えていただいた全国の方々の長年にわたるご厚情に特別の感謝を申し上げたいと思います。

そして、最後に〔こどもの城〕の主役にひとこと「子どもたち、ありがとう！」

巷間 歴史の希望たる子等を支援続けん 人間至る処青山あり

平成27年3月31日

公益財団法人児童育成協会

こどもの城 理事長

藤田 興彦



□こどもの城の閉館の経緯について□

〔こどもの城〕は、昭和 60(1960)年厚生省(当時)により「国際児童年」(1979年)を記念して、児童福祉法に基づく児童厚生施設として設置されました。私ども、公益財団法人児童育成協会が国よりその経営を委託され、子どもたちの健やかな成長のため、遊びを基底にしたプログラムを開発、実践し、また全国の児童館における児童健全育成事業普及の支援、研修を通じた人材育成など、日本で唯一の国立総合児童センターとして 29 年間にわたりさまざまな実践を続けてまいりました。

しかし、国は施設の老朽化、子どもをめぐる社会状況の変化を勘案し、閉館を方針決定いたしました。これを受けまして、公益財団法人児童育成協会は、残念ながら〔こどもの城〕における活動から退くこととなりました。

平成 26 年度 こどもの城 事業年報

1 事業の概要

3 閉館にあたって

9 平成 26 年度の活動 本年度の主な取り組み／開館時間・入館料(こども活動エリア)／施設・組織機構など/[こどもの城]の付帯事業／経営理念と運営方針

19 平成 26 年度活動一覧表 来館児・者数／貸切団体利用状況／広報活動／視察・見学実績

こどもの城から全国へ

25 平成 26 年度の活動

26 平成 26 年度活動一覧表 〈動くこどもの城〉(派遣プログラム) ほか

2 こどもの城から全国へ

3 各部門の事業

全館事業

31 平成 26 年度の活動

32 平成 26 年度活動一覧表 一般利用

体育エリア

35 平成 26 年度の活動

36 平成 26 年度活動一覧表 一般利用／講座・クラブなど

3 階・屋上エリア プレイ

41 平成 26 年度の活動

43 平成 26 年度活動一覧表 一般利用

3 階・屋上エリア 造形

45 平成 26 年度の活動

48 平成 26 年度活動一覧表 一般利用／講座・クラブなど／プログラム一覧

平成 26 年度 こどもの城 事業年報

3 各部門の事業

4階エリア 音楽

- 51 平成 26 年度の活動
- 53 平成 26 年度活動一覧表 …………… 一般利用／講座・クラブなど／その他

4階エリア 映像科学

- 59 平成 26 年度の活動
- 60 平成 26 年度活動一覧表 …………… 一般利用／講座・クラブなど／その他／
プログラム一覧

保育研究開発

- 63 平成 26 年度の活動
- 65 平成 26 年度活動一覧表 …………… 一般利用／講座・クラブなど／その他

研修事業

- 67 平成 26 年度の活動
- 69 平成 26 年度活動一覧表 …………… ボランティアの活動／講座・クラブなど

劇場事業

- 71 平成 26 年度の活動
- 72 平成 26 年度公演演目一覧表 …………… 青山劇場／青山円形劇場／その他

経営企画

- 77 平成 26 年度の活動

こどもの城 30 年の歩み

- 81 30 年間の活動のまとめ …………… 「こども活動エリア」の活動／国立総合児童センターの活動／青山劇場・青山円形劇場の活動
- 91 30 年間の主な出来事
- 94 資料

4 こどもの城 30 年の歩み

1

事業の概要

事業の概要



平成 26 年度の活動

〔こどもの城〕は、昭和 60 (1985) 年 11 月 1 日の開館以来、児童の健全育成、資質の向上に資するため各種事業を推進してきた。しかしながら、さまざまな社会情勢の変化により、平成 27 (2015) 年 2 月 1 日に一般来館児・者向けの事業、さらに 3 月 14 日をもって講座・クラブおよび保育事業を終了し、29 年 5 か月の歴史を閉じた。

最終年度となった本年度は、職員数の減少など運営環境に大きな影響があったが、事業を今までどおり継続して実施し、〔こどもの城〕の利用者の期待に応え、また〈動くこどもの城〉など全国を対象にした事業も実施し、最後まで〔こどもの城〕に与えられた役割を全うするために、全力で事業運営をすすめた。

□□□ 本年度の主な取り組み □□□

〔こどもの城〕は、体育・プレイ・造形・音楽・映像科学・保育・劇場などさまざまな部門を総合的に機能させ、来館する子どもや家族に向けた〈あそび〉のプログラムを実践し、その内容を全国に発信している。健全育成のための普遍的な活動とともに、時代や社会環境の変化の中で生じる、子どもを取り巻くさまざまな新しい課題への取り組み、さらに社会に向けて、児童の健全育成や子育て支援に資する活動や情報の発信を大切にした。

本年度の主な取り組みは次のとおりである。

■■■ 来館児・者数 ■■■

本年度の「こども活動エリア」の来館児・者は 283,092 人、劇場利用者は 305,126 人、保育、体育、音楽などの講座・クラブ利用者 50,975 人、研修会・会議室や宿泊施設の利用者 79,721 人、総推計 718,914 人となり、前年度比 79,413 人減となった。来館児・者が減少したのは、〔こどもの城〕の「こども活動エリア」が 2 月 1 日、青山円形劇場・青山劇場がそれぞれ 1 月 11 日、1 月 31 日で閉館したことが要因である。

本年度の月別の来館児・者数は、年度当初の 4～6 月は講座・クラブ、専門職講習会の一部を廃止、また営業部門のホテルを閉鎖したため、月別の来館児・者数は前年度に比べて減少したが、〔こどもの城〕全体としては 7 月以降 2 月 1 日の閉館まで、平均約 10% 増加した。その結果、本年度の

実稼働は10か月にもかかわらず、「こども活動エリア」の来館児・者数は前年度の93%となり、劇場および営業部門を合わせて、「こどもの城」全体では、前年度の入館者数の90%となった。

【来館児・者数（対前年度比較）】			(人)
来館児・者区分	平成26年度実績①	平成25年度実績②	差し引き増減①-②
有料来館者（大人）	120,297	123,919	▲3,622
有料来館児（子ども）	75,098	82,536	▲7,438
有料来館児・者（団体）	8,634	9,348	▲714
小計（有料来館児・者）	204,029	215,803	▲11,774
3歳未満児推計招待者・児	60,217	62,035	▲1,818
「こども活動エリア」来館児・者	18,846	24,987	▲6,123
劇場入場者	283,092	302,825	▲19,733
講座・クラブ受講生	305,126	325,421	▲20,295
その他	50,975	61,705	▲10,730
合計	79,721	108,376	▲28,655
合計	718,914	798,327	▲79,413

■■■ プログラムの実践 ■■■

【一般来館児・者のための活動】

〔こどもの城〕は開館以来、子どもの〈あそび〉を活動の基盤に据えて活動を続けてきた。あらためて基本に立ち返れば、〈あそび〉が子ども自身の興味や欲求をもとに、自分から進んで取り組む喜びに満ちた活動であり、〈あそび〉の中で自ら考え、学び、新しい能力を獲得し成長発達につながるからである。〔こどもの城〕の役割は、このような子どもたちの成長発達を支援するプログラムを提供することである。

本年度も幅広い年齢層の子どもたちに、より主体的・能動的な参加を促し、体育、音楽、造形、映像科学、プレイなどの専門分野の特質を生かし、子どもたちの個性に合わせた幅広い活動体験ができるように、さまざまな取り組みを行った。

体育部門では、体を動かす楽しさ、おもしろさを伝え、子どもの丈夫な体作りにつながるプログラムを提供した。音楽部門では音楽の楽しさと共感する喜びを、造形部門では、感性を豊かに育て、表現する喜びを伝えるプログラムを提供した。またプレイ部門では仲間と遊ぶ楽しさ、映像科学部門では映像遊びの楽しさや身の回りの不思議を楽しむ科学遊びを提供した。

最終年度ということもあり、各部門とも今まで蓄積してきた多くのプログラムを、より良い形で提供できるようにした。夏休み特別期間には「おもしろあそびコレクション」、冬休み特別期間から閉館する2月1日までは、「ありがとう30年！こどもの城ファイナル」とタイトルを付け、最後まで国立総合児童センターとしての機能を最大限に生かしたプログラムの提供を続けた。



造形スタジオ

【子育て家庭への支援活動】

〔こどもの城〕では、国が平成19年度から推進している、子育て支援の拠点づくりを行う「地域子育て支援拠点事業」に先駆け、平成3年度より子育て広場事業「赤ちゃんサロン」をスタートさせ、乳幼児とその保護者を支援する事業を実施している。

本年度は、「赤ちゃんサロン」を発展させた「0・1・2歳のぽかぽか広場」を中心に、子育て支援活動を行った。毎日行われている「0・1・2歳のぽかぽか広場」では、子育て親子に対して、保育

や看護師や栄養士といった小児保健を担うスタッフによる情報提供とともに、体育・音楽・プレイ・造形などの専門スタッフが、それぞれの立場からサポートした。また子育てを経験した女性ボランティアも多くかかわり、子育ての不安や悩みについていねいに対応した。

各部門においても、子育て親子のためのプログラムを多く提供した。体育部門では、親子のスキンシップ体操や、親子でスポーツを楽しむプログラム、音楽では、「うたってハッピー」や「ウキウキおんがく広場」といった親子で歌やダンスを楽しむプログラムなどを実施し、多くの親子が活動を楽しむとともに、他の親子との交流を進めた。

【講座・クラブ事業】

講座・クラブ事業は、専門性の高い職員の特性と設備をいかした体験活動を児童に提供することで、児童の興味や個性に合わせた形で、知的・社会的能力を高めるとともに、継続的・体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうことで、職員や講座・クラブの仲間との人間関係を醸成する機会となり、子どもたちの居場所としての機能も担ってきた。

特に中高生が多く所属する、「合唱団」「新体操」「L.I.T. = Leader In Training（高校生のボランティアクラブ）」などは、個々が興味を持つ活動を基盤に、世代・地域など多様性のある子どもたちがグループ活動を行うことで子どもたちの居場所の機能を果たし、思春期児童への対応プログラムとなっている。

本年度の講座・クラブ、短期講座、専門職講習の充足率は以下のとおりである。

- 講 座 …… 26 種、47 コース、受講者数 913 人、充足率 87.1%
(前年度 29 種、60 コース、受講者数 1,123 人、充足率 87.0%)
- ク ラ ブ …… 5 種、5 コース、受講者数 519 人、充足率 45.6%
(前年度 5 種、5 コース、受講者数 598 人、充足率 50.0%)
- 短期講習 …… 6 種、27 コース、受講者数 330 人、充足率 91.7%
(前年度 7 種、46 コース、受講者数 565 人、充足率 78.5%)

【貸切団体利用】

平日の午前中の時間は、プレイホールを中心とした場所を、保育所や幼稚園、小学校のクラス、また地域の子育てグループを対象として、貸切団体利用として受け付けた。使用する団体の利便性を考え、特別な場合を除いては、1 団体の専有とした。本年度の団体利用は、22 団体延べ 1,449 人であった。

■■■■ 東日本大震災復興支援事業 ■■■■

「東日本大震災」発生から 3 年以上の時間が経過したが、地震による子どもへの影響に対して、継続的で地道な支援が必要とされてきた。また、被災地以外の地域では、震災に対する市民意識が時間の経過とともに次第に希薄になることも危惧された。このような現状を踏まえ、本年度も〔こどもの城〕では、センターとしての機能を生かし、他の関係機関や全国の児童館との連携をはかり、被災した子どもたちへの復興支援事業を実施した。

こいのぼりを復興支援のシンボルとしてとらえ、全国の児童館などへ、こいのぼりの掲揚と関連プログラムの実施協力を呼びかける「忘れない！ みんなでゲンキに！ 児童館こいのぼりがいっぱいプロジェクト」は 3 年目となった。呼びかけに応じて北海道から沖縄まで全国から前年度を上回る約 500 館の参加があり、こいのぼりをテーマに全国でさまざまなプログラムを実施した。実施後には参加各館からさまざまな活動の様子が報告され、復興支援に対する市民意識の醸成を図ることができたようだ。



忘れない！ みんなでゲンキに！ 児童館こいのぼりがいっぱいプロジェクト

■■■ 人材育成への取り組み ■■■

児童厚生員の質的向上を図るための専門講習会やボランティアの育成など、児童健全育成活動や子育て支援活動の普及、推進に努める人材育成事業は〔こどもの城〕の大きな役割である。児童厚生員、放課後児童クラブ指導員、子育て支援の担当者などの専門職員向けに実施していた「専門職講習会」は、前年度をもって終了したが、本年度も全国の自治体や団体からの要請に応え、〔こどもの城〕の各専門分野からの「講師派遣」を 103 件行った。

また「ボランティアの育成」として、国庫補助事業においても児童健全育成事業に関わるボランティア養成講座のほか、〔こどもの城〕で活動するボランティアの年度更新講習会を実施した。また、大学、専門学校、大型児童館から実習生、研修生、高校生のボランティア体験などを受け入れた。

■■■ プログラムの普及と保存継承への取り組み ■■■

日本全国に設置された児童館のセンター館として建設された〔こどもの城〕として、子どもの成長発達や子育てを支援する先駆的で実験的なプログラムの開発を心がけ、そのプログラムを全国に



〈動くこどもの城〉

発信するという大きな役割がある。昭和 60(1985)年の開館以来、蓄積したプログラムを、地域児童館で実施できるプログラムに再構成し、平成 6(1994)年より国庫補助事業の〈動くこどもの城〉(児童館巡回支援活動等事業)として実施してきた。本年度も 47 か所で〈動くこどもの城〉事業を実施することで、全国の児童健全育成事業の普及、発展に努めた。

しかし、本年度末の〔こどもの城〕閉館に伴い、こうした全国への支援事業も途絶えることから、〈動くこどもの城〉で紹介したプログラムをはじめ、今までに開発してきたさまざまなプログラムから、より現場で活

用できるプログラムをデータ化した。あわせて、ボランティア育成マニュアル、中高生世代の支援に関するマニュアルなどもデータ化し、インターネット上で公開する準備を進め、本年度末に「こどもの城 Web ライブラリー」(<http://kodomonono-shiro-weblibrary.jp/>)として公開した。〔こどもの城〕閉館後も、今までの実績を生かし、全国の児童館への支援を継続させることは重要な使命だと考えている。

■■■ 全国児童館・児童クラブ大会 TOKYO ■■■

平成 27 年 1 月 24・25 日の 2 日間にわたり、全国の児童館・児童クラブや子ども・子育て支援などの関係者が集まり、子どもの育ちや子育ての現状を共有するとともに、児童の健全育成の推進に資する人的ネットワークの構築を目的に、「全国児童館・児童クラブ大会」が、〔こどもの城〕と青山劇場を会場にして開催された。

24 日の第 1 部には、全国から児童館・児童クラブ職員、行政担当者、研究者など 760 人が参加した。青山劇場を会場とした大会での基調提起では、全国で児童育成に携わる指導者から、「子どもの参画」「ソーシャルワーク力」「放課後の子ども」といった大会参加者が共有すべき 13 の課題が出された。その後参加者は、16 テーマの分科会と 5 か所への視察分科会に分かれ熱心に協議を行った。

25 日の第 2 部では、〔こどもの城〕研修室、ピロティにおいて、「遊びの城」と称して、都内近郊の児童館など 32 団体から、27 種類のさまざまな遊びのブースが出展され、関係者、一般参加者を合わせ 3,000 人以上の人でにぎわった。

2 日間をとおして、参加者が児童館・児童クラブの現状と課題を共有しながら、実践的な研究協議が行われ、大会が今後の児童館・放課後児童クラブの活動に生かされるものとなった。

■■■ こどもの城 30 年展 遊び・学び・育ち～子どもの福祉と文化～ ■■■

〔こどもの城〕は、芸術・文化・体育・映像科学・保育・小児保健といった分野からさまざまなプログラムを提供することによって、子どもの成長・発達を支援してきた。本年度末の閉館にあたり、〔こどもの城〕の30年間にわたる活動の歩み——①〔こどもの城〕の役割と成果 ②〔こどもの城〕の活動 ③各部門の役割と成果——を俯瞰する展覧会を開催した。会場を「数字で見るこどもの城」「こどもの城 1985～2015」「各部門の活動紹介」コーナーで構成し、写真や映像、プログラム資料などを展示した。

本展は、〔こどもの城〕が、子どもの健全育成や子育て支援の活動にどのように関わり、どのような役割を担ってきたかを振り返るとともに、〔こどもの城〕のマインドが、多くの担い手に引き継がれることを願う最後のメッセージとして発信する機会とした。会期中は、児童福祉にかかわる人をはじめ、〔こどもの城〕で3世代にわたりプログラム活動に参加してきた家族、初めて参加する親子など多くの来館児・者が訪れた。

最終日には〔こどもの城〕の最後の姿を見に来た人たちであふれ、コメントボードには閉館を惜しむ多くのメッセージが寄せられた。



こどもの城 30 年展 遊び・学び・育ち～子どもの福祉と文化～

■■■ 広報事業 ■■■

〔こどもの城〕の理念、活動内容をより多くの人に理解・認識してもらうことを目的にメディア各種を利用して広報活動に取り組み、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなど計164件の取材に対応した。特に、来館児・者が累計2,800万人突破(7月13日)、こどもの城活動エリア最終日(2月1日)には、多くのメディアから取材があった。

また、インターネットを利用した情報サイト閲覧者の伸びに対応するため、情報サイトへのイベント入力、ホームページの更新、Facebook、Twitter、ホームページのスマートフォン対応などをおした発信も継続した。

月間カレンダー約30,000部、ゴールデンウィーク特別期間ちらし31,000部、夏休み特別期間ちらし44,000部、ファミリーフェアちらし12,000部、こどもの城ファイナルちらし40,000部を作成し館内館外でのPRにつとめた。こども活動エリア最終日には「こどもの城の気持ち」ちらし10,000部を作成し、来館児・者や関係者へ感謝の気持ちを伝えた。

地域との連携を図る広報活動として、地域各エリアのネットワーク強化と集客を目的に以下の事業を継続して実施した。①渋谷・恵比寿・原宿地区21施設の「あらかるちゃー渋谷恵比寿原宿」の事務局メンバーとして参画。②赤坂・青山地域20施設のネットワーク「赤坂・青山共育情報局」に参画。

■■■ 新たな児童館運営への取り組み ■■■

〔こどもの城〕開館以来開発してきたプログラムや、安全・安心な施設運営を行うためのノウハウ、質の高い専門職の育成方法やそのカリキュラム、またボランティアなど市民を巻き込んだ児童健全育成事業の考え方やその手法などが、児童育成協会の財産として蓄積されている。そこで平成25年度から、この蓄積された財産を、今後の児童健全育成事業の普及・発展のために活用することを目的に、指定管理による児童館受託事業に取り組んだ。その結果、平成26(2014)年4月より埼玉県草加市氷川児童センター、9月からは東京都港区立麻布子ども中高生プラザの運営を受託して事業をスタートさせ、順調に初年度の運営を終えることができた。

■■■ 劇場事業 ■■■

児童健全育成事業の劇場としての意義を深めるために策定した「自主・提携公演の実施方針」に則り、子ども文化のすぐれた発信場所としての地位を保つよう努力するとともに、〔こどもの城〕施設全体の維持のための経済的な側面にも意識した事業運営を目指した。

自主（共催）・提携公演として、青山劇場で 2 公演、青山円形劇場で 20 公演を実施した。このうち「Dance New Air - ダンスの明日」は、文化庁の国際芸術交流支援事業に選ばれた。また、劇場公演の他に、若手舞台芸術家の育成を図るためのセミナー「APAS」(Aoyama Performing Arts Seminar) を 26 件実施した。

劇場貸与については、青山劇場が 16 件、青山円形劇場が 14 件であった。

□□□ 開館時間・入館料（こども活動エリア） □□□

■■■ 平常期間 ■■■

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日	12 時 30 分～17 時 30 分
土・日曜日、祝日	10 時 00 分～17 時 30 分
月曜日	休館（祝日・振替休日にあたる場合は開館。翌火曜日が休館）

■■■ 特別期間 ■■■

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）、児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、11 月 1 日の開館記念日を中心とするファミリーフェア（開館記念月間）を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

なお、5 月 5 日「こどもの日」と、〔こどもの城〕開館を記念した 11 月 3 日「文化の日」は“こども”の入館料を無料とした。開館時間は、特記した日を除き、10 時～17 時 30 分。

■児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間■ 4 月 29 日～5 月 6 日
 （4 月 30 日、5 月 1・2 日は 12 時 30 分開館）

■夏休み特別期間■ 7 月 19 日～8 月 31 日（7 月 22・28 日、8 月 4・11・18・25 日は休館）

■ファミリーフェア（開館記念月間）■ 11 月 1 日～11 月 30 日
 （11 月 4、10、17、25 日は休館、開館時間は平常期間と同じ）

■冬休み特別期間■ 12 月 20 日～平成 27 年 1 月 7 日
 （12 月 22 日、29 日～1 月 3 日は休館／12 月 24 日は 12 時 30 分開館）

■■■ 入館料 ■■■

【入館料】

- こども（18 歳未満）400 円（3 歳未満は無料）
- 大人（18 歳以上）500 円
 - ※回数券 こども（6 枚つづり）2,000 円／大人（6 枚つづり）2,500 円
 - ※団体（20 人以上）こども 320 円／大人 400 円
- ※5 月 5 日「こどもの日」と、〔こどもの城〕開館日を記念した 11 月 3 日「文化の日」は“こども”の入館料は無料

【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1 年間：1 月 30 日まで有効）大人	3,000 円
わくわくパス（夏休み期間限定）大人	1,800 円
ドキドキパス（夏休み期間限定）こども	1,500 円
小・中学生土曜日パス（1 年間：1 月 31 日まで有効）小・中学生	2,500 円

公益財団法人 児童育成協会の経営理念と運営方針

公益財団法人児童育成協会は児童福祉法の理念に基づき、児童の健全な育成および資質の向上ならびに文化および芸術の振興に寄与することを目的に下記の経営理念を掲げ、事業を運営する。

【経営理念】

- 「子どもは歴史の希望である」という基本理念に基づき、子どもたちの最善の利益をめざした活動を行う。
- 全国の児童館をはじめとした児童健全育成事業の普及および発展に努める。
- 児童健全育成に関する施設の運営をとおして、直接的な児童、保護者への遊びを通じた育ちの支援を行うとともに、そこで開発されたプログラムの発信、普及を行う。
- 児童健全育成に従事する専門職、ボランティア等への研修をはじめとした人材育成を行う。
- 児童福祉施設における給食の充実のための事業を行う。

【協会本部の運営方針】

協会本部組織の安定的、永続的な運営のために以下の方針を定める。

- 公益財団法人として社会的信頼性のある組織であるために、その運営体制、財務状況を常に把握し、組織の健全な運営をめざす。
- 職員 1 人 1 人が安心かつ意欲的、積極的に業務を行えるよう労務環境づくりを行い、また職員研修を積極的に行い、資質の高い職員の育成、確保に努める。
- 公益財団法人として公益性を発揮するためには、健全な経営の確保が不可欠であり、公益に資する事業活動を通じて収益を確保し、あわせて経費の削減に努める。

【事業の運営方針】

- 「すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない」という児童福祉法の理念に沿い、公平性、平等性に配慮した事業運営をめざす。また、不登校、虐待、発達障害など今日的福祉課題に正面から向き合い、配慮が必要な子どもたちに充分に対応できるような運営を行う。
- 障害の有無にかかわらず、子どもが自分らしく生活・活動できるよう地域の協力を得て、共生の社会をめざす。
- 子どもが自由に遊べ、自由に表現でき、自由に意見表明できる、子どもたちの居場所となるよう努めるとともに、子どもたちが施設の活動に参画できるようにする。
- 地域との連携を深め、地域ニーズの発掘を行い、地域と共に育つ、児童健全育成事業の拠点となる施設運営をめざす。
- 子どもたちがのびのびと自由に遊べる安心・安全な施設として、事故の予防や、事故への適切な対応が行える危機管理体制を整える。
- 災害時においても、安心安全な施設運営を可能にするため、地域と連携した防災対策に取り組む。
- 利用者からの要望やクレームは、施設への期待の表れとして真摯に受け止め、ただちに改善策を取りまとめる。また、こうした指摘がスムーズに職員に届くよう、日頃からの利用者との関係づくりに取り組むとともに、そのシステムづくりを行う。
- 子どもたちの未来のために、環境保全と調和のとれた活動によって社会に貢献する。廃棄物の減量と適性な処置、来館者に対するエコロジーにかんする啓発事業、子どもたちへの環境教育を積極的に取り入れる。
- ホスピタリティあふれる対応を心掛け、いつでも子どもたちや保護者の方や地域の方々が安心して来館できるように、笑顔があふれる児童館をめざす。

(平成 24 年 10 月 1 日改訂)

□□□ 施設・組織機構など □□□

■■■〔こどもの城〕の施設概要 ■■■

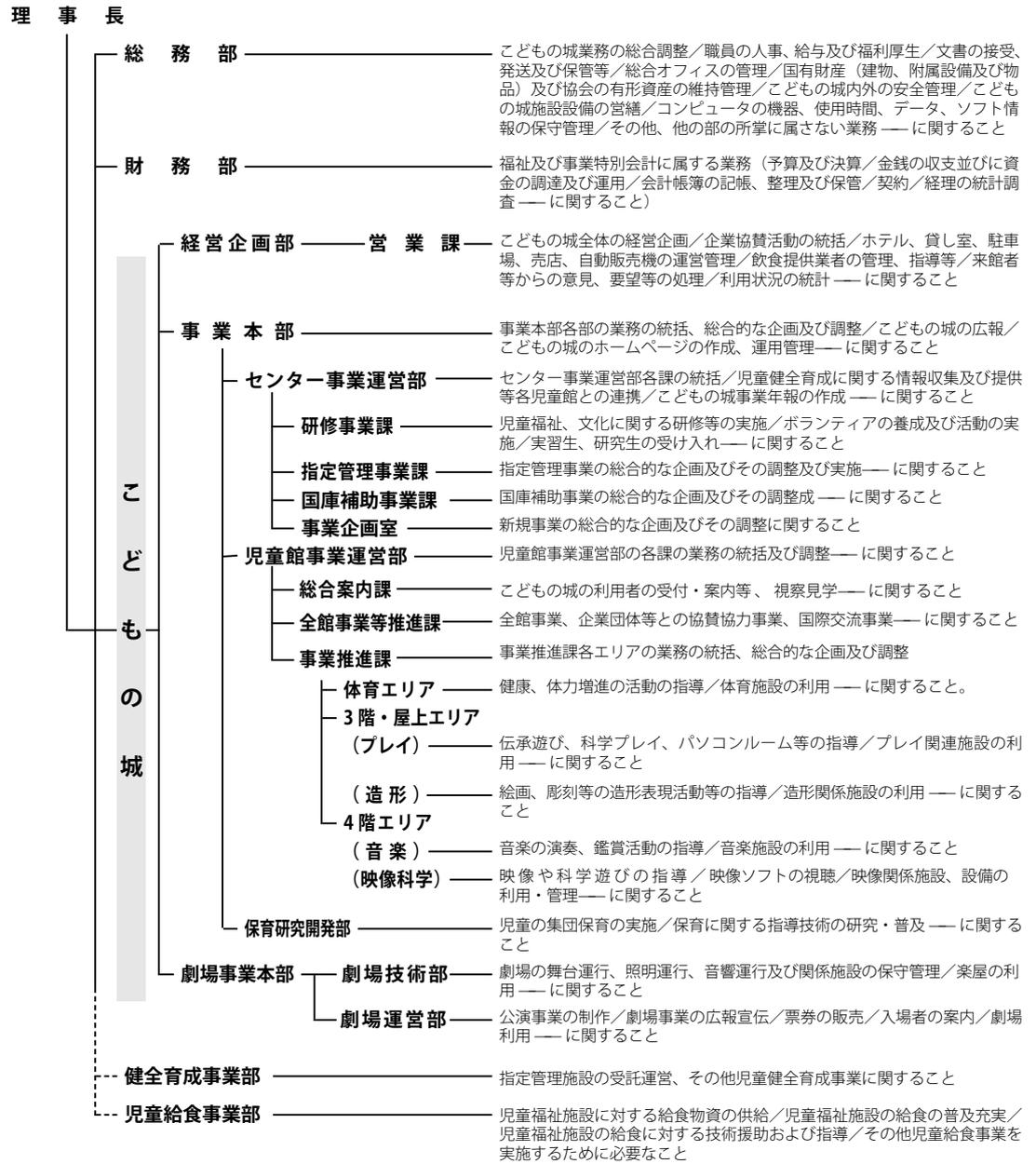
		オフィス	13 F 12 F 11 F 10 F		
		研修室	9 F 8 F		
		ホテル	7 F 6 F		
5 F	屋上遊園	保育室	5 F	ふしぎが丘	
4 F	ビデオライブラリー	音楽ロビー A・Bスタジオ	4 F		
3 F	造形スタジオ 青山円形劇場	プレイホール	3 F		
2 F	ギャラリー	屋外通路	ファミリーラウンジ	2 F	青山劇場
1 F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1 F	
B 1	プール観覧室	フリーホール	B 1		
B 2	体育室／プール／健康開発室		B 2		
		駐車場	B 3 B 4		

建築概要

所在地……………東京都渋谷区神宮前 5-53-1	最高高さ……………G L + 57.6 メートル
建築主……………厚生労働省（当時：厚生省）	基礎下端……………G L - 28.5 メートル
敷地面積……………9,923 平方メートル	主要構造……………高層部 鉄骨造り
建築面積……………6,001 平方メートル	低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り
延床面積……………41,699 平方メートル	地 下 鉄筋コンクリート造り
建ぺい率……………60.48%	着工……………昭和 56 年 11 月
容積率……………345.38%	完成……………昭和 60 年 9 月（11 月 1 日開館）
階数……………地下 4 階・地上 13 階・塔屋 1 階	

※〔こどもの城〕は 1979 年（昭和 54 年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて、公益財団法人 児童育成協会が当たっている。

■■■〔こどもの城〕組織機構図■■■



部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計
総務	3	1	1	4	指定管理事業課	0	0	0	0	事業推進課	15	0	0	15
財務	2	0	0	2	国庫補助事業課	2	0	0	2	保育研究開発	5	0	0	5
経営企画	6	0	0	6	事業企画室	0	0	0	0	劇場事業本部	1	0	0	1
事業本部	1	0	0	1	児童館事業運営	1	0	0	1	劇場技術	5	0	0	5
センター事業運営	1	0	0	1	総合案内課	3	0	0	3	劇場運営	6	0	0	6
研修事業課	0	0	0	0	全館事業等推進課	0	0	0	0	合計	51	1	1	52

※事業推進課の内訳（課長 1、体育 4、プレイ 3、造形 3、音楽 2、映像科学 2）

■■■ 公益財団法人児童育成協会役員（平成 27 年 3 月 31 日現在） ■■■

役職	氏名	役職	氏名
理事長	藤田 興彦 (一財)こども未来財団理事長	理事	山口規容子 総合母子保健センター 愛育病院名誉院長
理事	荒川 春 (一社)中高年齢者雇用福祉協会理事長	監事	秋山 昭八 弁護士
理事	鈴木 一光 (一財)児童健全育成推進財団理事長	監事	藤間 秋男 公認会計士

□□□ こどもの城の付帯事業 (平成 27 年 2 月 1 日現在) □□□

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
貸し室	研修室	8・9・10 階	研修室 11 ※ 400 人位まで可	無休 (12 月 28 日～1 月 2 日を除く) 営業時間 = 9:00 ～ 21:00	研修および会議など ※ 1 単位時間 13,720 円～
	ギャラリー	1 階 アトリウム		無休 (12 月 28 日～1 月 2 日を除く) 営業時間 = 10:00 ～ 17:30	各種展示会など ※ 1 日 51,420 円
物品販売	アイタイム・キッズ	1 階 アトリウム	1 か所	営業時間 = 「こども活動エリア」開館日の平日、土日祝共 12:30 ～ 17:30	世界各国のおもちゃ、知育玩具など
	自動販売機	館内各所	飲食販売 40 カプセルトイ 2	無休	ドリンク類、牛乳類、スナック類など
公衆電話		館内各所	1 か所 2 台	無休	
駐車場		屋内 (地下 2 階～地下 4 階)、屋外 (1 階)	約 126 台 (業務車両分含む)	無休 (12 月 28 日～1 月 2 日を除く) 営業時間 = 8:00 ～ 22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型車両は屋外 (1 階) に駐車 ※普通車両 30 分 300 円 マイクロ車 1 時間 840 円 大型車 1 時間 1,260 円
飲食関係	カフェキャッスル	1 階	100	こどもの城開館日、劇場公演日に合わせて営業 11:00 ～ 20:00	親子カフェ
	劇場内「スナック」	青山劇場内 地下および 2 階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間 = 開演前・幕間	喫茶、軽食

平成26年度活動一覧表

□□□ 来館児・者数 □□□

月	一般来館児・者			劇 場			その他	計
	有 料	総 数		青山劇場	青山円形劇場	小 計		
4月	大人	(人) 8,972	(人) 23,599	(人) 17,851	(人) 8,138	(人) 25,989	(人) 6,306	(人) 55,894
	子ども	6,886						
	団体	350	推計					推計
	受講生など	7,391	(28,092)					(60,387)
5月	大人	10,278	23,226	27,415	4,667	32,082	6,587	61,895
	子ども	4,735						
	団体	587	推計					推計
	受講生など	7,626	(28,373)					(67,042)
6月	大人	9,956	22,471	16,748	7,819	24,567	8,102	55,140
	子ども	5,698						
	団体	602	推計					推計
	受講生など	6,215	(27,455)					(60,124)
7月	大人	12,112	26,492	33,542	7,059	40,601	7,510	74,603
	子ども	8,327						
	団体	782	推計					推計
	受講生など	5,271	(32,557)					(80,668)
8月	大人	19,237	40,087	34,756	5,530	40,286	7,385	87,758
	子ども	15,774						
	団体	1,643	推計					推計
	受講生など	3,433	(49,712)					(97,383)
9月	大人	10,018	21,094	24,912	3,942	28,854	6,438	56,386
	子ども	5,563						
	団体	339	推計					推計
	受講生など	5,174	(26,108)					(61,400)
10月	大人	9,449	21,296	20,276	6,663	26,939	6,430	54,665
	子ども	4,863						
	団体	854	推計					推計
	受講生など	6,130	(26,028)					(59,397)
11月	大人	11,821	26,036	21,326	3,824	25,150	8,837	60,023
	子ども	6,228						
	団体	1,064	推計					推計
	受講生など	6,923	(31,955)					(65,942)
12月	大人	8,796	18,494	18,298	9,398	27,696	5,416	51,606
	子ども	5,139						
	団体	386	推計					推計
	受講生など	4,173	(22,898)					(56,010)
平成27年 1月	大人	17,217	38,670	29,365	3,597	32,962	8,500	80,132
	子ども	10,322						
	団体	1,984	推計					推計
	受講生など	9,147	(47,283)					(88,745)
2月	大人	2,441	9,879	0	0	0	8,210	18,089
	子ども	1,563						
	団体	43	推計					推計
	受講生など	5,832	(11,100)					(19,310)
3月	大人	0	2,506	0	0	0	0	2,506
	子ども	0						
	団体	0	推計					推計
	受講生など	2,506	(2,506)					(2,506)
計	大人	120,297	273,850	244,489	60,637	305,126	79,721	658,697
	子ども	75,098						
	団体	8,634	推計					推計
	受講生など	69,821	(334,067)					(718,914)

注) 「一般来館児・者」の“推計”は3歳未満の推定来館児数含む／「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生の合算／「その他」は、宿泊施設・研修室等利用者

貸切団体利用状況

		保 育 所	幼 稚 園	小 学 校	中 ・ 高 校	特 別 支 援 学 校	特 別 支 援 学 級	児 童 福 祉 施 設	自 主 保 育 グ ル ー プ	計
件数		1	17			1		1	2	(件) 22
月 別 内 訳	4月		1							1
	5月		2							2
	6月	1								1
	7月		3							3
	8月									
	9月									
	10月		5			1		1		7
	11月		2							2
	12月		2							2
	平成 27 年 1月		2						2	4
	2月									
	3月									
地域別 内訳	東京都	区	1	15			1	1	1	19
		市		1						1
	他府県		1						1	2
利用数	延べ人数	34	1,206			29		90	90	1,449

注)「児童福祉施設」は、保育所以外

広報活動

名 称	日 時	内 容
ホームページの運用	通年	催し物情報の提供を中心に運営。日替りプログラム、季節プログラム、特別プログラム、遊び場の紹介、事前申し込み制で行う講座・講習会の募集案内などの情報をほぼ毎日更新。 このほか、公益財団法人児童育成協会、〈動くこどもの城〉など、計4サイトの更新と運営を行っている。
インターネットで行う広報	随時	ホームページの更新に加え、Facebook、Twitter を利用した広報活動として毎日記事と画像を掲載、情報の発信に努めた。
特別期間のちらしの作成	特別期間開始日の1か月前	以下の催し案内ちらし・ポスターなどを、合わせて 500,000 部を作成した。 季節イベントのちらしは以下のとおり。 ○児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間ちらし (A4判/4色×2色/31,000部) ○夏休み特別期間ちらし (B4判2つ折り/4色×4色/44,000部) ○ファミリーフェア特別期間ちらし (B4判2つ折/4色×4色/12,000部) ○こどもの城ファイナル+冬休み特別期間ちらし (B4判/4色×4色/24,000部) ○こどもの城のきもち (A4判2つ折/4色×4色/10,000部)

名 称	日 時	内 容
その他の広告		
ウェブ	通年	以下のサイトに定期的に情報を入力し配信機能を使って広報活動を行った。 毎日新聞の情報紙ウェブ版「エリア毎日」/ Event Bank (㈱イベントバンク) / るるぶ .com その他不定期に情報掲載されるサイトへも基本情報などを入力した。
読者プレゼント・割引クーポン	随時	ファミリー向けの雑誌に割引クーポン、招待券プレゼントなどで協力し、適宜記事を掲出した。 「るるぶこどもとあそぼ! 首都圏版」(JTB パブリッシング) / 「るるぶこどもとあそぼ! 夏休み」(JTB パブリッシング) / 「まっふる 家族でおでかけ 夏号」(昭文社) / 「まっふる 家族でおでかけ 秋号」(昭文社) / 「春びあ首都圏版」(びあ) / 京王電鉄「子育てファミリーマップ」
取材関係	通年	取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。約 10,000 件のニュースリリースを行った。 取材の申し込みを受け、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり (カッコ内は前年度の数)。 新聞 47 (39)、テレビ・ラジオ 26 (15)、雑誌 37 (61)、その他 54 (63) で、全体では 164 (178)。
あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿	通年	渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力して PR 活動などを行う。NHK スタジオパーク、渋谷公会堂、東急シアターオーブ、トーキョーワンダーサイト渋谷、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリー TOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、地球環境パートナーシッププラザ、国連大学ギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、東京都立中央図書館、エビスビール記念館、山種美術館、国立オリンピック記念青少年総合センター、東京都写真美術館、こどもの城の 21 施設が参加。本年度は事務局の一員として会の運営に主体的にかかわった。 「渋谷区民まつり ふるさと渋谷フェスティバル」(11 月) に参加して「あ・ら・かるチャー」を PR した。「トークセッション 2020 渋谷 文化が動かすまちづくり」を 3 月に開催し、渋谷の魅力を再確認しながら、文化施設の可能性を探った。
青山・赤坂 子どもいっしょ 共育情報局	通年	赤坂・青山地区の子どもを対象とする施設・団体が集まり、交流・情報交換を行い、子ども向け事業の情報提供を行った。赤坂小学校、青山小学校、青南小学校、赤坂中学校、青山中学校、青少年対策赤坂地区委員会、青少年対策青山地区委員会、青山児童館、赤坂子ども中高生プラザ「なんで〜も」、赤坂図書館、NPO 法人 檜町公園遊びを考える会、サントリー美術館、21-21 DESIGN SIGHT、フジフィルムスクエア、先端技術館@TEPIA、すみっこ文庫、青山ライオンキッズクラブ、港 SC、みなとスポーツ吹矢会、こどもの城の 20 施設・団体が参加している。定期的な情報交換を行った。

□□□ 視察・見学実績 □□□

年 度	都道府県・市区町村 の本庁その他の行政 部局、公共団体		児童館、保育所、幼 稚園、学校、施設、サー クルなどの団体		海外からの 視察・見学		そ の 他		計	
昭和60年度	(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240) 3,279	
61年度	(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396) 5,671	
62年度	(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286) 3,700	
63年度	(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222) 1,875	
平成元年度	(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178) 1,753	
2年度	(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117) 1,265	
3年度	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127) 1,473	
4年度	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155) 1,780	
5年度	(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167) 2,040	
6年度	(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195) 2,293	
7年度	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272) 2,865	
8年度	(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278) 2,280	
9年度	(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261) 2,330	
10年度	(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263) 2,293	
11年度	(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289) 2,083	
12年度	(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280) 1,377	
13年度	(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286) 1,460	
14年度	(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226) 1,501	
15年度	(8)	14	(152)	965	(19)	149	(8)	14	(187) 1,142	
16年度	(5)	53	(156)	1,084	(14)	135	(6)	13	(181) 1,285	
17年度	(5)	41	(198)	924	(15)	300	(13)	35	(231) 1,300	
18年度	(3)	31	(184)	1,267	(15)	229	(2)	7	(204) 1,534	
19年度	(1)	2	(175)	903	(19)	192	(6)	21	(201) 1,118	
20年度	(11)	29	(145)	604	(17)	136	(2)	29	(175) 798	
21年度	(12)	32	(121)	441	(17)	210	(3)	43	(153) 726	
22年度	(9)	33	(123)	652	(11)	145	(6)	42	(149) 872	
23年度	(37)	271	(79)	190	(9)	92	(1)	1	(126) 554	
24年度	(6)	21	(90)	917	(8)	135	(0)	0	(104) 1,073	
25年度	(13)	45	(96)	633	(10)	89	(9)	23	(128) 790	
平成26年度 (月別)	4月	(0)	0	(2)	4	(3)	32	(0)	0	(5) 36
	5月	(0)	0	(9)	47	(0)	0	(0)	0	(9) 47
	6月	(1)	2	(4)	54	(0)	0	(0)	0	(5) 56
	7月	(0)	0	(5)	43	(0)	0	(0)	0	(5) 43
	8月	(3)	8	(6)	21	(0)	0	(0)	0	(9) 29
	9月	(1)	1	(9)	165	(1)	2	(0)	0	(11) 168
	10月	(0)	0	(17)	85	(1)	5	(0)	0	(18) 90
	11月	(1)	5	(8)	38	(0)	0	(0)	0	(9) 43
	12月	(0)	0	(8)	36	(1)	5	(0)	0	(9) 41
	H271月	(1)	1	(14)	53	(0)	0	(0)	0	(15) 54
	2月	(0)	0	(1)	2	(0)	0	(0)	0	(1) 2
	3月	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0) 0
	合 計	(7)	17	(83)	548	(6)	44	(0)	0	(96) 609
累 計	(1,540)	11,418	(3,744)	33,247	(506)	5,116	(383)	3,338	(6,173) 53,119	

注) ()内は、団体数。
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

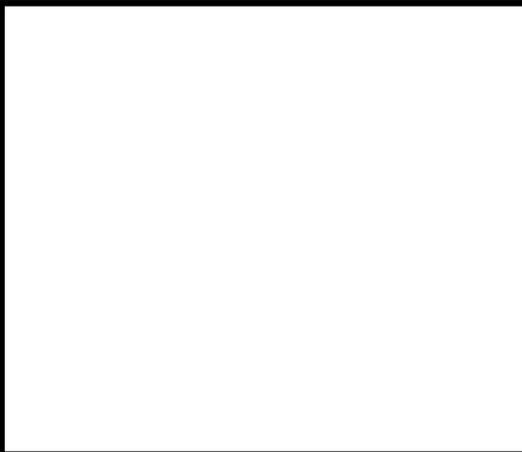
2

こどもの城から全国へ

こどもの城から 全国へ



〈動くこどもの城〉造形ワークショップ(香川県)



全国児童館おりがみ作品展：制作風景(鹿児島県)

平成 26 年度の活動

〔こどもの城〕は国立の総合児童センターとして、子どもたちに遊びの環境を提供するだけでなく、全国の児童館などの健全育成事業に携わる関係者とさまざまな情報を交換し、交流を図ってきた。さらに体育、造形、音楽、映像などの分野で、専門スタッフが先駆的・実験的なプログラム開発を行うと同時に、その成果を公開して多くの人の検証を受け、児童の健全育成の向上に寄与してきた。

本年度も国庫補助金による事業として地域の健全育成事業支援のため「児童館巡回支援活動等事業」〈動くこどもの城〉を実施。全国各地の児童館・児童センターなどと交流を深めながら、〈あそび〉のプログラムや子育てを応援するプログラムのノウハウを紹介し、地域活動の活性化を図った。

本年度は、「子どもとその家族を対象とした活動」を 11 か所で実施し、参加者が 89,896 人、児童館などの指導スタッフ 531 人が参加した。また、「児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会」は 27 か所で実施し、435 人の児童館などの指導スタッフが参加した。このほか、「全国児童館おりがみ作品展巡回展」では前年度募集した“私たちの自然”をテーマにした全国 23 館からの折り紙作品を、引き続き全国 20 か所で巡回展を開催。延べ 31,140 人が訪れ、子どもたちの作品を鑑賞した。

〈動くこどもの城〉は、児童館を中心とした児童健全育成施設を対象としているが、子育て支援も視野に入れ、放課後児童クラブ、子育て支援センター、保育所などさまざまな施設から参加できるように働きかけ、地域全体の活性化を図るように努めた。さらに国が推進する両立支援施策に対応して、「放課後児童クラブボランティア養成講座」を 24 か所(880 人参加)で、「保育所ボランティア養成講座」を 24 か所(866 人参加)で実施した。また、全国の自治体や団体からの要請を受けて行う講師派遣にも積極的に取り組んだ。本年度 103 件(平成 25 年度 121 件)となった。

テキストや DVD など、教材の充実にも努めた。本年度は、〔こどもの城〕の活動の実践をもとにした遊びのプログラム集「児童館の活動に活用できる遊びのプログラム 4」と DVD「こどもの城活動事例集 9 HOW to 音楽あそび」を作成した。さらに、〔こどもの城〕で実践した活動プログラムの事例集や記録などを閉館後も全国の児童健全育成施設で活用できるようにデジタル化し、保存・継承できるようホームページ上に掲載した。

〈動くこどもの城〉が始まり 20 年が経過したが、常に全国の多くの児童館や児童福祉施設等から要望があった。〔こどもの城〕から発信してきたことは、30 年を経ても、決して古いものではなく今後も必要とされるものと確信している。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 〈動くこどもの城〉(派遣プログラム) ほか □□□

■■■ 〈動くこどもの城〉プログラム一覧 ■■■

名 称	内 容	
■子どもとその家族を対象とした活動■		
乳幼児とその家族を対象とした子育て支援	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	音楽や楽しい遊具を使い、赤ちゃんの成長に合った体操でスキンシップ。赤ちゃんの豊かな表情や動きの再発見で、日ごとに成長していることを実感し、お母さんもリフレッシュ。
	親子のふれあい体操“1・2・3”	1・2歳または、2・3歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながらふれあい、子どもの成長を感じながら、コミュニケーションを楽しむ。
	親子いっしょにうきうき!おんがくあそび!	音楽にあわせて体を動かしたり、親子で手遊び・歌遊びなど。子どもの成長に応じた「親子のふれあい」「家族では得難い集団での遊び」を紹介。
	親子で遊ぼう! パペットランド	身近にあるものを人形に見立てて遊ぶ、“親子のふれあい”プログラム。対象年齢別に、1歳6か月～3歳向けの「ふれあい遊び」と、3歳以上向けの「劇遊び」がある。
	ほかほか広場 乳幼児と親のための交流広場	“ふれあい広場”の実践を紹介。①「広場」での子育て学習会(小児保健部門ほか) ②「広場」で遊ぼう(音楽・保育部門ほか) ③身近なもので遊ぼう(プレイ部門ほか)
幼児や学童を対象とした遊び	身近な道具でスポーツあそび	身の回りにある道具(新聞紙・棒・ひもなど)を使い、人数や場所の広さに合わせ変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開。
	「おにごっこ」で楽しい体力づくり	基本的な体力の低下が危ぶまれている現代。体力のなかでも「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームやおにごっこなどのスポーツ遊びを多彩に展開。
	アニメ・ワークショップ	2枚の簡単な絵を描いて作る「くるくるアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ「視覚がん具」の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。「視覚がん具」などの展示も行う。
	写真ワークショップ	写真の“写る仕組み”を体験するプログラム。レンズを使わない紙の「ピンホールカメラ」を作るワークショップ。写真の仕組みや歴史を探る展示も。
	こどもの城映画劇場	子ども向けに作られた、国内外の芸術的な短編アニメーション作品の上映。基本的に、こどもの城フィルム・コレクション「武藤行雄記念文庫」の収蔵作品から数本を選んで上映。
	科学あそびにチャレンジ 音のふしぎ	音を作る不思議な世界を体験。糸電話の工作、録音した声を逆再生して正しく聞こえる“言葉”作り、音の波形(図形)を描いて音にするプログラムなど、幅広く紹介。
	みんなで遊ぼう! パペットランド	人形作りと人形遊び。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作成。作った人形でお話をしたり、ごっこ遊びを繰り広げたりと、イメージの世界を楽しむ、人形遊びのプログラム。
	レクリエーションゲーム大会 「忍者マスター決定戦」ほか	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出し楽しむ交流プログラム。忍者の世界や魔法使いなど、さまざまなストーリーを設定しゲームを展開。
	お父さんの少年時代	昭和30～40年代の〈あそび〉の展示。めんこ、べいごま、たこ、日光写真などの遊び道具の展示をきっかけにして、親子のコミュニケーションを図り、昔遊びのエッセンスを体験。
展示とワークショップ	造形ワークショップ展	[こどもの城]造形スタジオのプログラムを、視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。そのなかからいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。
	児童館を拠点としたネットワークづくり	さまざまな地域の事例に基づき、ネットワーク作りについて学ぶ【研修】。おもちゃの交換を中心とした“子どもの街”「とり+かえっこ」を通じたネットワーク作りの【実践】。

名 称	内 容
■児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会■	
○ 親の生きかたを支援	親子で遊べるあそびのメニュー 児童館や保育所、子育て支援センターなどで行う、子育て広場や子育てサークルなどの親子(幼児)対象の催しに活用できる遊びのメニューを紹介する研修会。
	子どもの保健～食生活、健康管理について 乳幼児から学童期の子どもたちの“健康”をテーマに、管理栄養士、看護師が研修。「食生活について」「応急処置と健康管理について」
遊 び の 実 技 研 修	不思議な映像実験室 驚き盤などの“視覚がん具”の制作をとおして〈映像〉が動いて見えるしくみ、〈映像〉の不思議、〈映像〉を作る楽しさ、おもしろさを体験。
	音楽表現活動の実際 乳幼児や学童にとって、五感に響く“音楽遊び”とは何か、また、児童館でできる“音楽表現”とは何かなどを、実践を紹介しながら体験する。
	造形ワークショップ 素材・発想・技法などで、さまざまなプログラムが生まれる。何種類かのプログラムを参加者と体験制作し、それが生まれる考え方や、発想法についても考える。
児童福祉施設で活動する人のために	放課後児童クラブボランティア養成講座 放課後児童クラブの事業、そこでのボランティア活動の可能性、対象児童の発達に関する基礎的な知識などの概要を学ぶ。
	保育所ボランティア養成講座 保育所でのボランティア活動の可能性、対象児童の発達に関する基礎的な知識などを学ぶ。受け入れ側を対象にしたコースもある。
	放課後児童クラブの職員等を対象とした研修会 放課後児童クラブの職員やボランティアなどを対象に、子どもの発達や成長についての理解を深める研修会。「ワークショップ：遊びを通して子どもを理解する」「事例検討会議の実践」「子どもの遊びを支える大人の役割」から選択。

■全国児童館おりがみ作品巡回展■

お り が み	全国児童館おりがみ作品展 各地の児童館活動のなかで制作した折り紙作品の展示。全国の児童館に参加を募り、前年度寄せられた23作品を引き続き全国で巡回展を実施。
---------	--

■■■〈動くこどもの城〉派遣実績一覧■■■

開催地	開 催 団 体	実 施 日 時	プ ロ グ ラ ム 名	研 修	実 践	展 示	養 成
福岡県	岡垣町子ども未来館	5月10(研修)・11日(プログラム)	身近な道具でスポーツあそび ほか	●	●		●○
福島県	社会福祉法人 福島福祉施設協会福島市野田児童センター	6月4日	「とり+かえっこ」を通じたネットワークづくり	●	●		●○
福島県	福島県児童館連絡協議会	6月14日	レクリエーションゲーム大会	●	●		●○
愛知県	公益財団法人愛知公園協会 愛知県児童総合センター	6月18日(研修)・7月19日～8月31日(個別)	造形ワークショップ展	●		●	●○
山口県	山口県児童センター	6月19日	身近な道具でスポーツあそび	●			●○
兵庫県	社会福祉法人 姫路市社会福祉事業団	6月23日	親子のふれあい体操“1・2・3” ほか	●	●		●○
徳島県	徳島県子育て総合支援センター	7月4日	親子で遊べるあそびのメニュー	●			●
福井市	社会福祉法人 福井市社会福祉協議会	7月8日	造形ワークショップ～素材ア・ラ・カルト～	●			○
長野県	須坂市教育委員会 中央児童センター	7月10日(研修)・11日(プログラム)	親子いっしょに うきうき!おんがくあそび!	●	●		●○
佐賀県	社会福祉法人 鳥栖市社会福祉協議会	7月15日	親子のふれあい体操“1・2・3”	●	●		●○
岩手県	東日本大震災いわて子ども支援センター	7月17日	親子で遊ぼう!パペットランド	●			●○
埼玉県	草加市立氷川児童センター	8月23日	「とり+かえっこ」を通じたネットワークづくり			●	●○
神奈川県	公益財団法人 藤沢市みらい創造財団	9月10日	音楽表現活動の実際	●			○
東京都	墨田区立コミュニティ会館	9月18日	親子で遊べるあそびのメニュー	●			●
東京都	西東京市立児童館児童センター	9月19日	子どもの保健～食生活について	●			●○
山形県	社会福祉法人ふたば保育園ふたば児童館	9月26日(研修)・27日(プログラム)	身近な道具でスポーツあそび	●	●		●○
愛知県	高浜市社会福祉協議会中央児童センター	9月30日	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップほか	●	●		●○
山梨県	山梨県教育庁社会教育課	10月2日	音楽表現活動の実際	●			●○
富山県	富山県児童館連絡協議会	10月16日	造形ワークショップ～素材ア・ラ・カルト～	●			●○
宮城県	気仙沼市立古町児童館	10月20日	身近な道具でスポーツあそび	●	●		●○
大阪府	大阪狭山市立子育て支援センター	10月21日	親子で遊ぼう!パペットランド	●			●
香川県	公益財団法人香川県児童・青少年健全育成事業団せぬきこどもの国	10月31日(研修)・11月1日(プログラム)	造形ワークショップ～アートとあそぼう～	●	●		○

開催地	開催団体	実施日時	プログラム名	研修	実践	展示	養成
愛媛県	松山市南部児童センター	11月6日(研修)、7日(プログラム)	親子いっしょにうきうき! おんがくあそび!	●	●		●○
千葉県	千葉県児童館連絡協議会	11月17日	造形ワークショップ～素材ア・ラ・カルト	●			●○
埼玉県	NPO 法人新座子育てネットワーク	12月1日	造形ワークショップ～音・光体験ワークショップ	●			●○
広島県	広島市教育委員会放課後対策課	12月1日	身近な道具でスポーツあそび	●			●○
大分県	大分県児童館連絡協議会	12月14日	親子で遊べるあそびのメニュー	●			●○
福岡県	公益財団法人宗像ユリックス・赤間小学校学童保育所	4月3～13日	全国児童館おりがみ作品巡回展 <small>(ひまわり展)</small>			●	
鹿児島県	キッズランド児童館	4月22日～5月18日	〃			●	
新潟県	小中川児童館・こどもの森(共催)	5月24日～6月7日	〃			●	
群馬県	ぐんまこどもの国児童会館	6月13～22日	〃			●	
京都市	京都市久我の杜児童館	6月28日～7月5日	〃			●	
さいたま市	さいたま市立岩槻・仲本児童センター	7月1～6日	〃			●	
三重県	社会福祉法人明照浄済会 明照児童館	7月12～16日	〃			●	
愛知県	城東児童センター(犬山市)	7月22～30日	〃			●	
福島県	社会福祉法人福島福祉施設協会 福島市野田児童センター	7月24～31日	〃			●	
福井県	福井市すぎのこ児童館	8月6～13日	〃			●	
愛媛県	えひめこどもの城	8月19～31日	〃			●	
三重県	三重県立みえこどもの城	9月13～28日	〃			●	
岡山県	勝央美術文学館	10月5～26日	〃			●	
愛媛県	西予市野村児童館	10月11～20,25日,11月15～21日	〃			●	
山梨県	富士河口湖町教育委員会	11月1～8日	〃			●	
埼玉県	草加市立氷川児童センター	11月14～23日	〃			●	
千葉県	船橋市薬円台児童ホーム	11月27日～12月3日	〃			●	
大分県	豊後高田市児童館	12月10～14日	〃			●	
東京都	港区立麻布子ども中高生プラザ	12月8～14日	〃			●	
栃木県	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 子ども総合科学館	12月20日～平成27年1月7日	〃			●	

注)「養成」欄の「○」は「放課後児童クラブボランティア養成講座」を実施したところ。
 「●」は「保育所ボランティア養成講座」を実施したところ。



〈動くこどもの城〉造形ワークショップ(富山県)

〈動くこどもの城〉身近な道具でスポーツあそび(宮城県)



3

各部の事業

全館事業



第20回赤ちゃん大集合



こどもの城30年展



入館者2,800万人セレモニー

平成26年度の活動

全館事業部門では、「こどもの城」全体として行う事業や〈子ども活動エリア〉の各部門が協同で実施するプログラムの企画・調整を行った。また外部団体との協力・連携事業、国際交流事業などを担当した。「こどもの城」事業の最終年度となった本年度は、「こどもの城」の30年間のまとめとなる多くの事業を実施した。

乳幼児親子向けの支援プログラムについては、引き続き「0・1・2歳のぼかぼか広場」を実施。運営は順調に進んだ。10月に行われた「赤ちゃん大集合」では、495組の親子が集まり、多くのプログラムのほか、乳幼児関連の企業による情報コーナーなど、「こどもの城」全体が乳幼児親子でにぎわいを見せた。また、9月には前年度行わなかった「秋まつり」を再開した。屋上のふしぎが丘を夜7時まで開放し、スタッフ、ボランティア、多くの地元のみなさんとともに、食べ物やゲームの模擬店を楽しみ、つながりを深めた。

本年度も他の関係機関や全国の児童館と連携し、被災した子どもたちへの復興支援事業を実施した。こいのぼりを復興支援のシンボルとし、全国の児童館などへ、こいのぼりの掲揚と関連プログラムの実施を呼びかける「児童館こいのぼりがいっぱいプロジェクト」は3年目となった。全国から約500館の参加があり、実施後には参加各館からさまざまな活動の様子が報告された。

他の児童関係団体や組織との共催、協力事業もさまざまな事業を実施した。日本折紙協会の「おりがみカーニバル」の実施、渋谷ユネスコ協会が開催する国際理解、国際平和を願う「ヒト展」、ハンガリー・スロバキア・チェコ・ポーランドの4か国と日本の交流事業「V4 + JAPAN 絵本と鬼ごっここのつどい」の実施など、多くの子どもに関する団体と協力し、児童の文化や福祉を促進するための活動を広く実施し、その意義を社会に向けて発信する機会とした。

「こどもの城」閉館に向けた全館事業として、2つの事業を実施した。「全国児童館・児童クラブ大会」では、全国から集まった760人の児童厚生員が、子どもの居場所や遊びについて研究協議し、今後の子ども・子育て支援のあり方を考えた。児童館や児童クラブの存在の大切さをアピールした。

「こどもの城30年展」では、子どもの成長・発達を支援してきた「こどもの城」の30年間にわたる活動の歩みを、写真や資料を展示し紹介した。期間中には、多くの健全育成関係者とともに、「こどもの城」で子ども時代を過ごした人が、親となって自分の子どもとともに来館し、なつかしむ姿も多くみられ、人を育てるという「こどもの城」の大切な役割を、改めて確認することになった。そしてこの「こどもの城30年展」が、「こどもの城」の全館としての最後の事業となった。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 (全館事業など) ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
0・1・2歳の ほかほか広場	通年 11:00～16:00	3か月～2歳11か月の乳幼児と保護者のための遊び場、居場所。さまざまなおもちゃを用意し、乳幼児親子がゆったりとすごせ、他の親子との交流もできる場となった。またスタッフが常駐し利用者に支援を行った。 (A スタジオ、保育室 2)
忘れない!みんなでゲンキ! 児童館こいのぼりがい っぱい!プロジェクト	4.1～5.31	東日本大震災から3年が経過する中で復興支援事業として、[こどもの城]が全国に呼びかけた、児童館で遊ぶことで"ゲンキになろう"という趣旨のプロジェクト。全国約500の児童館が参加。4月13日にはオープニングセレモニーとして、こどもの城児童合唱団・混声合唱団の歌を楽しみながら、掲揚式を行い、[こどもの城]正面広場を利用して、日本鯉のぼり協会から寄贈された100匹のこいのぼりを掲揚した。共催:(一財)児童健全育成推進財団、(社福)こどもの国協会。協力:日本鯉のぼり協会。(ピロティ)
V4 + JAPAN 絵本と 鬼ごっこのつどい	6.1	ハンガリー、スロバキア、チェコ、ポーランドのヴィシエグラード4か国(V4)と日本の子どもたちとの国際交流を目的としたプログラム。各国の絵本の読み語り、鬼ごっこを4か国と日本の子どもたちが一緒に楽しんで交流を深めた。共催:ハンガリー大使館、協力:鬼ごっこ協会。(アトリウム、体育室)
きいてみようみてみよう みんなの ガムランコンサート	7.6、11.9	インドネシア・ジャワ島の青銅打楽器アンサンブル、ガムランのコンサート。[こどもの城]の内外で活動するガムラングループと元ガムラン講座の子どもたちがコラボレーション。ガムラン体験コーナーも設けた。(アトリウム)
入館者 2,800 万人 記念セレモニー	7.13	[こどもの城] 来館児・者の合計が、2,800万人に達した。記念セレモニーを実施し、2,800万人目の来館者には感謝状と記念品を授与した。(アトリウム)
秋まつり	9.20・21 15:00～19:00	夕方から夜の[こどもの城]を親子で体験する特別プログラム。食べ物や的当てなどゲームの模擬店、工作コーナーや、人形劇やバナナのたたき売り、ガムランの演奏など、にぎやかなお祭りを来館児・者と楽しんだ。17時以降は入館無料。地域の人にも開放した。 (ふしぎが丘)
みんなでかざろう クリスマス	12.2～25 開館時間中	クリスマスの雰囲気作りのため、館内各所に手作りのクリスマスツリーを用意し、来館児・者の協力で、手でちぎったケント紙に模様をつけたり、絵を描いたり、サンタさんへの願いを書いて飾った。親子や兄弟、子どもたちの作品が館内の装飾になり、温かみのある雰囲気になった。 (館内各所)
サンタにとどけ! うたおうクリスマス	12.13 ① 15:30 ② 16:45	クリスマスの雰囲気作りと[こどもの城]をアピールするため、こどもの城児童合唱団・混声合唱団によるクリスマスにちなんだ歌の合唱とハンドベルの演奏を楽しむミニコンサートを実施。 (ピロティ)
こどもの城 30 年展 遊び・学び・育ち ～子どもの福祉と文化～	H27.1.4～2.1	[こどもの城]の閉館にあたり、芸術・文化・体育・科学・保育・保健といった分野からさまざまなプログラムを提供することにより、子どもの成長・発達を支援してきた[こどもの城]の30年間にわたる活動の歩みを、写真や映像、資料を展示・紹介し、[こどもの城]が、子どもの健全育成や子育て支援の活動にどのように関わり、どのような役割を担ってきたかを振り返った。 (ギャラリー)
第 14 回 全国児童館・ 児童クラブ大会 TOKYO	1.24・25	全国の児童館・放課後児童クラブや子育て支援の関係者が集まり、子どもの育ちや子育ての現状を共有するとともに、子どもの居場所や遊びなどについて研究協議を行い、今後の子ども・子育て支援のあり方を展望した。24日は青山劇場にて開会セレモニーに続き基調提起が行われたあと、16の分科会と5か所の視察分科会が実施された。25日には、東京都内の児童館などから[こどもの城]来館児・者に向け、さまざまな遊びのプログラムが行われた。全国から約760人の児童厚生員が集まり、大会を盛り上げた。主催:(一財)児童健全育成推進財団、(公財)児童育成協会、全国児童厚生員研究協議会。後援:厚生労働省、東京都、(社福)全国社会福祉協議会、(一財)こども未来財団、児童厚生員養成課程連絡協議会、全国地域活動連絡協議会、民間児童館ネットワーク。 (青山劇場・青山円形劇場・研修室ほか)
小学校開校記念日招待 (渋谷区・港区)	通年	近隣の渋谷区・港区の区立小学校の児童に、地元の児童館としてもっと利用してほしいとの思いから、開校を記念して全校児童に招待券を配布した。

■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ピーターパン ドキドキマジックショー	5.3・4 ① 12:30 ② 15:00	体育室を会場に、誰もが参加して楽しめる公開イベント。内容は、①みんなで歌おう！ ②イリュージョンマジックショー ③ゲンキゲーム大会の3部構成の楽しいマジックショー。協力：小学館レクリエーションリーダーズクラブ。（体育室）
〈夏休み〉 はたらく消防の写生会 渋谷区入選作品展	8.16～31 開館時間中	渋谷消防署管内の小学校で開催された、「はたらく消防の写生会」の入賞作品を展示、啓発活動用のポスターやちらし、消防車両などの写真パネルも展示。展示を通じて防災の啓発をした。（エントランスホール）
〈ファミリーフェア〉 第 20 回 赤ちゃん大集合	10.29 10:30～15:00	3 か月～2 歳未満の乳幼児と保護者が対象。「赤ちゃん広場」会場で、「親子のふれあい遊び」「子育て相談」を行った。また、育児用品関係の企業・団体 8 社による「情報・展示コーナー」を設置。活動エリアでは「みんなのここ広場」「ごろごろハイハイたっち／てくてくピョンピョン／ひとりであんよ！」「It's a ベビーワールド」「うたってパプリン／あそんでパプリン」「幼児向けビデオ」「紙のおふる屋さん」などを実施した。参加者は親子 495 組。全館事業として実施。入館券対応。（研修室ほか）
〈 〃 〉 第 21 回おりがみ カーニバル	11.1～24 開館時間中	「ぼくのゆめ わたしのゆめ」をテーマにした日本折紙協会会員の作品を展示する「おりがみカーニバル」を開催。世界のおりがみ展も同時開催。折って遊ぶコーナーも実施。主催：日本折紙協会。（ギャラリー）
〈 〃 〉 子どもたちの ダンス交流プログラム	11.3 (練習日：9.27、10.4・ 11・18・25、11.1)	新座市福祉の里児童センター、草加市氷川児童センター、こどもの城の3地域の児童センターで、それぞれオリジナルのヒップホップダンスを創作し、その成果を 11.3 のダンス交流フェスティバルで発表した。ダンスを通じた子どもの交流プログラム。共催：NPO 法人新座子育てネットワーク。（体育室）
〈冬休み〉 こま名人来たる！ こまばふぉーまんず	H27.1.5 ① 13:00 ② 15:00	“こまのたけちゃん”による、さまざまな投げごまの技やディアボロのパフォーマンス。こままわしの体験コーナーなども実施。〔こどもの城〕の活動を多くの人に伝えた。（ピロティ）

■■■ 共催・協賛・協力事業 ■■■

名 称	日 時	内 容
おもちゃ図書館 マックロー	通年水曜日 12:30～15:00	障害のある子どもが気軽に利用できる遊び場「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も 4 人のボランティアを中心に運営された。今までの思い出や活動の様子を DVD におさめ、8.3 の映写会を最後に 30 年にわたる〔こどもの城〕における活動を終了した。（会議室）
こままわし大会	4.19 10:30～16:00	こままわしの楽しさを知る体験だけではなく、専門的な技術としてのこまの技や遊び方を、たくさんの人に伝えることを目的に実施。共催：日本こままわし普及協会。（ピロティ）
ヒト展	6.1～8 開館時間中	12 年目を迎えた「ヒト展」。世界中の立場の違う人が一つとなり、明日に向かって生きることが大切と考え、今回は「明日へ」をテーマとした。渋谷区とベトナム・カンボジア・インドなど海外の子どもたちの絵画や彫刻などを展示した。主催：渋谷ユネスコ協会。（ギャラリー）
みんなおいでよ！ 木曾の森へ	6.7・8 11:00～16:00	木曾地方の観光と物産の PR イベント。パネルによる木曾地方の紹介、子どもが参加できる木曾名産の木材を使った工作、物産の販売などを親子で楽しみながら木曾を知ることができた。主催：長野県木曾地方事務所、木曾発信プロジェクト実行委員会。（ピロティ）
がんばろう！ 東北の 酪農キャンペーン	6.14 11:00～16:00	復興支援の活動として、被災地の様子を都会の人に伝えることや震災の影響でダメージを受けた産業の振興などを目的に実施。東北の酪農の現状を伝えるパネル展示、牛乳やチーズなどの乳製品の試飲・試食や、牧草を使った遊びのコーナー、牛乳パックを使った帽子作りのコーナーも実施。主催：東北酪農青年婦人会議。（ピロティ）
カブラで遊ぼう 「第 1 回全国カブラ 大会」出品作品展	7.19～9.15 開館時間中	積木遊具として児童館にも人気のある「カブラ」の「第 1 回全国カブラ大会」の出品作品の展示と、来館児・者が自由に参加できるカブラのワークショップを実施した。また、自由に遊べるコーナーも設置した。主催：(有)アイビエス。（ギャラリー）

名 称	日	時	内 容
中学生と赤ちゃん親子のふれあい事業	9.16	13:00 ~ 15:00	渋谷区立原宿外苑中学校の3年生を対象に、赤ちゃん親子とのふれあい体験活動を実施した。事前に赤ちゃんの発達や生活を理解し、人形を使ったおんぶひもやおむつ替え体験、新生児人形をだっこする体験、ミルク作りや離乳食の試食、赤ちゃん親子との交流も行った。 (原宿外苑中学校)
平和・国際都市渋谷の日	10.1		10月1日は「平和・国際都市 渋谷の日」。区内施設の無料開放の依頼に協力。渋谷区内在住・在学の3～17歳の利用を無料とした。
とうきょうプレイデー	10.1	11:00 ~ 16:00	ロンドンで行われている子どもの遊びを街中で展開する「プレイデー」を参考に、東京のいろいろな所で遊びを提供しようという取り組みを、都内のさまざまなグループが協力し実施した。〔こどもの城〕もピロティを使用して、段ボール遊びやフラッグ作りなどの外遊びを行った。また関連事業「子どもと遊びを考えるフォーラム」を実施した。子どもゆめ基金助成活動。 (ピロティ、研修室)

■■■ 講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ほかほか広場スペシャル 離乳食 Q&A	(人) 5 か月 ~ 1 歳 6 か 月の赤 ちゃんの保 護者 (各回 10)	(人) 計 46	6.20・7.18・10.24・ 11.21 13:30 ~ 14:30	手軽な食材で簡単にできる離乳食、旬のさまざまな食材の紹介、ホームフリージングの方法など、離乳食づくりの不安や悩みに管理栄養士が答えながら学ぶ講習会。受講料=1回2,000円。 (保育室)

児童館こいのぼりがいっぱい！ オープニングセレモニー



こま名人来る！こまばのふおーまんす

体育エリア



ウォータースクランブル



スポーツ城～親子の巻～

平成 26 年度の活動

運動を通じて体を動かす楽しさ、おもしろさを開館以来子どもたちに伝えてきた。体育部門は一般来館児・者を対象とするだけでなく、体育・水泳の講座を開講していることから、子どもたちの反応や上達を継続的に見ることができる。なかでも水泳は楽しさや“できた”喜びなどが顕著に表れる運動（スポーツ）である。水に浮くことができるようになると、今まで水に対する恐怖がある子にとって、苦痛であった水泳が一気に喜びに変わる。そのハードルを超えるか超えないかが楽しさ・おもしろさの分岐点と言えよう。よく「水を得た魚のよう」と比喻されることが多いが、ハードルを超えた子どもはまさしく魚のように変身を遂げる。

体を動かす楽しさ・おもしろさは、今までできなかったものができるようになった喜びから得るものである。これは、水泳に限った話ではなく球技や器械体操などスポーツ全般に言えることで、“できた”がキーワードである。ただし、運動神経やセンスの問題を無視することはできず、2～3回でマスターする子どももいれば10回行ってもマスターできない子どももいる。我々スタッフは原点に立ち返って、この“できた”という楽しくなる魔法が手に入るように手助けを行ってきた。

楽しくなる魔法“できた”を習得するためには、個人の努力が必要なのは言うまでもない。しかし、どんな事柄にもコツがあるように、「こうすればうまくいく」というコツを今までの長い指導実践や経験から得てきた。たとえば、ボールを上手に投げられない子どもには、体の芯の角度を変えることや腰の位置、肘の高さなど子どもたちに理解できるように工夫して伝えた。これは、子どもたちが一つでも“できた”を経験することで次への挑戦の足掛かりになること、そして運動・スポーツの苦手意識を無くすことで、新しいジャンルに挑戦してもらいたいという願いからきている。

運動にはメリット、デメリットがある。運動やスポーツをする人は病気にかかりにくいという話はひと昔前の話であり、強度の運動をし続けると免疫力が落ちて病気にかかりやすいというデータすら存在する。しかし、運動を行うメリットの方が優位であることは確かで、行動体力と防衛体力とは表裏一体である。筋力や柔軟性、持久力など行動体力が向上すれば循環器・呼吸器系の改善が見込まれる。ウイルス、細菌などに対する抵抗力が増すことや精神的なストレス発散など、運動がもたらす体へのメリットのほうがはるかに大きい。

体育部門のスタッフは、子どもたちに楽しむだけの運動・スポーツのノウハウを伝えるだけではなく、子どもたちの将来を見据え、運動やスポーツがライフワークの一環となり、生活の中での活力となることを願っている。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	日曜日・祝日 10:30 ~ 17:00	日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18 歳以上 300 円、小1 ~ 17 歳 200 円、幼児 100 円。レンタル(タオル・水着) 各 200 円。幼児は保護者が 1 対 1 で付き添って利用。 (プール)
体育室一般利用	土曜日 14:00 ~ 15:00 日曜日・祝日 14:00 ~ 15:00 16:00 ~ 17:00	日曜日 14 時と 16 時の 2 回、土曜日 14 時に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクのフリースローイング。第 1 日曜日: フライングディスク (14 時)、サッカー (16 時) / 第 2 日曜日: ドッジボール (14 時)、ユニホック (16 時) / 第 3 日曜日: 卓球 / 第 4 日曜日: サッカー (14 時)、ドッジボール (16 時) / 第 5 日曜日: ユニホック (14 時)、フライングディスク (16 時)。土曜日は、翌日曜日の 14 時の種目。卓球は終日卓球の自由利用(混み合う場合は各グループ 20 分交代で利用)。利用時間は土曜日が 13 時 30 分 ~ 16 時、日曜日が 10 時 ~ 17 時。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこ。日曜日・祝日の 11 時 ~ 12 時は「親子の体操」。 (体育室)
体力測定	土曜日・日曜日・祝日 15:00	8 種目の体力測定を行っている。4 歳児くらいから大人までが利用でき、小学生以上は男女別に全国平均値と比べることができる。半年 ~ 1 年おきに來館して、体力測定をするリピーターも増えている。利用料は 1 回 100 円。 (健康開発室)
ビッグサタデー	土曜日 10:30 ~ 11:45	小学 4 年生以上が対象。クリケット、タグラグビー、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどの種目をほぼ 2 か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム(試合)の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。 (体育室)
第 27 回水泳記録会	12.7 13:00 ~ 17:00	水泳講座生の記録会。25m 完泳できる講座生が対象だが、完泳できない講座生も参加できる「チャレンジ 25」も設けた。エントリー(1 人 2 種目は 1,000 円)を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児 16 人、小・中学生 144 人、レディース講座生 17 人参加。 (プール)
第 27 回新体操発表会	H26.3.13 17:00 ~ 18:30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1 年間の練習の成果を披露、家族の前で演技を発表した。本年度のテーマは「Happiness」。新体操で「こどもの城」のファイナルステージを表現した。参加者 26 人、見学者 200 人。 (体育室)



第 27 回新体操発表会

第 27 回水泳記録会



■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 THE 運動会	4.29、5.5・6 14:00～15:00 16:00～17:00	玉入れ、綱引き、リレーなど、運動会のいろいろな種目のやり方やコツを覚えて、みんなで楽しく動くプログラム。 (体育室)
〈夏休み〉 It's ライフセービング	7.19 13:00～15:00	海や川など、水と楽しく付き合うために水の性質を学び、事故を起こさない考え方や、事故が起こった時の対処方法を学ぶ。小学生以上の子どもとその親 00 人が参加。参加費 500 円。協力:日本ライフセービング協会。(プール)
〈 " " 〉 スポーツ城～夏の陣～	7.19～8.30 14:00～15:00 16:00～17:00	サッカー、野球、バレーボールなど、みんながよく知っているスポーツからあまり知られていない珍しいスポーツまで、日替りでスポーツを体験する。 (体育室)
〈 " " 〉 スポーツ城～親子の巻～	7.20・27、 8.10・17・24・31 11:00～12:00	サッカーや鬼ごっこなどの親子で楽しめる〈スポーツ遊び〉を実施。スポーツを通した親子の共有体験の時間とした。 (体育室)
〈 " " 〉 ウォータースクランブル	8.3～8.31 13:30～13:45	屋上遊園を使い、暑い夏の水遊びタイムとして 15 分間の噴水やシャワーの水遊び広場をオープン。毎日子どもたちの歓声が響いた。 (屋上遊園)
〈 " " 〉 トランポリン	8.3 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	外部からの専門講師に教えてもらいながら、大きなトランポリンで跳んでみる体験会を実施した。幼児も小さいトランポリンで楽しんだ。 (体育室)
〈冬休み〉 親子でスポーツ冬の陣	12.25～28、H27.1.4～7 11:00～11:45	いろいろなスポーツに挑戦して、プログラムにある“城”の絵に色をぬり、完成させる。 (体育室)
〈 " " 〉 スポーツ城冬の陣 ～スポーツ制覇の巻～	12.25～28、H27.1.4～7 14:00～15:00 16:00～17:00	タグラグビー、ハンドボール、サッカー、ドッジボールなど人気のスポーツ 10 種目を日替りで実施。 (体育室)
〈全期間〉 体力測定	15:00 (日・祝日は 13:00 の回あり)	身長、体重、握力、垂直跳び、肺活量、立位体前屈、反復横跳び、閉眼片足立ちの 8 種目を測定。1 回 100 円。 (健康開発室)
〈 " " 〉 プール一般利用	10:30～17:00	18 歳以上 300 円、小 1～17 歳 200 円、幼児 100 円。レンタル (タオル・水着) 各 200 円。幼児は保護者が 1 対 1 で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。 (プール)

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ 講座 ■■■

※講座回数=1・2期13回、3期9回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳	A (組) 1・2 歳児 と親 (30)	(組) ① 31 ② 17 ③ 17	水曜日 10:00～11:00 (全 35 回)	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料=1・2期各 29,000 円、3期 20,000 円。
" "	B 1～3 歳 児と親 (30)	① 35 ② 33 ③ 32	土曜日 10:00～11:00 (全 35 回)	
幼児水泳	B (人) 4・5 歳児 (30)	(人) ① 24 ② 26 ③ 33	木曜日 15:00～16:00 (全 35 回)	単に泳法の修得だけでなく、水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料=1・2期各 22,500 円、3期 15,500 円。
幼児水泳	D 4・5 歳児 (30)	① 33 ② 33 ③ 31	火曜日 14:30～15:30 (全 35 回)	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行い、クローラーなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料=1・2期各 22,500 円、3期 15,500 円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児水泳 E	4・5 歳児 (30)	(人) ① 30 ② 29 ③ 31	水曜日 13:30～14:30 (全35回)	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行い、クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
幼児体育	4・5 歳児 (40)	① 20 ② 18 ③ 16	木曜日 15:00～16:00 (全35回)	たくさんの友だちといっしょに思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しみながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料=1・2期各20,500円、3期14,000円。
小学生水泳 B	小1～6 (60)	① 44 ② 38 ③ 28	火曜日 16:00～17:00 (全35回)	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10級～1級)。次への目標としている。 受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
” C	” (”)	① 55 ② 47 ③ 43	水曜日 16:00～17:00 (全35回)	10級 顔つけ もぐり 息こらえ ポビング 水なれ 9級 伏し浮き 背浮き 板キック ボディーイメージ1 8級 伏し浮きキック 背浮きキック ボディーイメージ2 7級 ノープレクロール バックキック ボディーイメージ3
” E	” (”)	① 43 ② 38 ③ 31	木曜日 16:00～17:00 (全35回)	6級 クロール・バック(12.5) プレスト・パタフライ(キック) 5級 クロール・バック(25) プレスト・パタフライ(リズム) 4級 クロール・バック(50) プレスト・パタフライ(呼吸) 3級 クロール・プレスト(タイム) 個人メドレー
小中学生水泳 A	小2 ～中3 (30)	① 26 ② 24 ③ 19	火曜日 17:00～18:00 (全35回)	2級 個人メドレー(100)(タイム) 1級 個人メドレー(200)(タイム)
” B	” (50)	① 50 ② 42 ③ 36	木曜日 17:00～18:00 (全35回)	※「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円(2コース合計)。 ※「小中学生水泳A」は、クロールで25m以上泳げる人限定。
シニアスイミング	小1 ～高3 (30)	① 18 ② 22 ③ 20	火・水曜日 16:30～18:00 (全70回)	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4泳法とも、自己記録の向上をめざす。指導者の推薦が必要。受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。 ※「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯にも練習可。
小学生体育	小1～6 (30)	① 37 ② 28 ③ 21	木曜日 16:00～17:00 (全35回)	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。受講料=1・2期各17,000円、3期11,000円。 ※「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円(2コース合計)。
ジュニア新体操	小1～3 の女子 (35)	① 14 ② 13 ③ 10	水・金曜日 16:00～17:00 (全70回)	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
シニア新体操	小4～高3 の女子 (35)	① 16 ② 15 ③ 15	水・金曜日 17:00～18:00 (全70回)	「ジュニア新体操」から一步進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
手足の不自由な子の水泳	小1 ～中3 (15)	① 7 ② 8 ③ 8	土曜日 17:00～18:00 (全35回)	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料=1・2期各17,500円、3期12,000円。



小学生水泳

■■■ 短期講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みこども 集中水泳講習会 A	(組) 小1～中3 (40)	(組) 40	7.29～8.2 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。受講料＝8,000円。
〃 B	4・5歳児 (30)	30	7.29～8.2 10:30～11:30	
ガンバ 2014	小1～3 (30)	30	8.7～11 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子どものための5日間連続の体操教室。受講料＝9,000円。

■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもの城 スポーツクラブ	(人) 18歳以上	(人) 年間延べ 2,407	火～土曜日 12:00～13:30	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。(金曜日はプールなし) 利用料1回500円、1か月パス3,000円。
レディース コース スイミング リズム& ストレッチ	18歳以上 の女性 (150)	① 44 ② 42 ③ 43	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	「スイミング」3コース、「リズム&ストレッチ」1コースを併せてレディースコースとし、チケット制で、どのコースでも参加できる。チケット終了後は6回分の追加利用券を発行。生活習慣のなかに定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身につけることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」ではゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。受講料＝1・2期各22,500円(13回分)、3期15,500円(9回分)。利用券(6回)5,000円。

幼児体育



小学生体育 (バスケットボール)



■■■■ 講習会 ■■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子の すくすくランド A	(組) おすわりの できる乳児 (5～8か月 前後)と母 親 (20)	(組)	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び。お母さんのシェイプアップも。 受講料＝1・2期（各10回）各24,500円、3期（9回）22,000円。
		① 24 ② 18 ③ 13		
〃 B	おすわりの できる乳児 (8か月～1 歳)と母親 (20)	① 17 ② 28 ③ 13	金曜日 11:00～12:00	
幼児・母親体育 A	1・2歳の 子どもと 母親 (30)	① 23 ② 23 ③ 23	火曜日 11:00～12:00	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。 受講料＝1・2期（各10回）各20,500円、3期（9回）18,000円。
		〃 B	2・3歳の 子どもと 母親 (30)	
〃 C	2・3歳の 子どもと 母親 (30)	① 13 ② 18 ③ 15	木曜日 11:00～12:00	
ばちばちや ファミリースイム	1・2歳の 子どもと 父母、祖 父母 (30)	① 35 ② 34 ③ 28	土曜日 14:00～15:00	1歳から始まる水泳のビギナークラス。父母、祖父母のうち2人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。 受講料＝1・2期（各10回）各26,500円、3期（9回）23,500円。



スポーツ城冬の陣～スポーツ制覇の巻～

スポーツ城～夏の陣～（トランポリン）



3階・屋上エリア

プレイ



天までとどけ ねがいごと (七夕)



0・1・2歳のぽかぽか広場

平成26年度の活動

プレイ部門は、大型の木製アスレチックを中心にした屋内の「プレイホール」と、三輪車などが楽しめる屋外の「屋上遊園・ふしぎが丘」の運営を担当している。年間をとおして、安全・安心な遊び場の環境作りに重点を置いた。日常的な遊具のメンテナンスや衛生面の強化、そして来館児・者への声かけをとおして、よりよい環境保全を目指した。声かけは、子どもだけでなく、保護者に対しても、パーソナルスペースを配慮しながら、より積極的、ていねいに行い、環境の安定を図った。また、乳幼児の来館の増加に伴い、乳幼児親子のための「0・1・2歳のぽかぽか広場」に積極的にかかわった。

本年度は、来館児・者に対して、閉館報道に惑わされない安心できる活動の提供が必要と感じ、①安全に配慮した遊び場の運営 ②児童文化財のプログラム提供 ③子どもの発達に考慮した遊具の提供——を基本にプログラムの計画・実施をした。

■■■ 一般来館児・者向けプログラム活動 ■■■

平常期間のプレイホールでは、ボランティアの協力で毎週定期的に〈影絵〉〈人形劇〉〈紙芝居〉を上演する「みんなのにこにこ広場」、「おりがみあそび広場」、週替わりでさまざまなおもちゃを提供する「金曜開店！あそびやさん」を実施。そのほか、「七夕」「正月」の季節行事、近隣の都県政令市の記念日（都民の日など）には、小学生が多く来館するため、小学校高学年も楽しめる「あそぼうタイム」を行った。特別期間は来館児・者の増加に対応して、プログラムの実施ではなく、遊具のメンテナンスなど安全管理に特に力を注いだ。

【安全・安心に配慮した遊び場】プレイホールの魅力の一つに大型の木製アスレチック「わくわくらんど」がある。幼児から年齢の高い子どもにも人気の遊具である。年齢が幅広く利用人数が多い。そのため、安全に遊ぶことと楽しく遊ぶことの両立は、子どもが理解するには大変難しい点でもある。より子どもに理解してもらうためにも、保護者やボランティアの協力を得て注意喚起を行った。注意喚起をすることは、互いの信頼が無いと安全につながらない。安全につながられるように、会話をするなど適度なコミュニケーションを大切にしたい。コミュニケーションを深めることは、互いを知る機会にもなる。幅広い年齢で構成されている職員やボランティアとの接点が、子どもを大切に考える大人との出会いとして、互いにかけてあげない機会をなることが望まれ、結果的に安心につながる環境の設定の一つになる。

【高学年向けゲーム“バンパー”】プレイホールの人気の遊具の一つに、ビリヤードに似たゲーム“バンパー”がある。高学年（小4以上）が集える場所としての環境を設定してきたが、本年度は11月のファミリー月間、冬休み特別期間とそれ以降の土・日曜日、祝日に限定して、対象を小3以下（保護者同伴）でも利用できるようにした。土・日曜日、祝日の小4以上の利用が来館児・者の1割に満たない事、他のスペースの混雑緩和などの理由で、保護者同伴での利用に踏み切った。道具の使用方法、ルールの手ほどきなど、手間がかかることは予想されていたが、保護者の子どもと共に遊ぶ意欲を増進させることにつながり、遊びをとおした親子のよりよい関係づくりが見られた。特に、父親と子どもの信頼感が育まれていく様子が見られた。平日は学校帰りの学童による利用があるので小4以上の設定にした。



ビリヤードに似たゲーム“バンパー”

【人形劇】開館以来、児童文化財として“生の舞台を見ることで演者の息遣いを感じ、親子で感動を共に味わってもらいたい”との願いから、人形劇にかかわるプログラムを多く実施してきた。プロの人形劇団による上演も数多く行われた。前年度と本年度は、過去に出演を依頼した劇団が、子どもたちへの贈り物として多くの上演を企画・運営してくださった。

「クリスマス人形劇フェア」は、開館以来、〔こどもの城〕と交流をつなげてきた首都圏の大学にある人形劇・児童文化研究会のサークルによるネットワーク「じゃんぐるじむ」と人形劇団のネットワーク「パペットマーケット」による企画・運営のプログラム。〔こどもの城〕のスタッフと共同で実施までの過程を約半年かけて行った。「子どもたちに“人形を作る・遊ぶ・見る・演じる楽しさ”を伝えたい！」を大学生が実現させる企画である。毎年、新たに参加する学生がいるため、実施内容や開催意図を引き継いだ。人形の形態、遊び方など、子どもたちといかに楽しむか、どのようにきっかけ作りをするか、毎年、試行錯誤が繰り返された。大学生のプログラム実施に対する心がけ、仲間同士、来館する子どもや親との対応など、さまざまな面で成長していく姿はほほえましく感じる。〔こどもの城〕での活動は本年度で終了するが、さらなる活動の持続を期待している。

■■■ まとめ ■■■

「安全・安心」——本年度は、その一言につきる運営だった。ともすると、無味乾燥な環境になり得る。しかし、スタッフの団結、ボランティアや全館のスタッフなど多くの人とのかかわり・協力があつたおかげで、柔軟なホスピタリティのある対応をすることができたのではないだろうかと思いたい。来館児・者をはじめ、多くの人との交流をもつことは、客観的、主観的な視点が見え、より強固で優しい“安全・安心”が作られていくと実感した。“安全・安心”という土台は、大人の責任で準備するものであると思う。手間がかかることだが、毎日の積み重ねがその意識を向上させ、恒常的な対応に変化していくようである。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
みんなの にこにこ広場	水曜日 15:00～15:30	ボランティアの運営。紙芝居、人形劇、影絵を週替わりに実施。人形劇 10 回、影絵 9 回、紙芝居 13 回。参加者延べ 2,800 人。 (プレイホール)
おりがみあそび広場	木曜日 14:30～15:30	ボランティアの運営。乳児や 2・3 歳児の親子が多く参加。児童文化、日本の文化として、古典の作品から子どもに身近な素材の作品に取り組んだ。全 33 回。参加者延べ 1,000 人。 (プレイホール)
金曜開店！ あそびやさん	金曜日 開館時間中	週替わりのおもちゃが楽しめる。遊具の耐久性、誤飲などの心配があるなどの理由で、常設できないおもちゃを選んだ。全 33 回。 はたらく車/ワミー/モノブロック/かえるさんジャンプ/汽車/手びねりこま/バランスゲーム/ドミノ/ネジブロック (プレイホール)
おはなし人形広場	日曜日 (不定期) 13:00、15:00	ボランティアの運営。パネルシアターや「こどもの城」のマスコットを登場させる人形劇を実施。演じる人の息遣いを感じ、豊かな感性が育めることを願った。毎回、幼児から多くの来館児・者でにぎわった。 (B スタジオ)
〈七夕〉 天までとどけ ねがいごと	6.28・29、7.5・6 11:00～17:00 7.1～4 13:00～17:00	季節行事〈七夕〉の由来をパネルで紹介したり、短冊に願い事を書いて笹竹に飾った。参加者延べ約 1,600 人。 おはなし会も 5・6 日に実施。紙芝居「七夕ものがたり」を映写し、より多くの来館児・者が見られるようにした。参加者延べ約 330 人。 (プレイホール)
あそぼうタイム 「バルーンカーレース」	6.15、10.1、11.14	小学生の来館が増える、10 時開館の平日「千葉県民の日」「都民の日」「埼玉県民の日」に実施。段ボール、風船、ストロー、竹串を材料に「バルーンカー」を制作。作品でレースができるように会場も設置した。参加者延べ 330 人。 (プレイホール)
ハンズオン広場	毎日	遊具をとおして〈発見・学び〉を促すプログラム。「ネジであそぼう」「せんたくばさみであそぼう」「カブラであそぼう」の 3 種類を約 1 か月交替で行った。身近な素材を遊具にしながらか創意工夫できる内容に、幼児から年齢が高い子どもも取り組めた。 (プレイホール)
クリスマス 人形劇フェア	12.20、21、23 11:00～16:30 上演 13:30、15:00	「人形を作る、遊ぶ、見る、演じる」と、人形劇をまるごと楽しんでもらう内容。大学生による上演のほか、人形を作り、その人形で遊んだり、小学生以上の希望者には、「キッズ人形劇団」として、作った人形で人形劇に出演。当日の練習後舞台上に立った。首都圏にある大学の児童文化研究のサークルによるネットワーク「じゃんぐるじむ」と人形劇団のネットワーク「パペットマーケット」による企画・運営。 □作るワークショップ□紙コップ人形の制作。 □キッズ人形劇団□1 日 2 回 (21 日のみ 1 回)、団員を当日募集 (一部事前募集)。30 分程度の練習の後、本番。 □上演□人形劇を中心に、パネルシアターも上演。 参加大学：創価大学、東京家政大学、帝京大学、立正大学から約 70 人。参加者延べ 600 人。 (プレイホール)



あそぼうタイム「バルーンカーレース」



クリスマス人形劇フェア

■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 夏休み ハンスオン広場	7.19～8.10、8.12～31	遊具をとおして〈発見・学び〉を促すプログラム。「せんとくばさみであそぼう」(7月19日～8月10日)、「ネジであそぼう」(8月12～31日)の2種類を設置。身近な素材を遊具にしながら創意工夫できる内容に、幼児から年齢が高い子どもも取り組めた。来館児・者の多い時期なので、素材の量を増やしたりパネル表示を充実させた。(プレイホール)
〈ファミリー月間〉 家族で楽しもう “バンパー”	11月の土・日曜日、祝日 11.14	高学年向け(小4～高3)が集える場所として設定してきた人気のビリヤードに似たゲーム。ファミリー月間を機会に小3以下の子どもを持つ家族向けにも行った。期間中は、スタッフやボランティアが常駐し、道具の扱い方、ルールなどの手ほどきをした。参加者延べ1,550人。(プレイホール)
〈冬休み〉 みんな、集まれ! 人形劇とパネルシアターの広場	12.24・25 H27.1.17・18 ※1日3回上演 (12.24のみ2回)	開館以来、[こどもの城]で上演していただいた有志団体による企画・運営。4日間で19団体が出演。人形劇を中心に、パネルシアター、大型紙芝居を上演。参加者延べ1,200人。 (プレイホール) □出演団体(順不動) □わけちゃん/ハッピーメロディー/人形劇ラボ☆きら星/あゆたみ&じゅごん/あ・ぶ・ぶ人形劇場/人形劇団ぱびるぽ劇場/パネル劇場ばねるっば/びよんびよん/人形芝居燕屋/パネル・パニー/人形劇チーム青空共和国/BUNちゃん/えんがいはいほいくえんにやにゆによ/コロソ団/ねこねるあーんどこっこ/人形劇団きらきら☆うんてい/パネルシアターCOCOナッツ/人形劇団YOU遊/夢まあるく舎。
〈冬休み〉 2015新春あそびの お年玉「め〜でたフェスタ〜めざせ!あそびのメ〜人」	12.27・28、H27.1.4 11:00～16:00 H27.1.5～7 11:00～17:00	お正月に楽しめるこま、かるたなどの昔遊び。期間中の土・日曜日は、ボランティアの企画で〈巨大折紙〉〈巨大福笑い〉〈巨大すごろく〉を実施。世代を超えて楽しめる昔遊びに多くの家族が参加していた。参加者数は、延べ約2,000人。(プレイホール)

木製アスレチック「わくわくランド」



造形



やってみよう！つくってみよう！
「箱と造形」(親子コーナー)



夏休み造形教室「ミルルーム」

平成 26 年度の活動

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに育てていけるように、①新しい視点で素材を探求して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ『素材との出会い展』 ②そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感覚を新しくするワークショップ『造形発見展』 ③造形活動の基本となる“素材と道具と技法”の関係をわかりやすく理解できるように視覚化したワークショップ『オープンスタジオ』——の3つを軸に活動を展開している。ひとつのテーマでの活動を約1年間にわたって継続し、3種類のワークショップを順次繰り返しながらスタジオを運営してきた。

ワークショップを実施するにあたって、全体の構成要素である〈展示・体験・制作〉という基本コンセプトを効果的に実施するため、ワークショップごとのテーマに応じて環境設定を行い、子どもたちが自主的、能動的に活動にかかわれるようにしている。前年度10月からは、〈箱〉と造形活動を結びつけた「造形発見展～箱と造形」を実施した。

講座・クラブ活動である「こどもクリエイティブクラブ」は、次の2コースを実施した。年間のテーマに基づき、ストーリー仕掛けでプログラムを展開していく「ゆかいな造形」、親子で協力し、また、互いに触発し合いながら制作に親しむ「親子でアート」を実施した。

本年度の重点目標である、“効率的なスタジオ運営”では、スタジオ内のバックヤードを削り、活動スペースを極力広く取って、乳幼児も参加しやすい環境を整えた。“伝承的なくあそび”の再解釈と充実化”では、年中行事の正月や節分、端午の節句などと造形を結びつけた「こども歳時記」を開催。“開館から実施してきたプログラムの継承、再構築、保存”では、過去プログラムのデータ化や現在のテーマに合わせた再構築、またどこでも展示できるようにコンパクトなBOX化を行い、〈動くこどもの城〉をはじめとした研修会や講師派遣などの実技講習会でも紹介している。

12月から「こども活動エリア」終了までの2か月間は、造形スタジオの活動の集大成の展示として、「造形スタジオ展 1985～2015」を実施した。今までに実施した膨大なプログラムの中から、『素材との出会い展』より31プログラム、『造形発見展』より60プログラム、『オープンスタジオ』より31プログラム、『こども歳時記』より18プログラム、「夏休み造形教室」「こどもクリエイティブクラブ」その他イベントより14プログラム、そして複数実施した「世界の芸術教育プログラムを紹介する展覧会」より一つの展覧会选择、それぞれ展示パネル化および展示ボックスにしたものと、それらに付随する写真パネルやポスターを造形スタジオ内外に展示し、造形スタジオの30年、総計

154 点にわたる活動を紹介した。

■■■ 造形発見展 ～箱と造形～ ■■■

〈箱〉の定義とは、横枠と底面で構成され、容器だけで一定の形状を保持できるもの、そして物を入れることができるものを指し、内容物の形状や重量、固体と液体の違いなど、状態や性質によって、箱の材質や形状もさまざまである。一般的な箱は、段ボール箱のようにそれぞれの面が直線だけで構成される直方体や立方体で、垂直・水平方向に加わる力に強く、そして同じ大きさであればあるほど、積み重ねることにも向き、空間の隙間を効率良く利用することができる。またこの形状は、一枚の板を切る、折るなど変化させて作ることが多いため、加工性にも優れていることが最大の特徴といえる。

その他、さまざまな箱の形状としては、帽子やホールケーキ等を収納する際に用いられる円柱状の箱のように、実用と装飾的要素を兼ね備えたものや、マッチ箱やキャラメルのように、受け箱がスライド式で蓋が筒状のものがあある。また救急箱のように蓋の開閉に蝶番を用いるもの、台所用ゴミ箱のように、箱から飛び出している突起物を押したり引いたりすると、カラクリ仕掛けでふたが開閉するものなど、身の回りにはいろいろな種類の箱を見ることができる。

平成 25 年 10 月からの造形スタジオでは、このような〈箱〉の概念を造形的にとらえ、紙や木、プラスチックなどの平面的な造形素材を立体である箱状に変化させる、また箱状にしたものを組み合わせることによって生まれる形や模様、見え方の違いなどを、子どもたちが〈あそび〉を通じて発見できる環境とプログラムを整えてきた。

平常期間には、〈箱〉という大きなテーマのもと、〈箱〉と造形を結びつけたさまざまなプログラムを実施した。左右に動かすとカタコトと音を慣らしながら飾りが変化する「カタコト BOX」や、縦長の箱を指で押してまわすと、隙間から飾りが顔を出す「かくれん BOX」、箱の底の部分に透過性のあるトレーシングペーパーを用い、光にかざすと中の飾りがトレーシングペーパーに写し出される「スケルボックス」など、箱が持つさまざまな可能性を感じられるプログラムを多く実施し、〈箱〉の発見を楽しんでもらった。



造形発見展～箱と造形（体験コーナー）

コーナー「いろいろ BOX のぞいてみよう！」では、大小さまざまな箱を設置し、子どもたちが箱の中を自由にのぞいて楽しめるコーナーとした。直径 1.2 メートル、高さ 1.1 メートルの大きさの筒状の箱には多数ののぞき穴があり、中には造形作家の田中清隆氏の光ファイバーを使った造形作品が、緩やかに動きながら光の色を次々と変化させる幻想的な空間を作り出していた。また、「ドアビューア」をのぞくと、中には宇宙都市や海底、町並みのジオラマが広がる小箱や、身の回りにある赤いものや青いもの、黄色いものなど、色別に集めて収納した「色々箱」など、のぞいて見て楽しい空間を構築し、制作コーナーへと続く環境として整備した。

制作コーナーでは、子どもたち自身が紙やビニールシートなどの造形素材を〈箱状に変化させる〉〈組み合わせる〉〈中に違う素材を詰める〉などして、飾って楽しめたり、動かして楽しめるプログ



造形発見展～箱と造形（親子コーナー）

夏休み特別期間は「造形発見展～箱と造形～箱の中をのぞいてみよう」を実施。造形スタジオ入口には、ポンプを押すと土の中からモグラがぴょこりと顔を出したり、草花が風にそよいだりする仕組みの大型ジオラマボックスを設置し、窓からのぞき込んで見るような仕掛けとした。造形スタジオ奥の展示体験

ラムを展開した。夏を通じて子どもから大人までが、楽しみながら〈箱〉の特性や魅力を再発見できるワークショップとなった。

■■■ まとめ ■■■

1985年の開館以来、造形スタジオで実施したワークショップは、『素材との出会い展』では「紙と造形」「木と造形」「竹と造形」「布と造形」など6種類の造形素材を取り上げた活動を実施してきた。『造形発見展』では「音と造形」「光と造形」「造形宝島」「道と造形」など9種類、『オープンスタジオ』では「おじいさんの道具箱」「造形動物園」「からくりと造形」「造形菜園」など12種類のテーマを取りあげた。また、これらのワークショップでは、同じテーマでも「竹と造形1」「竹と造形2」や「光と造形'88」「光と造形'89」などのように、複数の切り口で実施しているものも多数あり、それぞれ1～2年の単位で実施してきている。その他『素材との出会い展』『造形発見展』『オープンスタジオ』の3つのテーマ以外に、季節行事に造形表現を取り入れた「こども歳時記」や特別企画「遊びと造形発想展」や「アートとあそぼう(ムナーリ)」「ヤマムラアニメーションこどもずかん」などのワークショップを含めると、50以上のワークショップを企画・展開してきた。

これまでに開発・実施したワークショッププログラムは、一般来館児・者向けの活動だけでも約1,300にもなる。このほかに講座「こどもクリエイティブクラブ」で約1,200、「造形教室」およびイベントでは約260で、総計約2,760プログラム以上にのぼる。そして、造形スタジオのプログラム活動に参加した子どもたちの総数は、のべ1,000万人以上になる。

その他、造形教育に貢献してきた世界の人をクローズアップし、その活動を紹介するとともに、実際に体験できる展覧会を行ってきた。1985年(昭和60年)の開館記念プログラムでは、「ブルーノ・ムナーリ^{*1}展」を実施。1990年(平成2年)の開館5周年記念プログラムでは「フランツ・チゼック^{*2}展」、1995年(平成7年)の開館10周年記念プログラムでは「ビクトル・ダミコ^{*3}展～こどもアートカーニバル～」、2005年(平成17年)の開館20周年記念プログラムでは、再度「ブルーノ・ムナーリ展 もっと豊かにもっと自由に」などを実施している。他には、世界中の子どもたちの生き生きとした姿を撮り続ける写真家、田沼武能の写真展「遊ぶ世界の子ども」展(1990年=平成2年)や、公立養護学校美術教師第一号の小串里子の業績を紹介した「万人のための美術展」(1997年=平成9年)、アニメーション作家、山村浩二の創作活動を広く紹介する「ヤマムラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー～」展(2003年=平成15年)などを実施してきた。

造形スタジオでは開館以来30年間に渡る活動を通じて「造形体験を通して子どもたちの感じる力、感性を伸ばす」ことを目的として活動に取り組んできた。実施した多くのプログラムは、全国各地の現場のニーズをくみ取って、厳選、再構築し、〈動くこどもの城〉や講師派遣として全国に赴いて児童館などの職員やボランティア、そして全国の子どもたちへの普及活動をしており、現在も各地の児童館や放課後児童クラブ、保育施設などで活用されている。造形スタジオの活動は終了したが、これから先も、造形スタジオで生み出されたプログラム資産が広く生かされ、また、多くの人々の知恵と情熱が注がれた造形体験を通して、次世代を担う子どもたちが健やかに成長することを願ってやまない。



造形発見展～箱と造形(小学生コーナー)

*1: ブルーノ・ムナーリ(イタリア)＝造形、デザイン、評論、子どものための造形教育などさまざまな分野で先駆的な活動を展開した。

*2: フランツ・チゼック(オーストリア)＝美術教育のバイオニアと呼ばれ、子どもの自由な表現こそ心の表出であると定義して、さまざまな活動を行った。

*3: ビクトル・ダミコ(アメリカ)＝ニューヨーク近代美術館初代教育部長。子どもが造形活動への動機につながる美術教育が人々などをデザインし、アメリカ国内および海外数か国を巡回した。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
やってみよう！ つくってみよう！ 「箱と造形」	4.8～20、5.9～7.18、 9.4～11.30 開館時間中	〈箱〉を造形的にとらえ、紙や木などの造形素材を箱状に変化させる、また箱状にしたものを組み合わせることによって生まれる形や模様、見え方の違いなどを、子どもたちが〈あそび〉を通じて発見できるワークショップ活動を実施、展開した。
〈こども歳時記〉 端午の節句	4.22～5.6 開館時間中	スタジオ入口の空気で動くジオラマにこいのぼりを飾り、季節感を演出した。壁面には、風でうろこが動く大きなこいのぼりを展示した。マグネットでこいのぼりの飾りを変えて遊べる体験コーナーを設け、全国各地の民芸品、端午の節句のタペストリーも展示した。
〈 " 〉 クリスマス	12.2～25 開館時間中	全館事業「みんなでかざろうクリスマス」のために、子どもたちがオーナメントを制作するスペースを設けた。完成したオーナメントはツリーに飾り、ロビーに展示した。天井にはクリスマスをイメージさせる飾りを吊るして、雰囲気盛り上げた。
〈 " 〉 お正月	12.26～H27.1.12 開館時間中	壁面には、コマや羽子板を飾りお正月らしさを演出した。お正月や干支の羊にちなんだ民芸品を展示。3階ロビーやスタジオの天井には全国各地の凧を飾った。
〈 " 〉 節分	1.14～2.1 開館時間中	造形スタジオ内に、鬼のタペストリーを設置し、来館児・者を迎えた。スタジオ入口の空気で動くジオラマに鬼を飾り季節感を演出した。スタジオ内のパーティションに豆や升などで装飾して節分のにぎやかな雰囲気を作った。
造形スタジオ展 1985～2015	12.2～H27.2.1 開館時間中	開館以来、造形スタジオで開発、実施してきた膨大なプログラムの中から厳選した約 150 プログラムの展示と、活動風景写真を紹介した。

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 素材との出会い展 「箱と造形」	7.19～8.31 開館時間中	「箱の中をのぞく」というサブテーマを設け、展示体験コーナーでは、さまざまな箱をのぞくと、光りながらゆるやかに動く巨大なオブジェや、中に宇宙都市、海底、町並みのジオラマが広がる小箱などを設置。制作コーナーでは、子どもたち自身が紙やビニールシートなどの造形素材を箱状に変化させる、組み合わせる、中に違う素材を詰めるなどして、飾って楽しめたり、動かして楽しめるプログラムを展開。夏を通じて、子どもから大人までが楽しみながら〈箱〉の特性や魅力を再発見できるワークショップを実施した。
〈ファミリーフェア〉 第 29 回 造形スタジオ展	11.1～24 開館時間中	開館記念行事にあわせて、毎年実施している展示の 29 回目。平成 25 年 11 月～平成 26 年 10 月の 1 年間に実施したプログラムと活動を見渡すことができる、造形スタジオ活動のダイジェスト版。「箱と造形」「こども歳時記」のプログラム作品と、「夏休み造形教室」「こどもクリエイティブクラブ」の各コースを、作品と活動風景写真で紹介した。
〈 " 〉 第 21 回親子体験 ワークショップ	11.1～3 開館	親と子がそれぞれに制作することで、造形活動を通し親子のかかわりを見つめ直すワークショップ。実施プログラムは、「はこかぶるん」。色ラシャ紙で箱を作り、動物や乗り物など、自由に飾る。できあがったものを頭にかぶると、うさぎやひよこ、車など、自分たちの好きなテーマの箱形帽子になる。

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ 講座 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ 「ゆかいな造形」	(人) 小1～中3 (20)	(人) ① 16 ② 15 ③ 15	水曜日 16:15～17:30	布や木、金属、紙などのさまざまな素材を用い、素材に見合った道具と技法を使い分け、「あそび」の中で楽しむ造形体験。年間テーマは「謎の深海大冒険!!」。深海に生息する未知の生き物や、大昔に沈んだ海賊船の秘宝、謎の海底洞窟の秘密とは…。これらをストーリー仕掛けで展開。1期には、金網で作る潜水艦のオブジェ、光があたると浮かび上がる謎の深海生物、張り子の潜水ヘルメットなどを制作。2期には、木工、彫金、鍛金などの技法を組み合わせ、お宝収集箱などを制作した。1年間の活動を通じて、子どもたちはさまざまな素材や道具、技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見出していた。 受講料＝1期(10回)26,000円、2期(11回)28,500円、3期(3回)7,500円。
〃 「親子でアート～わくわくワーク～」	(組) 4・5歳児 と親(10)	(組) ① 7 ② 6 ③-1 5 ③-2 6 ③-3 7	木曜日 15:30～16:30	親子で協力して作ったり、時には別々に作った作品を組み合わせるなど、さまざまな制作方法を取り入れ、互いに触発しあいながら、親子の新たなかかわりを発見するコース。さまざまな素材や技法を体験することで、新たな触感や視覚を発見することも目的。年間をとおし、「食べ物」や「季節行事」をテーマに取り入れ、より制作しやすいように工夫した。親子で協力し互いの表現に感心しながら、また他の親子とのコミュニケーションが広がるなど、造形活動をとおして自然なかかわりが生まれていた。 受講料＝1期(10回)31,000円、2期(12回)37,000円、3期(3回)各回3,000円。

■■■ 短期講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み造形教室 マグネットサッカー スタジアム	(人) 小2～高3 (1日コース /3日間 計45)	(人) 延べ 45	7.23～25 10:10～16:40	強力マグネットを使い、ピッチ上をコミカルに動き回るサッカー選手たち！ 相手をブロックしてボールを奪ったり、ドリブルをしながら、見事ゴールを決められるかな!? 家族みんなでわいわい楽しめる。使用する磁石は、敵味方で極性を変えてあるので、自分のチームの選手だけを動かせる。受講料＝5,000円。
クレイ アニマル 標本箱	小2～高3 (半日コース /3日間 計90)	延べ 45	7.30～8.1 10:10～12:40 14:10～16:40	ネジや貝殻の雌型に、陶芸用の粘土を押しあてて形を写し取り、パーツを作る。パーツを自由に組み合わせて生物の形にすれば、新種生物の化石に変身！化石の名前や採集場所のデータ表と一緒に特製BOXに収めてりっぱな標本箱の完成。受講料＝3,000円。
ミルルーム	小3～高3 (1日コース /3日間 計45)	延べ 44	8.7～9 10:10～16:40	「家族で使うリビングには暖炉をつけて、みんなでゆったりと座れるふかふかソファと、大きなテーブルも欲しいな！」子どもたちは、このようなイメージをふくらませながら制作。できあがった作品を特殊スコープでのぞくと、まるで本物そっくりな空間が広がる。受講料＝5,000円。

■■■ その他 ■■■

名 称	日 時	内 容
ブルーノ・ムナーリ展	7.15～9.28	〔こどもの城〕所蔵の「ブルーノ・ムナーリ・コレクション」の貸し出し事業。清須市はるひ美術館(愛知県)での展示、リーフレット制作への協力。ワークショップ「テクスチャー」「コラージュ」「木をつくらう」を実施し、現地スタッフにも指導した。
レクチャー 「オメロ触覚美術館 の実践活動」	8.2	H18年から継続している「触察」レクチャーシリーズの第9回目。視覚障害者および健常者に対する触覚の体験を促しているオメロ美術館の長年の実践活動についての先駆的な事例を紹介した講演会。講師：アナリザ・トゥラサッティ(イタリア国立オメロ触覚美術館 学芸員)。 主催：NPO法人視覚障害者芸術活動推進委員会、ギャラリーTOM、こどもの城造形スタジオ。協力：世田谷美術館、横須賀美術館。(会議室)

□□□ プログラム一覧 □□□

■■■ 親子コーナー ■■■

	名 称	内 容
箱と造形	カタコト BOX	切り込みの入った細長い箱を作り、箱の外側と内側を色紙やペンで飾る。箱の両端を指でつまんで動かすと、真ん中の箱が左右にカタコトと音をたてながら動く。
	かくれん BOX	2本の紙の帯を十字にはり合わせて箱を作る。内と外に飾りつけをし、上面を押すと、たわんだ壁の隙間から、内側につけた飾りが見え隠れする
	ボックスルーム	色紙の帯を折って、好きな部屋の形を作る。台紙にとめたら、窓や家具、花など、部屋の中や外を色紙やペンで飾り付けする。
	スケルボックス	紙で作った四角い枠に、スクリーンになるトレーシングペーパーを張り、薄い色紙で作った飾りを枠の中に取り付ける。光に透かしてみても見ると、飾りをスクリーンに映して楽しめる。
	はこわくさん	表裏で色の違う紙の帯で四角い枠を3個作り、自由に組み合わせて張ったら、動物や建物、乗り物など、自由に見立てて飾る。
	はこパカアニマル	色ラシャ紙に切り込みをいれ、はり合わせて箱を作ったら、ひっくり返して好きな動物の飾り付けをすると完成。背中を指で押すと、指の動きに合わせてパカパカと走り出す。
	つめ〜るマン	透明なシートで箱を作り、さまざまな色や柄の布やビニールを中に詰めてフタをする。外側を動物や魚などに見立てて自由に飾れば、内側の布と外側の模様の楽しく重なる“つめ〜るマン”の完成。
	スライド BOX	大小2つの四角い筒を作って、ペンや色紙で飾り付けをする。小さい筒を大きい筒に入れてスライドさせると、飾り付けが出たり隠れたりする BOX ができあがる。
	でるでるボックス	波段ボールを筒状にし、底とふたを作って箱にしたら、ふたの裏側にたくさんの飾りを付けたひもを吊るすとできあがり。ふたを開けると、飾りが次々と出てくる。
	はこかぶるん	色紙で箱を作り、動物や乗り物などの飾り付けをする。できあがって頭にかぶると、うさぎやヒヨコ、電車など、自分たちの好きなテーマの箱型の帽子になる。
ハコカバン	白い紙で色ラシャ紙でつくった箱にふたをつけてカバンをつくる。外側に取っ手などの飾りや、カバンに入れたいものをつくれれば、紙の箱型カバンの完成。	
こども歳時記	つめるゴイ	透明なシートで箱をつくり、さまざまな色や柄の布を中に詰める。外側に目やウロコを描き、竹ひごをつければ、内側の布と外側の模様の重なりが美しい箱型コイノボリの完成。
	クリスマスオープン BOX	ラシャ紙に切り込みを入れ、L字型の立体にしたものを2個作ったら、互い違いに組み合わせて箱状にする。箱の中や外にクリスマスにちなんだ飾りをすれば、左右に開くクリスマスボックスの完成。
	お正月でんぐりひつじ	半月型に折った帯紙に底をつけ、羊の飾りをする。中に重りを付けると、その重さででんぐり返しをする干支の羊の完成。
	オニで〜る	筒状にした色紙に切り込みを入れ、筒を閉じたり膨らませたりすると、切り込みからオニの角が出たり隠れたりする。
その他	秋まつり変身! はっぱ面	大きな葉っぱの形をした紙に、小さな葉っぱの紙をはったり色をぬって、お面をつくる。完成後は、かぶって遊べる。

■■■ クリエイティブコーナー ■■■

	名 称	内 容
習字	ハコタップさん	和紙で包んだ小石を四つ角に取り付けた箱に、動物や昆虫、人間など、好きな飾り付けをすると完成。持ち手の竹ひごを動かすと、タップダンスをしているような音や動きを楽しめる。(小2以上、1時間)

夏休み造形教室「マグネットサッカースタジアム」



こどもクリエイティブクラブ〜ゆかいな造形



4階エリア

音楽



みかんちゃんズのおバオパサンバ



子どもたちからのサウンドメッセージ
～うたはともだち～

平成26年度の活動

音楽部門の活動は、音楽ロビーを一般活動の拠点とし、スタジオを講座・クラブの活動の場とする形を基本としている。音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな〈音楽遊び〉が展開されるオープンスペースとして〔こどもの城〕のなかでも、なくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝える事ができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

本年度の重点目標は、これまでに引き続き、子どもたちがより能動的に〈音楽遊び〉を楽しめるようにプログラムへの参加性を高めた“こども主役型のプログラム”と、音楽と季節行事を通した“家族のコミュニケーション”の充実である。スタッフの減少という状況もあったが、フレキシブルに役割や内容を調整し実施した。また何より安全に細心の注意を払ってプログラム運営に臨んだ。

平常期間の一般利用については、平日は1日1回の〈音楽遊び〉のプログラムを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。〈音楽遊び〉のプログラムでは、特に親子のスキンシップが図れるオリジナルの歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなどを行った。

日曜・祝日には、昼11時30分から5時までに、ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「みんなであそぼうウキウキおんがく広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「めずらし楽器にチャレンジ」や管・弦楽器や打楽器などによる編成でリズムカルな楽曲を演奏する「OshiroBand 元気ライブ」の9本の催しを実施した。

特別期間の催しは特に来館者が多いこと、さらに学童の来館児の割合も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者に幅広い音楽体験の場を提供した。

講座・クラブに関しては、他では体験できない音楽活動を目指して邦楽・民族音楽系なども含むラインアップで運営した。

■■■ 音楽ロビーの活動から ■■■

【OshiroBand 元気ライブ】

〔こどもの城〕のスタッフは〈あそび〉の専門家であると共に、専門分野を持つスタッフということが大きな特徴であるが、このプログラムは音楽の専門スタッフとしての面がクローズアップされている。子どもたちの良く知る歌を取り上げることなく、また楽器だけの演奏にもかかわらず人

Oshiro Band 元気ライブ



気があるのは、「より正確に」「より高度に」「もっとかっこよく」という音楽を志している者が持つ演奏に向かう姿勢が、音楽の魅力そのものとして伝わっているからだ考える。

また、子どもたちに付き合うつもりで聴いていた親が、いつの間にか一緒に楽器を鳴らし、身体を揺らし、歓声をあげる——。このような親の姿は子どもたちにとっては自分が楽しんでいることに共感してくれる存在として映り、喜びを大きくしている事も、このプログラムの人気の理由のひとつだろう。よくある“子どものための”“子ども向けの”という言葉は必要では

なく、誰にとっても良いものを提供する事の大切さを確信した。

互いの音を聴き、呼吸を合わせ、時には主張するという音楽の会話は演奏家にとって至福の楽しみであり、長い時間をかけて積み上げてきた者だけが手にする事の出来るご褒美である。だからこそ、この楽しさを来館児・者みんなに感じて欲しいと、音楽ロビーでは誰もが簡単に音の出せる楽器を数々用意した。音を出すための練習も、ドレミも、指使いも、難しい楽譜もない。子どもも大人も自由に音を出すことで誰もがバンドのメンバーになる最高の一体感——。こうして音楽ロビー全体で作りだす音こそが「OshiroBand」であり、他に類を見ない演奏プログラムである。

【みんなであそぼうウキウキおんがく広場】

手あそび、リズムあそび、パネルシアター、紙芝居、ダンスなどさまざまな素材を取り上げてきたプログラム。〈音楽〉と〈あそび〉にかかわる内容という事以外制約はなく、担当スタッフ一人ひとりに毎回の企画が任されている。参加する子どもや保護者に楽しんでもらうことはもちろん、親子で遊ぶ楽しさを伝えよう、あそびや音楽を通して季節を感じてもらおう、子どもたちに発散してもらおう、乳児とあそぶアイデアを伝えよう、他の親子との関わりを感じてもらおう、子どもたちの発想を引き出そう、音楽と身体の動きを感じようなど、それぞれのスタッフがこの時間の中にねらいを持って臨んできた。参加者の年齢や人数はプログラムが始まるまで分からないため、予定していた内容を状況に合わせて組み換え変更する応用力、異年齢の集団と一緒に楽しめる方法や、保護者への働きかけ、何より居合わせた集団を引き付ける力といった総合的な技量が求められ、一回、一回が研鑽を積む場となった。特別期間の人気プログラムや、コンサートでの来館者との臨場感あるやりとり、全国各地への派遣事業で好評な感想を頂くのも、この日々の活動が元になっており、積み重ねの大切さを忘れてはいけなさと実感している。

■■■ まとめ ■■■

前年度まで実施してきたどのプログラムも来館児・者が心待ちにしており、時間、人員、スペースなどを調整し、本年度もプログラムを減らすことなく活動を進めることができた。加えて、活動のクオリティを落とさず、より良いものを提供するよう努力した。音楽部門では、一貫してさまざまな素材（見たことのない楽器、初めて感じるリズム、みんなで演奏する事の一体感など）を通して、音楽との出会いを来館児・者に提供してきた。この出会いが子どもたちの成長の糧になっている姿を見ることが出来た事はスタッフの大きな喜びである。

音楽部門が大切にしてきた“子ども”と音楽というテーマは、いつの間にか“子どもと子どもをとりまく大人”に拡がっていった。子どもたちの活動ではあるが、大人の関わり方までを意識してプログラム作りに取り組み、音楽を通して、共に子どもたちの育ちを支える関係が築けた事は大きな成果と言える。技術の発達により、音声でも映像でも簡単に記録し再現することが簡単に出来る時代だが、繰り返し演奏した曲も〈あそび〉も一度として同じものはない。私たちの活動は来館者と共に作り上げられる。その場で生まれる音楽や発展する〈あそび〉こそが、〔こどもの城〕音楽プログラムの魅力ではないかと考えている。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
みんなであそぼう ウキウキ音楽広場	火・水・木曜日 14:00～14:30 土曜日 13:30～14:00 日曜日・祝日 14:00～14:30	スタッフ一人ひとりの個性を生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えた音楽ロビーの遊びを代表するプログラム。参加者の年齢に対する配慮や保護者の参加方法を工夫することで、よりバラエティーに富んだプログラムになった。(音楽ロビー)
うたってハッピー	火～金曜日(共通) 11:30～12:00 火曜日 15:00～15:30 水曜日 14:30～15:00 木曜日 15:00～15:30 金曜日 13:30～14:00 土曜日 11:30～12:00 15:00～15:30 日曜日・祝日 11:30～12:00 13:30～14:00 15:15～15:45	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなど。リクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。(音楽ロビー)
ストリートオルガン やってみよう!	火～土曜日 16:00～16:30 日曜日・祝日 12:45～13:15 16:30～17:00	ロビー常設のオルガン式手回しオルガン。親子、兄弟、友だち同士などでべアになり、演奏を楽しんだ。(音楽ロビー)
みかんちゃんズの オパオパサンバ!	金曜日 14:30～15:00	女性ボランティア中心の活動。サンバのリズムに合わせて体を動かす「新聞ビリビリゲーム」というプログラムに取り組んだ。ボランティアの一人ひとりが、プログラムリーダーとしてのスキルや演奏技術の向上をはかり、活動を支えてくれている。(音楽ロビー)
Oshiro Band 元気ライブ	土曜日 13:15～13:30 日曜日・祝日 13:15～13:30 16:00～16:30	『クシコスポスト』『トランペット吹きの休日』『カンカンポルカ』など、リズムカルな楽曲をマリンバ、ギター、トランペット、バイオリンなどで演奏。オリジナルアレンジで、スタッフのソコを入れ、来館児・者にアピール。子どもだけではなく、大人も一緒になって手作り楽器を演奏したり、手拍子をしたり、ロビー全体が一体となるライブになった。(音楽ロビー)
めずらし楽器に チャレンジ	土曜日 14:00～14:30 日曜日・祝日 14:30～15:00	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴をわかりやすく紹介。コンサート終了後は演奏に使用した本物の楽器をじっくり体験してもらう。(音楽ロビー)
うたっておどって ハッピーたなばた	7.5・6 11:30～12:00 13:30～14:00 15:15～15:45	星の飾りを身につけ、子どもたちがステージに上がって歌い、踊る場面を設けた「うたっておどってハッピー!」のスペシャル版。フィナーレはオリジナルソング「きらきらたなばた」で歌い踊った。(音楽ロビー)
うたっておどって ハッピーハロウィーン	10.19・25・26 11:30～12:00 13:30～14:00 15:15～15:45	子どもたちがステージに上がって歌い、踊る「うたっておどってハッピー」シリーズのハロウィーン版。来館児がだれでも身につけられる仮装用の衣装を用意。ロビー全体をパーティ会場のように演出。ステージに上がらなくても楽しめた。フィナーレはオリジナルソング『PAN PAN PUMPKIN』で歌い踊った。(音楽ロビー)

■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 めずらし楽器に チャレンジ	4.29、5.3・4 14:15～14:55 5.5・6 14:45～15:25	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 うたってハッピー!	4.29、5.3・4 11:30～12:00 5.5・6 11:30～12:00 14:15～14:45	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 ストリートオルガン やってみよう!	4.29、5.3～6 12:45～13:15 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 Oshiro Band 元気ライブ!	4.29、5.3・4 13:15～13:30 15:00～15:15 16:15～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 みんなでダンス! ノッチャって! おどっちゃって!	4.29、5.3・4 13:30～14:10 15:15～15:55	「こどもの日」にちなんで、子どもたちによりスポットが当たるように工夫したダンスプログラム。体全体を使ったまねっこ遊びのウォーミングアップから始め、ゲームに発展させる。それらの動きが次第に組み合わせたり、知らず知らずのうちにダンスになるという進行。最後は年齢ごとにステージにあがり、〔こどもの城〕オリジナルソングにあわせて披露する。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 ガドガドスーパーライブ! おんがくであそぼう!	5.5・6 13:15～14:15 15:30～16:30	〔こどもの城〕から生まれた6人編成のバンドの公演。劇場公演と違い、子どもたちそれぞれが音楽ロビーにある楽器を持って参加。リズム遊び、手遊び、ダンス、民族楽器紹介、ジャグリングなど多彩な内容を展開。 (音楽ロビー)
〈夏休み〉 ストリートオルガン やってみよう!	7.19～8.31 12:45～13:15 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 夏のごいっしょ ライブ!	7.19～8.31 11:30～12:00 14:15～14:45	バンド形式による弾き語り。夏らしい元気なレパートリーで実施した。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 Oshiro Band 元気ライブ	7.19～8.31 13:15～13:30 15:45～16:15	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 みんなであそぼう! どれみふぁプレミアム	7.19～8.10 13:30～14:00	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、ダンスとバラエティに富んだ内容で実施。スタッフによる日替わりプログラム。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 めずらし楽器に チャレンジ!	7.19～8.17 14:45～15:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 あそんでおどって かがやけ! オリンピッコ	8.12～17 13:30～14:15	オリンピックにちなんで、スポーツの動きを多く取り入れたプログラム。幼児の利用が多い音楽ロビーだが、小学生も楽しめるプログラムをめざした。オリジナルの準備運動から始まり、「金銀銅」のメダリストをめざし行進や音当てクイズにも挑戦する。最後は特設ステージにあがり、マラソンやバスケットボール、サッカーなどの動きを取り入れたオリジナルのダンスを踊りグラウンドフィナーレをむかえた。530人のメダリストが誕生し、スタッフ手作りのメダルをプレゼントした。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 めずらし楽器にチャ レンジスペシャル!	8.19～8.31 13:30～14:15 14:45～15:30	平常期間と同じく、世界の民族楽器を紹介するコンサート。2回内容を変えてより多くの楽器や音楽を紹介した。「オリジナル楽器ガイド」を、参加者にプレゼントした。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈ファミリーフェア〉 おはなしおんがく パンパカパ〜ン	11.2 14:00 ~ 14:40	大きなスクリーンに絵を投影して観賞するおはなしの読み聞かせ。ピアノとパーカッションの音楽と一緒に上演した。音楽とおはなしの融合で広がるイメージの世界を家族で楽しんでもらう。「ライオンのよいいちにち」、「ぐるんぱのようちえん」、オリジナルの「バナナをたべようとしたら」の3作品。出演は「とらいぼっど」。(Bスタジオ)
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャ レンジスペシャル 集まれ！サンバ・フ ェスティバル	11.3 13:30 ~ 14:40	音楽講座“レッツ・プレイ・サンバ”の講座生によるサンバの演奏。小学生から高校生までが一体となり、迫力の演奏を披露した。OB、OGも参加し、講座生と共に演奏。楽器体験の時間では講座生と小さな子どもたちの交流する微笑ましい姿がみられた。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 あそびでつくる 家族のWA！	11.9・16 13:30 ~ 13:45 15:00 ~ 15:30	「家族」と「WA」(輪と和)をテーマにした〈あそび〉のイベント。家族ごとに手や腕をつかって輪を作ったり、全長 20 メートルほどのジュシュのようなゴムの輪を使い家族と家族がつながって遊ぶ。最後は輪になって踊る。3曲のオリジナルソングを作った。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってファミリー	11.23・24・30 13:15 ~ 13:45 15:00 ~ 15:30	当日エントリーした家族がスタッフの生バンドの伴奏によってステージで歌う。3日間で47組144人が参加。数年にわたり何度も参加されるリピーターの家族もあり、保護者と共に子どもたちの成長を感じた。出演する親子を優しい眼差しで見守る来館者、小さな子どもの歌に合わせ歌ったり踊ったりする来館児に支えられファミリーフェアにふさわしい催しとなった。(音楽ロビー)
〈冬休み〉 うたってハッピー	12.26 ~ 28 11:30 ~ 12:00 13:30 ~ 14:00 15:15 ~ 15:45 H27.1.4 ~ 7 11:30 ~ 12:00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band 元気ライブ	12.20、21、23、25、26 ~ 28 13:15 ~ 13:30 16:00 ~ 16:30 H27.1.4 ~ 7 13:00 ~ 13:15 16:00 ~ 16:30	平常期間と同じ。 12.25は「うたってハッピークリスマススペシャル」と題して、クリスマスにちなんだ曲を特集した。(音楽ロビー)



あそびでつくる家族のWA！



名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 うたっておどって ハッピークリスマス	12.20、21、23、25 11:30～12:00 13:30～14:00 15:15～15:45	子どもたちがステージに上がって歌い、踊る「うたっておどってハッピー」シリーズのクリスマス版。子どもたちはサンタ帽の飾りをつけ、歌い踊った。クリスマスソングのほか、オリジナルソング『HAPPY MERRY CHRISTMAS』で大フィナーレ。ハロウィーン同様、クリスマスの衣装やグッズを用意し、音楽ロビー全体をクリスマスパーティ会場のように演出した。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 モーモーズの ようこそクリスマス	12.21 14:15～15:00	結成19年になるモーモーズ（牛に扮する二人組）が繰り広げるクリスマスコンサート。大勢の家族でにぎわった。大きなスクリーンで見のお話は「まっくろくろのクリスマス」観覧する子ども達も手に鈴を持ち参加した。今回はピアニストのふくちゃんと繰り広げるピアノバトルが好評。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 ストリートオルガン やってみよう！	12.20、21、23、25、26～28 12:45～13:15 16:30～17:00 H27.1.4～7 12:30～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ	12.20、23、25～28 14:30～15:10	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 あそんでおどって かがやけ！ オリンピッコ	H27.1.4～7 14:100～14:45	冬季オリンピック開催にちなんで夏の「オリンピッコ」を冬バージョンにアレンジした。最後は特設ステージにあがりスキー、スノーボード、フィギュアスケート、カーリングなどの動きを取り入れたオリジナルのダンスを踊り、グランドフィナーレをむかえた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 うたってファミリー	1.4～7 13:15～14:00 15:00～15:45	家族でエントリーし、生バンドの演奏にあわせてステージで歌を披露。1回に7組の家族がエントリー。子ども用のカラフルなマイクに加え、ティアラや帽子、リボンなどの衣装グッズも用意した。60組の親子が熱唱。最後は希望者全員によるステージでのフィナーレで盛り上がった。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ひびけ！ めでたいこ！！	1.17 13:30～13:45	毎年1月に恒例となっている和太鼓グループの講座生による演奏。助六太鼓の説明などもまじえ、迫力のある音を響かせた。演奏の後は観覧していた小さな子ども達が講座生と共に太鼓にさわるコーナーもあり、講座生がていねいに幼児に対応するほほ笑ましい光景が見られた。（音楽ロビー）
〈ファイナル〉 最後だよ！ 全員集合！！ ノンストップで 音楽まつり！！	1.31、2.1 11:00～17:00	最後の土日は今まで音楽ロビーで演奏したスタッフ総出の演奏マラソン。レッツ・プレイ・サンバの講座生の迫力のあるサンバ演奏（31日）、〔こどもの城〕で生まれたバンド「ガドガド」のコンサート（1日）。「うたってハッピー」で歌を届けてきたスタッフもそれぞれが趣向をこらしたステージになった。音楽ロビーはこれ以上入れないほどの満員であったが、子どもたちは歌い、跳びはね、楽器を鳴らし、大人も子どもと一緒に身体を揺らし楽しむ姿が印象的だった。「またね」という小さな子どもたち、「今までありがとう」という保護者、昔遊びに来ていた子どもたち、たくさんの人々に囲まれての大フィナーレとなった。



モーモーズのようこそクリスマス

最後だよ！全員集合！！ノンストップで音楽まつり！！



講座・クラブなど

講座

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
みんなで楽しい リトミック A	(組) 3歳児と親 (20)	(組) ① 7 ② 8 ③ 6	木曜日 14:30～15:30 (全32回)	発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をおしてコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養う。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 B	4・5歳児 と親 (20)	① 18 ② 18 ③ 17	木曜日 15:30～16:30 (全32回)	I(初級)でつちかった、感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、異年齢交流を大切に、個性豊かな発達をうながす。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
おんがく大好き ミュージック・パーク ～ダウン症児のための 楽しいリトミック	ダウン症の 4歳～中3 と親 (10)	① 18 ② 18 ③ 19	木曜日 16:30～17:45 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。活動を通し、親からの自立、表現能力、運動能力の発達を、音楽を楽しく学びながらうながす。受講料＝1期20,000円、2期20,000円、3期18,000円。
和太鼓グループ	小3～高3 (12)	① 8 ② 9 ③ 9	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。受講料＝1期23,100円、2期25,200円、3期18,900円。
レッツ・プレイ・ サンバ	小3～高3 (10)	① 12 ② 12 ③ 12	土曜日 15:30～17:00 (全15回)	本格的な子ども向けのサンバクラス。さまざまな打楽器を使って仲間と演奏する楽しさを感じてもらう。高度で力強い演奏を展開。受講料＝各期10,500円。
合唱講座	小1～4 (30)	① 21 ② 26 ③ 26	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	遊ぶことをとおして、体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動。修了後は、「児童合唱団I、II」へ。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
こどもの城 児童合唱団 I	小2～3 (合唱講座 修了者40)	① 48 ② 46 ③ 36	土曜日 15:30～17:30 (全32回)	音楽をおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく、野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験。総合的にプログラムを展開。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 II	小4～中3 (合唱講座 修了者80)	① 105 ② 100 ③ 100	土曜日 17:00～19:00 (全32回)	
混声合唱 ～子どもに聞かせる おとなのコーラス～	高校生以上 (40)	① 107 ② 107 ③ 107	土曜日 19:30～21:00 (全32回)	子どもたちに、豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは高校生から社会人と幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をもにしている。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。



ひびけ！めでたいこ！！

レッツ・プレイ・サンバ



■■■■ 講習会 ■■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんがく星みつた ～就園前の リトミック～	(組) 2歳児と親 (20)	(組) ① 14 ② 16 ③ 11	木曜日 10:30～11:30 (1・2期10回、 3期9回)	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキップをしながら、楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期 20,000 円、3期 18,000 円。

□□□ その他 □□□

名 称	日 時	内 容
こどもたちからの サウンドメッセージ ～うたはともだち～	6.1	平成 26 年 2 月に青山円形劇場での最終公演を実施したが、もう一度ステージに立てるチャンスを得て、合唱講座、合唱団 I・II、混声合唱、みんなでの楽しいリトミック、おんがく大好きミュージックパークが出演する全 2 回公演を青山円形劇場で実施。4 月に入ったばかりの子どもたちには初めてのコンサートだったが、いつも歌っているオリジナル曲や子どもたちの好きな曲、朗読劇『三びきのこぶた』などを披露した。この日まで支えて下さった皆さんに感謝の気持ちを込め、出演者全員で『新しい明日へ』を踊り、華やかなフィナーレとなった。 (青山円形劇場)
こどもの城児童合唱団 夏季合宿 (大分県)	8.22～26	30 回目の夏季合宿は大分県別府市・国東市で行われた。B-CON プラザでは現地の小学生と『翼をください』を歌い、アスト国東では現地の小学校 2 校と交流コンサートを行った。武蔵西小の子どもたちによる蛇谷太鼓の演奏を鑑賞し、国東小オリジナルの振り付けを交えながら最後は全員で『怪獣のバラード』を合唱した。今回は、大自然に囲まれたダムで PV 撮影をしたり、海辺でキャンプファイヤーをしたりと、参加した全員の心にたくさんの思い出が刻まれた 5 日間となった。
青山劇場ファイナル コンサート こどもたちからの サウンドメッセージ ～出会った数だけ ありがとう～	H27.1.31	合唱講座、合唱団 I・II、混声合唱が出演するコンサートを青山劇場で実施。賛助出演として、みんなで楽しいリトミック A・B、おんがく大好きミュージックパーク I・II、こどもの城児童合唱団サポーターズクラブ、ゲストに名倉加代子ジャズダンススタジオ、平多正於舞蹈研究所、江口富美子バレエグループ、坂本・高部バレエスタジオ・フロート、ピブラフォン奏者の浜田均さん、ドラムに染谷太郎さんをお迎えし、総勢 390 人が元気いっぱい歌って踊った。青山劇場の歴史を締めくくるコンサートの最後には劇場スタッフによるサプライズも飛び出し、今まで出会った全ての皆さんと、青山劇場に「ありがとう」の気持ちを込めた華やかで感動的なフィナーレとなった。 (青山劇場)



青山劇場ファイナルコンサート「こどもたちからのサウンドメッセージ」

4階エリア

映像科学



正月特集（作品紹介）



視聴ブースを飾り付け



「驚き盤」ミニ

平成 26 年度の活動

ビデオライブラリーでは、各ブースに映像を送出する端末パソコンをサーバーで制御して運用している。これまで機材の保守について業者と契約を結んできたが、本年度は端末パソコンが修理対応期限を超えたため、サーバーシステムのみでの保守契約となった。端末パソコンの故障対応はスタッフが行わないと、機材に不具合が発生するたびに使用できるブースが減っていくという状態となった。その結果、〔こどもの城〕ビデオライブラリー最終年度は、端末をはじめブースでの視聴環境を維持していくことに最も注力した1年となった。

ビデオライブラリーは、約2万3千タイトルのビデオ作品を収蔵している。利用者が作品を選ぶには作品をリスト化した冊子「カタログ」か、陳列した作品のパッケージから選ぶ、あるいは作品リストをデータベース化したパソコンを利用するという方法がある。しかし、カタログについては作成にかかる労力やコストから近年は更新を行っていない。パッケージについては陳列スペースの都合で、ごく一部の作品しか紹介していない。全ての収蔵作品の中から見たい作品を選ぶことができなければ意味がない。そこで、本年度はパソコンの作品検索システムの改良を行い、より快適な作品選びができるように工夫した。

作品の検索システムは「けんさくくん」というソフトを、オリジナルで作成して使用している。このソフトのデータベース更新が煩雑で、頻繁に更新することが困難であったためソフトを新たに作り直すことから始めた。前バージョンからの主な変更点は、データ更新が容易、タイトル・時間・分類・年齢で相互に絞り込み検索を可能にしたことである。さらに「けんさくくん」への登録画像の追加にも注力した。また、特別な経費をかけられない中、ビデオライブラリー内の「使い方」などの表示を充実させ、「利用券」回収率を上げ、利用者の待ち時間を減らす工夫を行った。更に、新パッケージを作り、見やすいチャプターごとに同種のジャンルをグループ化し、初めての利用者でも簡単にソフトを選べ、スムーズに鑑賞できるような環境作りに努めた。

特筆すべき点として、夏期特別企画として7月下旬から9月いっぱい、暗くして内装を凝らした“怖いビデオを見る専用ブース”を作り、妖怪ブームと相まって利用者到大変喜ばれた。

月2回程度で開催の小学生向け映像・科学遊びプログラム「小学生ラボ」も人気プログラムや〔こどもの城〕ならではのプログラムを中心に開催した。

ビデオライブラリーは細かな機材メンテナンスとアルバイトを含めたスタッフの努力により最終日には501組という、通常の繁忙期の倍近い組数の受付・視聴に対応して閉館となった。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
ビデオライブラリー 自由利用	開館時間中	幅広いジャンルのビデオソフト約 23,000 タイトルを所蔵する、ビデオの図書館。 (ビデオライブラリー)
ハイ！ポーズアニメ と視覚がん具の展示	開館時間中 ※「ララボ」実施日除く	ビデオライブラリーの一角に設置した、アニメーションの体験コーナー。自分の姿を写して 3 コマアニメをつくる「ハイ！ポーズアニメ」のコーナーと視覚がん具ヘリオシネグラフ、プラクシノスコープ、アナモルフォシス画、3D スコープの展示コーナーを設けた。 (ビデオライブラリー)
小学生ラボ	月に 2 日程度、日曜を中心 に実施 13:00 ~ 16:00	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。詳細別表。 (ビデオライブラリー)

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 小学生ラボスペシャル	4.3 ~ 6 13:00 ~ 16:00	アニメの撮影体験コーナー。切り紙で作った魚のキャラクターを撮影するコーナー、ビーズを撮影するコーナー、人形アニメの骨格＝アーマチュアを撮影するコーナー、がん具のピンスクリーンを撮影するコーナーの 4 種類を設置した。 (ビデオライブラリー)
〈児童福祉週間〉 小学生ラボスペシャル ピンホールカメラを作ろう！	5.3 ~ 6 13:00 ~ 16:00	針穴を通った光がスクリーンに像を写すピンホールカメラを制作。紙で筒状のパーツを 2 個つくり、ズーム式のピンホールカメラを作った。 (ビデオライブラリー)
〈夏休み〉 小学生ラボ夏休みスペシャル1 サカサコトバに チャレンジ	8.6 ~ 8 13:00 ~ 16:00	「うまがまう」「くるまがまるく」のように、普通に読んでも逆から読んでも同じ読みになる言葉“回文”を考え、その言葉を説明するイラストを加えた回文カードを作成して楽しんだ。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 小学生ラボ夏休みスペシャル2 円盤アニメを 作ろう！	8.21 ~ 24 13:00 ~ 16:00	夏休みの混雑期のため、じっくり工作を行う「驚き盤」ではなく、驚き盤のイラストを描くことを楽しむプログラムとして「円盤アニメ」を実施した。描いた円盤アニメをその場で動かしてみるビュワーソフトは動きのスピードを調節できるようにするなどの改良を加えた。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 小学生ラボ夏休みスペシャル3 計算尺で縮尺計算に チャレンジ！	8.28 ~ 31 13:00 ~ 16:00	計算尺とは対数メモリをふった 2 つの定規をスライドさせて乗算除算を行う道具。5 インチサイズの計算尺を再現した。今回は定規のメモリを追加した型紙を新たに作成し、地図等の縮尺計算を楽しんだ。新規プログラム。 (ビデオライブラリー)
〈冬休み〉 小学生ラボクリスマススペシャル シネカリアニメに チャレンジ	12.21・23 13:00 ~ 16:00	真っ黒な画面の映画フィルムを針で引っ搔いて線を描き、アニメーションを制作する方法をシネカリアニメーションという。黒い画面にキラキラ輝くような線が浮かび上がる不思議な画面のアニメづくりを楽しんだ。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 小学生ラボ冬休みスペシャル 驚き盤祭り 1	H27.1.4 ~ 7 13:00 ~ 16:00	[こどもの城] の驚き盤プログラムでは参加者の年齢や絵を描くことの得意・不得意などに合わせて描くコマ数を選んだり、塗り絵を選ぶことができるようにさまざまな用紙をデザインしてきた。今回は、これまで制作してきた用紙の主だったものから好みの用紙を選んで制作できるようにした。使用した用紙は 3、4、6、8、12、20 コマ用紙。12 コマと 20 コマ用紙には塗り絵用紙も用意した。 (ビデオライブラリー)
〈ファイナル〉 驚き盤祭り 2	1.11・12、31・2.1 13:00 ~ 16:00	比較的低年齢の参加者が多いことから、コマ数の少ない用紙を充実させる目的で、新たに 2、5、7 コマ用紙を制作した。コマ数の少ない用紙には混雑対策の意味もある。最終週となった 1 月 31 日、2 月 1 日には混雑対応として整理券を配布した。13 時開始で各回 45 分。31 日は 4 回、1 日は 5 回実施。整理券は各回の 45 分前に配布した。 (ビデオライブラリー)

□□□ 講座・クラブなど □□□

■ ■ ■ 短期講習会 ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みこども映像研究室 手作り映像おもちゃで 映画のしくみを体験 ヘリオシネ グラフ	(人) 小1～高3 (各回5)	(人) 計 24	7.23～26 10:15～11:45	スリットのあいた円盤ごしに動画の描かれた円盤をのぞくと、絵が動いてみえる視覚がん具を制作。動画を描くのが苦手な人向けに、塗り絵用紙も多数用意。受講料＝2,000円。 (ビデオライブラリー)
手作り映像おもちゃで 映画のしくみを体験 ブラクシノ スコープ	小1～高3 (各回5)	計 24	7.30・31・8.1・2 10:15～11:45	映画が発明される前にあった視覚がん具のブラクシノスコープを制作。帯状の紙に動画を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵を動かしてみる。受講料＝2,400円。 (ビデオライブラリー)

□□□ その他 □□□

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	体育部門の「母と子のすくすくランド」5本(1・2期2コース分、3期1コース分)の講座の内容をビデオソフト化して参加者に販売。
事業記録映像保存	通年	過去に記録してきた[こどもの城]の事業記録映像のデジタル映像化を行った。前年度に引き続き事業本部依頼の映像デジタル化作業として、[こどもの城]館内自主放送での催し案内のファイル化を中心に作業を行った。
映像科学ブログ	通年	[こどもの城]の映像遊びのプログラムを「映像科学ブログ」というブログ形式でインターネット上に公開。[こどもの城]のプログラム用に開発した驚き盤ビューアソフトの公開や、[こどもの城]での映像関連のワークショップ参加者の作品紹介のページも多く作成した。

新しくした「けんさくくん」の画面



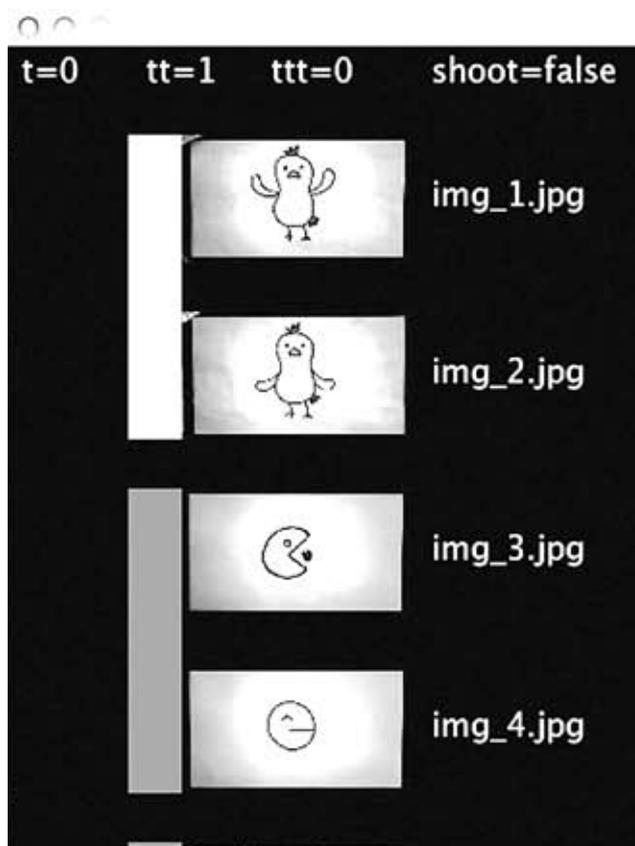
季節感を感じさせる視聴ブースの飾り付け

□□□ プログラム一覧 □□□

■ ■ ■ 小学生ラボ ■ ■ ■

13:00~16:00 / ビデオライブラリー

名 称	日 時	内 容
驚き盤をつくらう	4.13・20	円盤に描いた絵を動かしてみる視覚がん具「驚き盤」を制作。用紙には白い紙と黒い紙を貼り合わせて作った〔こどもの城〕オリジナルの驚き盤用紙を使った。12 コマの絵が動いてみえる「驚き盤」を作成した。
逆回転でしゃべろう	5.11・18	言葉をローマ字表記にして、それを逆から発音すると、逆再生した時に正しく聞こえる音になる。好きな言葉を逆再生して正しく聞こえる音になるように工夫して遊んだ。
オンブロチネマ	6.8・15	2 枚の絵を格子状にスライスして一つおきに並べ、これを格子状のマスクを重ねてスライドさせると絵が動いて見えるという視覚がん具。2 枚の絵を格子状に並べ直す行程をインクジェットプリンタの重ね刷りで行い、作業の簡略化を試みた。
驚き盤ミニ	7.6・13	3、4、6、8 コマの小型驚き盤作りにチャレンジした。4 月実施の「驚き盤」にくらべ、少ないコマ数でアニメーションづくりを体験できる用紙を使った。
3 面ソーマトロープ	9.14・15	円盤の表と裏の絵が合成されて見えるソーマトロープ。そこにもう 1 面加えて 3 つの絵が合成されるソーマトロープ作りを楽しんだ。
ばたばたアニメ	10.12・13	「ばたばたアニメ」は〔こどもの城〕開館の頃に開始し、最も長く続けてきたプログラムである。29 年間の間に作業の効率化やその時代の機材に合わせ、さまざまなアレンジを加えてきた。今回は「プロセッシング」というプログラミングソフトを使い、パソコンと web カメラで手軽に撮影できるソフトを作成して行った。
赤青アニメ	11.23・24	1 枚の紙に赤いペンと青いペンで 2 つの絵を重ねて描き、この絵を赤と青のセルロイドをフィルターにして交互に見ると、赤、青それぞれの色が交互に消されてアニメのように見える。アニメーションの描画体験と、フィルターによる特定の波長の光が吸収され見えなくなることを体験するプログラム。パソコンと web カメラ でこの効果を擬似的に再現するアプリを作成して、完成作品の上映に用いた。



パソコンと web カメラで撮影できる「ばたばたアニメ」

赤青フィルターを使用した「赤青アニメ」撮影装置



保育研究開発



保育活動展



保育活動展「回顧展」



平成 26 年度の活動

保育研究開発部は「保育」をキーワードにすべての子どもと家庭が心豊かに、幸せに暮らせることを目指し、また子どもとの生活を豊かにするために「子ども家庭支援プログラム」を開館当初より実施してきた。一人ひとりの育ちに細かく対応することを重視した「保育」プログラム、親子同士の交流や子育てを楽しむ「家族」プログラム、子育てについての情報を伝える「情報提供」プログラムの3つを活動の柱とした。

最終年度となった本年度は、保育事業は253人の会員を対象に実施した。一般来館児・者事業については、保育室で行った「0・1・2歳のぼかぼか広場」が土・日曜日の乳児親子の遊び場として賑わいをみせた。夏休み特別期間の「親子工房」は、親子で作り楽しむことを視点に実施し、多くの親子の参加を得た。また、毎年実施している「幼児グループ」や「保育クラブ」の活動内容を紹介する「保育活動展」に併せて、開館以来の事業を振り返る「回顧展」を実施した。

■■■ 保育事業（保育クラブ） ■■■

「保育クラブ」（2・3・4・5歳児）保育は、例年「幼児グループ」（4・5歳児）との縦割り保育を実施している。本年度は事業最終年度のため、おもに「保育クラブ」3歳児と「幼児グループ」5歳児の2学年縦割り保育と、2歳児保育を実施した。4歳児は「保育クラブ」不定期利用児のみとなった。3歳児保育（週1・2日また不定期保育利用）は、給食活動や友だちとの関係づくりや造形活動など、集中して活動する機会を多く取り入れた。2歳児保育（週1・2日また不定期保育利用）では身の周りの習慣を身につけることや、砂場や自然物に触れることなどの感触を楽しむ活動を通して、遊びの中でさまざまなものに触れるおもしろさを感じることを大切にしたい。10月に実施した「さつま芋掘り」では、事前に保育室で絵本のストーリーに沿って「芋掘りごっこ」を楽しんでから、実際の体験を楽しんだ。

■■■ 保育事業（幼児グループ） ■■■

本年度は年長児（5歳児）5人のみの保育となった。少人数保育の良さを生かし、「密に関わり関係を深めていくこと」「自ら考え一つひとつついでに作り上げていくこと」を大切に活動を進めた。子どもたちには自分の意見を相手に伝え、相手の考えをすり合わせる経験を多く取り入れた。自ら作り出す楽しさを大切に活動を行った。日常使う身近なものを一から作る活動や、コミュニケー

シヨンのきっかけにパペット人形づくりに取り組んだり、親子活動では親子で協力し、親子での段ボールの家づくりや野菜の収穫など、話し合いながら取り組む活動を大切にしました。

■■■ 保育研究開発部門における30年間の活動 ■■■

保育研究開発部門は当初、「デイ・ケア部門」として準備が進められ、開館後は「保育研究開発部」と名称を変えて、総合児童センターの機能を生かしながら「保育事業」「一般来館者事業」「研修事業」の3つを柱に事業を進めてきた。

保育事業においてはターミナル保育構想に基づき、「保育クラブ」では一時保育（定期保育・不定期保育）を中心に先駆的な保育活動を実施、併せて相談事業や親子活動の充実に努めた。「幼児グループ」では従来の保育形態に捉われない4・5歳児週4日の保育で、〔こどもの城〕のさまざまな部門（体育・造形・音楽・プレイ）を保育に生かした保育活動の開発に取り組んだ。



「幼児グループ」の保育活動から

1歳児親子向け事業では開館前、シミュレーションから実施した「母子教室」（母親と子ども）からスタートし、「親子教室」（両親と子ども）、「おやこクラブ」（父親か母親と子ども）と名称と参加者対象者を変えながら、支援を続け、平成25年度をもって事業を終了した。

一般来館児・者事業は開館以来、小学生以上の活動が多かった〔こどもの城〕の中で、数多くの乳幼児事業をいち早く手掛けてきた。現在では全館事業となった「0・1・2歳のぽかぽか広場」に保育の立場からかかわった。特別期間には、作って遊ぶをテーマに親子のかかわりを大切にする「親子工房」を継続的に実施した。

研修事業では、保育事業を土台に多くの研修会を実施した。「保育セミナー」（昭和62年度～平成21年度）では、今では当たり前になった「家族の中の子ども、地域・社会の中の子育て家庭」という視点で少し先の時代を見据えたテーマ設定で実施した。また、保育所や幼稚園での相談活動のスキル向上のための「子育て相談研修会」（平成元年度～平成22年度）、子どもの理解を深めるディスカッションなどの手法で具体的に学ぶための「保育内容研修会」（平成3年度～平成5年度）を実施した。平成23年度から3年間は、保育や子育て支援の現場で使える実技研修会を実施し、研修事業をすべて終了した。

このような子育て支援研修会の内容をダイジェストするところから始まった「ニュースレター」は、その周辺情報をのせる等内容を広げ「子育て支援のニュースレター」と名称を変え本年度まで23年間実施し、子育て周辺情報を発信し続けた。

■■■ まとめ ■■■

多様な保育サービスの先駆的な実践の場として保育研究開発部は開館以来「児童の集団保育実施、指導技術の研究・普及」に努めてきた。その間、子育て支援や仕事と子育ての両立支援などの多くの施策が打ち出され、利用者が各家庭の就労形態や育児方針に沿った保育を自由に選択する時代へと大きく転換した。その転換が始まる前に、いち早くさまざまなニーズや課題に取り組むべくスタートしたのが保育研究開発部門の事業であった。その中で子どもの育ちの保障と保護者ニーズへ対応したシステム作りが課題となり、現在のシステムとなった。

その後30年が経過し、平成27年4月より子どもをうみ育てやすい社会の創設を目的とした「子ども子育て支援法」のもとで、「子ども・子育て支援新制度」がいよいよ全国で本格的に始まる。〔こどもの城〕での保育事業は本年度をもって終了となるが、全国各地で展開される多様な保育サービスが根付き、保育研究開発部が立ちあがった目的である「すべての家庭の子育てが益々豊かになっていく」保育が推進されることを期待したい。

平成 26 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
親子遠足	5.10 11.24	「保育クラブ」2～5 歳児の家族プログラム。家族同士の交流を図ることがねらい。春は代々木公園で、家族のコミュニケーションゲーム（動物体操・動物に変身ゲーム・借り人あそび・みんなで探そうブロックワード）で楽しんだ。48 組 139 人が参加。秋は 9 月に代々木公園がデング熱感染対策で閉鎖となったため、[こどもの城] 体育室で「おやこ DE スポーツ」を実施。30 組 87 人が参加。 (代々木公園)
保育活動展	10.7～19	「幼児グループ」を中心に「保育クラブ」の 2～5 歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、個人制作、写真などで紹介した。本年度の「幼児グループ」は、「ぼくの家・わたしの家」「お泊り保育新聞」「大きい家」「等身大の自分」、3 歳児は「にじいろの樹」「じぶんの顔」、保育クラブ 2 歳児は「フィンガーペインティング」親子制作「お花」・保育活動写真を展示。あわせて、29 年間の事業を振り返り『回顧展』を開催。過去に保育を利用した親子も訪れた。 (ギャラリー)
0・1・2 歳の ほかほか広場	土・日曜日、祝日 10:00～17:00	0・1・2 歳のためのおもちゃや絵本を用意して、[こどもの城] に来館する低年齢親子が遊べる場。 (保育室 2)

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子 工房	8.16・17 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	身近にある材料を工夫して親子で工作を楽しんだ。カラフルな帯状の画用紙でいろいろな顔を自由に制作。見本通りにきっちりとする親子や自由な発想で作る親子など、さまざまな姿が見られた。2 日間で保護者 74 人、子ども 70 人が参加。 (保育室 1)
〈 〃 〉 小中高生 保育体験プログラム	7.22～8.29 10:00～14:00 14:00～16:00	「幼児グループ」修了児の小学 5 年生～高校 3 年生を対象に、夏休み特別期間の保育中に幼児と触れ合う機会を提供した。毎年継続的に参加していた子どものほかに、本年度が最後の機会であるため初めて参加する子どももいた。保育者は様子を見ながら、参加者と幼児が人間的なかかわりが持てるように意識してつないだ。小・中・高校生にとっては自分の成長が感じられる体験となり、幼児にとっては年上への憧れの気持ちを抱く良い機会となった。参加者 25 人、延べ人数 43 人 (保育室 1・2 ほか)
0・1・2 歳の ほかほか広場	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	[こどもの城] に来館する 0・1・2 歳の親子が、おもちゃなどで自由に遊べる場の提供。 (保育室 2)

「保育クラブ」の保育活動



□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■■ クラブ ■■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 5 歳児 (13)	(人) 5	火～金曜日 10:00～14:00	[こどもの城] を保育の場とする週 4 日、2 年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に 3 歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部との連携プログラムも行う。保育活動展がその発表の場になった。「保育クラブ」に連動している。保育料 41,000 円、給食費 4,800 円 (いずれも月額)。延長保育料は別途。
保育クラブ	2～5 歳児 (定員 460 人/登録数 約 253 人)	4～7 9～12 6 4 (1日あたりの 保育枠)	月～金曜日(2 歳児) 10:00～13:00 10:00～14:00 火～金曜日(3～5 歳児) 10:00～14:00 10:00～16:00	登録をして利用する会員制の保育。登録数は 253 人。会員サービスには次の 3 つがある。保育プログラムは、①異年齢混合保育(2 歳児・3～5 歳児)：2 歳児保育は定期保育(週 1 または 2 回利用)とフリー利用保育。3～5 歳児保育は定期保育(週 1 または 2 回利用)とフリー利用保育、その他に延長保育を実施。②チーム保育(各保育者の持ち味を生かす)③保育ボランティア(小 5～社会人)の参加 ― などの特徴がある。家族プログラムは「親子遠足(春・秋)」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信(おやとこ)」年 4 回発行。ほかに、登録期間中は会員証で [こどもの城] の入館もできる。 入会金 5,000 円、年会費 5,000 円。保育料、2 歳児 1,350 円(1 時間)、3 歳児以上 1,000 円(1 時間)。給食代 600 円、おやつ代 200 円(1 回)。

□□□ その他 □□□

名 称	日 時	内 容
子育て支援の ニュースレター の発行	第 49(通巻 65)号 = H26.6 第 50(通巻 66)号 = H26.8 第 51(通巻 67)号 = H26.12	子育てをめぐる情報、現場などの動きをはじめ、各地の実践などを中心に取り上げた。主な配布先は、子育て支援にかかわる実践者、研究者、大学などで年間購読を希望する個人および団体。その他見学者、関係所管課に無料配布。年間購読料 2,000 円(郵送料、印刷代一部負担金)。



親子遠足「おやこ DE スポーツ」(体育室)



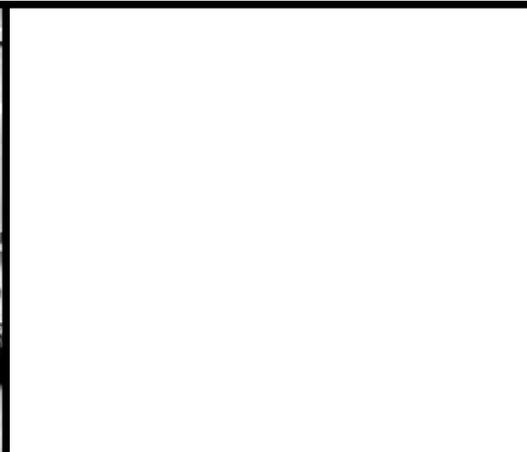
研修事業



みてこ！よってこ！てくてこパーク



実践女子高等学校 えほんのよみかたり



おはなしや

平成 26 年度の活動

研修事業部門では本年度登録のボランティアが、事業運営に効果的な働きをするとともに、ボランティア本人にとってその活動が充実した活動となるためのコーディネートに努めた。特に本年度は、〔こどもの城〕最終年度であり、職員状況、事業内容が大きく変化した。こうした中でも意欲的にボランティア活動を継続してもらえよう働きかけることが、本年度の重要なポイントとなった。年度当初に登録ボランティア全員に向けて研修会を実施し、〔こどもの城〕が置かれている環境、果たすべき役割、ボランティアに期待する活動内容を説明し理解を深めた。また年間を通した活動でも、ボランティアとの情報交換に努め、職員とボランティアの信頼関係を築けるよう努めた。

職員のこうした動きに連動し、〔こどもの城〕各エリアの日常的なサポート活動、「秋まつり」や「赤ちゃん大集合」など大型イベントのサポート活動、昔遊び、人形劇、工作などのボランティアの自主グループによる活動など、〔こどもの城〕閉館まで熱意あるボランティア活動を展開した。また、〔こどもの城〕閉館後に、今までの活動の中で培ったさまざまなノウハウを、ボランティアとしてそれぞれの地域で継承していくための準備も行った。高校生世代のボランティア「L.I.T. (Leader In Training)」の活動も、前年度から引き続き実施され、8月で平成元年から実施してきた活動に幕を下ろした。

研修事業は、基本となる柱として、①全国の児童厚生員を対象にした指導者研修事業 ②〔こどもの城〕ボランティアの育成事業 ③手話や点訳講習などの社会福祉実践に関する事業の3本を設定し、開館当初からその事業運営が開始された。それぞれの事業を総括すると次のようになる。

□全国の児童厚生員を対象にした指導者研修事業□

「児童厚生員等実技指導講習会」として実施してきたこの事業は、常に〔こどもの城〕の実践活動を生かした先駆的、実験的な指導技術、プログラム実践を紹介してきた。開館当初は実技指導を中心に実施したが、虐待、不登校、いじめなど中高生世代まで含めた児童の課題が複雑化、深刻化する中、その内容も変化してきた。特にこうした状況に対応するために必要な児童館機能の見直し、児童厚生員の社会福祉援助技術の向上はもっとも重要なテーマとなっていった。

□こどもの城ボランティアの育成事業□

〔こどもの城〕ボランティアは、開館1年前より育成講座「ボランティア講習会」を実施し、年2～3回のペースでボランティア育成を行ってきた。毎年、さまざまな価値観を持つ学生から社会人まで、300人以上が登録した。ボランティアに意欲的に活動してもらうためには、職員の働きかけ

が非常に重要で、毎年試行錯誤しながらその実践を積み上げていった。効果的にボランティアに活動してもらうためのコーディネートの手法は、先駆的な実践例として全国の児童館に紹介され、児童館におけるボランティア活動活性化の一助となった。また、当初ボランティアの研修事業の一環として実施したキャンプ事業も、利用者のニーズに対応する中、内容・回数が拡大し、児童館がボランティアと共同で実施する野外活動の先駆的な実践例として全国に紹介された。

□手話や点訳講習などの社会福祉実践に関する事業□

高校生以上を対象に実施していた「手話講習」「点訳講習」は、各地域で同様の講習会が多く実施されるようになった現状を受け、開館 10 年目で事業運営を廃止した。代わりに児童が、社会福祉の実践を通しながら、障害を持つ人々を理解し、支えあう社会のあり方を考える機会を設ける講習会を実施した。高校生世代のボランティア活動事業「L.I.T.」や、小中学生の社会福祉講座「じょいんクラブ」がそれに当たる。

平成 20 年前後から児童館における中高生世代のアプローチが重要視される中、〔こどもの城〕の実践はボランティア活動を軸とした高校生世代のグループ活動の在り方を考える一つの例として、全国に紹介された。

〔こどもの城〕の研修事業は、児童厚生員の研修、ボランティアの育成、児童の社会福祉活動の実践と言う側面から、全国の児童館を支えてきたと考えている。それは同時に地域社会における児童館の役割の重要性やその機能のあり方を考え、児童厚生員やボランティアの資質向上への取り組みでもあった。現代社会においても地域社会における児童の課題は、複雑化、深刻化しており、児童館を中心にした地域社会の児童を育む力はますます重要になってくると考えている。



ずぶぬれ!! アクアフェスティバル
～ゆかいな仲間と海の宮殿～

新春あそびのお年玉
—め〜でたフェスティバル めざせ!あそびのメ〜人—



登録ボランティア研修会

まほうの絵本とひみつの呪文 (L.I.T. の活動から)



平成 26 年度活動一覧表

□□□ ボランティアの活動 □□□

■■■ 定例活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
エリアサポート活動 (各エリア)	通年	[こどもの城] 館内の各エリアでのさまざまな活動のサポートを行う。 (各エリア)
保育活動 (保育研究開発)	月～金曜日 10:00～16:00	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り運営補助。 (保育室ほか)
0・1・2歳のぼかぼか広場 (全館事業)	火～日曜日 11:00～16:00	各部門のスタッフが交代で担当する「子育て広場事業」のサポートを行う。 (Aスタジオほか)
みんなのこここ広場 (プレイ)	水曜日 15:00～15:30	第1・3週は「紙芝居」、第2週は「人形劇」、第4週は「影絵」。各女性ボランティアグループが担当し、公演を行う。 (プレイホール)
おりがみあそび広場 (プレイ)	木曜日 14:30～15:30	毎回1～2種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝えながら、いっしょに遊ぶ。 (プレイホール)
絵本であそぼっ (研修)	金曜日 14:00～14:30	幼児とその親子を対象に、絵本の読みかたり。その後、少しの時間、個別に絵本を読む時間も設ける。 (Aスタジオ・プレイホール)
みかんちゃんズ のオバオサンバ (音楽)	金曜日 14:30～15:00	スタッフとともに“サンバ”のリズムを中心にしたリズム遊びの活動。演奏やプログラム進行を行う。 (音楽ロビー)
手作りおもちゃ (研修・プレイ)	第2・4金曜日 10:30～15:30	プレイホール幼児コーナーの「抱き人形」や、赤ちゃんも遊べる遊具の制作。季節ごとの環境設定を手作りの手芸品で行う。 (ボランティアオフィス)
ビッグサタデー (体育)	土曜日 10:30～12:00	小4以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケットボール、バレーボール、テニスなど、基礎練習から試合まで行う。 (体育室)
手足の不自由な子の スイミング (体育)	土曜日 17:00～18:00	講座に参加する子どもたちにボランティアが1対1でサポート。水泳の補助や安全面に配慮する。 (プール)
土曜昔あそびの会 (研修)	第2土曜日 14:00～16:30	屋上ふしぎが丘を中心に、こまや三つ馬などの伝承遊びを実施。親子での参加が多い。 (ふしぎが丘ほか)
こどもの城アドベンチャー (研修)	第2日曜日 14:00～17:00	こども活動エリア全体を使った、ウォークラリー形式のゲーム。館内に設置された課題を探し、謎解きをする。子どもたちに人気のプログラム。(全館)
ボラカフェ (研修)	月1回土曜日 18:00～20:00	青年ボランティア各グループで構成される組織。活動の活性化をめざし、交流会、学習会、機関紙の発行などを行う。セルフヘルプ活動。(研修室ほか)
L.I.T.=高校生ボランティア (研修)	月2回日曜日 10:00～16:00	年間をとおして高校生が行うボランティア活動を支援。ボランティアは、プログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとしての働きを担う。 (会議室ほか)
おはなしや (研修)	第4日曜日・月1回祝日 13:00～15:30	「人形劇」と「パネルシアター」の公演を行う。公演の合間は、パネル布を使ったワークショップで自由に遊ぶ時間。 (Bスタジオ・プレイホール)
絵本の読みかたり (研修)	第2日曜日 ① 14:00～14:30 ② 15:00～15:30	絵本の読みかたり。4～5冊程度の絵本を読み、その後、自由に絵本を読む時間(約10分)も設けている。 (保育室・保育室前の廊下)
つくってあそぼう!!! (研修)	第3日曜日 13:30～16:00	小学校低学年を対象に、身近な素材で手作りおもちゃのワークショップを行う。 (Bスタジオほか)
日曜クラブ (研修)	第1日曜日 14:00～16:30	縄跳び、フラフープ、ドッジボールなどを実施。幼児～小学生と親の参加がある。最後にレクリエーションゲームの集いも行う。 (ふしぎが丘ほか)
女性総会 (研修)	月1回(年度始めに提示/火～金曜日) 11:00～12:00	女性ボランティア各期のメンバーが、毎月交代で参加し、連絡事項の伝達、検討事項を話し合う。女性ボランティア全体の活性化をめざすことが目的。
花壇ボランティア (研修)	第3木曜日	前年度に引き続き、チューリップやひまわりなど、年間を通じてエンタランスの花壇を季節の草花で彩る活動を行う。草取りや清掃なども実施。

■■■ 特別期間中の活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 おもちゃ箱シアター (研修)	5.3～6 11:00～16:00	紙芝居、人形劇、影絵、絵本、パネルシアターなど、表現活動系のボランティアグループが集い、日替りで公演。また、小学生以上を対象にした「キッズ人形劇団」(1時間程度の練習の後、公演)や、ペープサートのワークショップも行った。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 海賊たちの大冒険～ふしぎの海を駆けめぐれ！～ (研修)	5.3 13:00～16:00 5.4～6 11:00～16:00	海賊をテーマにしたゲーム大会を実施。海賊をモチーフにした数種類のゲームをクリアするともらえるカードを集め、海賊の船長から「海賊の証」をゲットするゲーム大会。 (ふしが丘)
〈夏休み〉 ずぶぬれ!! アクアフェスティバル～ゆかいな仲間と海の宮殿～ (研修)	8.14～17 11:00～16:00	水を使った数種類のゲームをクリアするともらえるリングを集めると、水鉄砲を使ったゲーム大会に出場できる。大会の参加者は、最後に「フレンドフィッシュバッチ」をもらえた。 (ふしが丘)
〈 〃 〉 まほうの絵本とひみつの呪文 (研修)	8.1・3 11:00～16:00	L.I.T. が実施したストーリー仕立ての館内ラリー。悪い魔法使いに変えられた「お話」を、来館児・者同士が協力して、良い魔法使いとともに、悪い魔法使いを倒すために、さまざまなゲームや課題に挑戦する。 (フリーホールほか全館)
〈ファミリーフェア〉 みてこ！よってこ！てくてこパーク (研修)	11.1～3 11:00～16:00	大人と子どもが心を通わせる空間をめざす、「公園」をテーマにしたボランティアプログラム。ロードコーンを使った巨大迷路や縁台将棋などを実施。紙芝居や駄菓子屋も運営し、子ども同士の交流の場を設けた。 (ピロティ)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉一め～でたフェスタ めざせ！あそびのメ～ル～ (研修・プレイ)	12.27・28 11:00～16:00 H27.1.4～7 11:00～17:00	12月27日～1月4日に缶ゴマ、ベーゴマ、メンコ、内ゴマ、坊主めくりを実施。その他に特別プログラムとして、巨大福笑い、巨大すざろく、巨大折り紙も行った。1月4～7日は、かるたを実施。どちらも多くの子どもたちで盛況だった。プレイ部門との共同企画。 (プレイホール)
〈ファイナル〉 ドドンとババーンと遊んじゃおー！～ボランティア活動大集合～	1.31・2.1 10:30～16:30	両日、屋上遊び・さよならの集いのイベントを実施。大きなジャンケンサイコロを使ったゲーム、猛獣狩りなどの集団ゲームを行った。それに常時活動してきたボランティアのグループも加わって遊びを盛り上げた。 1月31日は「こどもの城アドベンチャー」と「土曜昔遊び」。2月1日は、「日曜クラブ」、「おはなしや」「絵本読みかたり」「つくってあそぼう!!!」「くるくるアニメ」。 (ふしが丘・フリーホール・11階会議室・保育室)

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
L.I.T. (Leader In Training)	(人) 高校生 (30)	(人) 18	日曜日 10:00～16:00 (原則/月2回)	高校生の社会参加プログラム。トレーニング中のリーダーという意味で、〔こどもの城〕を中心に、〈あそび〉をとおして子どもたちとふれあうボランティア活動。平成25年9月から平成26年8月まで、月2～3回活動した。年に数回、子どもたちを対象としたプログラムを企画・運営し、ボランティア活動を行うことの楽しさや喜びを体験的に学んだ。受講料=10,000円(1年間)。

■■■ 講習会など ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成26年度登録ボランティア研修	(人) 平成26年度こどもの城登録希望ボランティア	(人) 延べ 222	4.10・12・13 各日10:00～12:30	登録更新をしたボランティアを対象に、本年度の事業方針や活動方法のガイダンスを行う。また、活動についての意識の共有や連帯を図ることを目的としたワークショップを行う。 (会議室)

劇場事業



ア・ラ・カルト アンコール



月猫えほん音楽会 2014Final



青山バレエフェスティバル Last Show

平成 26 年度の活動

児童健全育成事業の劇場としての意義を深めるために策定した「自主・提携公演の実施方針」に則り、子ども文化のすぐれた発信場所としての地位を保つよう努力するとともに、〔こどもの城〕施設全体の維持のための経済的な側面にも意識した事業運営をめざした。

自主（共催）・提携公演として、青山劇場で 2 公演、青山円形劇場で 20 公演を実施した。このうち『Dance New Air - ダンスの明日』は、文化庁の国際芸術交流支援事業に選ばれた。

劇場貸与については、青山劇場が 16 件、青山円形劇場が 14 件であった。

国費による工事期間を除いた稼働日数は、青山劇場使用可能日数 306 日中 262 日、青山円形劇場使用可能日数 300 日中 264 日とほぼ 86%の稼働状況であった。

劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成を図るためのセミナー「APAS」(Aoyama Performing Arts Seminar) を 26 件実施した。

『Dance New Air - ダンスの明日』が文化庁の助成対象に選ばれるなど、自主（共催）・提携公演を通じて、文化の発信地としての劇場の意義を遺憾なく発揮できた。また、〔こどもの城〕にふさわしいファミリー向けの公演を低廉な料金設定と趣向を凝らした演出で行い、劇場全体の親子がライブならではの生き生きとした時間を共有することができた。

また、政治・経済・社会状況の変化にともない厳しい〔こどもの城〕の財政のなか、収益部門として収益の確保にも大きく貢献できたと思われる。

30 年を振り返り、青山劇場と青山円形劇場の果たした役割・成果は何だったのか？ 青山劇場は「東洋一」とうたわれた舞台機構を駆使したミュージカル公演が定着し、青山円形劇場は観客が取り囲む形状の舞台空間が、他の劇場ではできない演出ができることと創り手の感性を刺激し、小劇場ブームを牽引した。

また、両劇場はバレエ・ダンス文化の発信地としての役割も果たした。青山劇場ではバレエフェスティバルが 15 年間にわたって開催され、アジア初の『ローザンヌ国際バレエコンクール』の会場にもなった。近年はコンテンポラリーダンスのフェスティバルも開催され、世界各地からたくさんのダンサー・関係者が集った。このように世界に知られる文化の拠点となり、両劇場は大人も子どもも楽しめる本物の、そしてここでしかできない舞台芸術の創造・発信地として機能したものと思われる。

平成26年度公演演目一覧表

□□□ 青山劇場 □□□

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉 第14回全国児童館・児童クラブ大会 TOKYO	H27. 1.23・24	1	3,000 (前売=2,500)	1,078	800	74.1	
青山バレエフェスティバル—Last Show—	1,27~30	2	S=9,000 / A=7,500	2,384	1,843	77.3	
(自主・提携公演 小計) 2件	6日	3		3,462	2,643	76.3	
〈内部利用〉 こどもの城児童合唱団・混声合唱団青山劇場ファイナルコ ンサート「こどもたちからのサウンドメッ セージ～出会った数だけありがとう～」	H27.1.31	2	M=1,000 / S=2,000	2,210	1,230	55.7	
(内部利用 小計) 1件	1日	2		2,210	1,230	55.7	
〈貸し館〉 バルコ・プロデュース ブロードウェイ・ミュージカル 「アダムス・ファミリー」 (バルコ)	4.1~20	15	S=11,500 / A=8,500 / U25 チケット =5,000	15,630	10,822	69.2	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.21~5.11	25	S=8,500 / A=6,800 / 立 見 =4,200	27,825	24,283	87.3	
宝塚歌劇100周年記念公演 「セレブレーション100! 宝塚 ～この愛よ永遠に～」 (梅田芸術劇場)	5.14~6.8	30	S=12,000 / A=8,000 / B=5,000 / 補助席 1F= 12,000 / 同 2F=8,000 / 立見 =4,000	35,666	29,671	83.2	
原点進化劇場 AOYAMA メモリアル ホラー「怪談・にせ血屋敷」 (RUP)	6.16~23	7	S=9,000 / A=5,000	7,294	5,443	74.6	
PLAYZONE1986...2014 ありがとう! 青山劇場 (ヤングコミュニケーション)	6.28~8.9	43	S=12,000 / 立見 =9,800	47,254	46,577	98.6	
舞台 ガラスの仮面 (松竹)	8.11~31	22	S=9,000 / A=6,000 / 立 見 =3,500	26,552	21,720	81.8	
ifi (イフアイ) (梅田芸術劇場)	9.1~21 (9.8 除く)	23	S=10,800 / A=8,800	26,597	20,459	76.9	
ブロードウェイ・ミュージカル 「オン・ザ・タウン」 (クオラス)	9.23~ 10.14	22	12,500	26,620	24,730	92.9	
藤澤ノリマサ CONCERT 2014 (サンライズプロモーション東京)	11.1~3	3	7,000	3,468	2,496	72.0	
ミュージカル 「アリス イン ワンダーランド」(ホリプロ)	11.4~30	27	S=13,000 / A=8,000 / B=4,000	29,850	18,815	63.0	
ファンタシースターオンライン2 (レイネット)	12.2~7	6	S=7,800 / A=6,800	6,780	5,887	86.8	
名倉ジャズダンススタジオ 第21回 青山劇場ファイナル公演 Can't Stop dancin' 2014 (名倉ジャズダンススタジオ)	12.8~14	6	S=9,000 (前売 =8,500) / A=8,000 (前売 =7,500) / B=6,000 (前売 =6,000)	6,564	5,999	91.4	
谷村新司リサイタル 青山劇場 FINAL ～CURTAIN CALL～ (キョードー東京)	12.16~19	3	10,800	3,426	3,176	92.7	
アニークリスマスコンサート (キョードー東京)	12.20・21	4	S=6,000 / A=5,000	4,840	4,136	85.5	
PLAYZONE 30YEARS 1232 公演 (ヤングコミュニケーション)	12.23~28、 H27.1.4~22	24	S=12,000	26,306	25,492	96.9	
(貸し館 小計) 15件	255日	260		294,672	249,706	84.7	
(青山劇場 合計) 18件	262日	265		297,056	251,549	84.7	

□□□
青山円形劇場
□□□

名 称	日 時	回 数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉 青山円劇カウンシルファイナル 「赤鬼」 (共催：ネルケプランニング)	6.2~15	15	3,500	5,008	4,394	87.7	
パフォーミングアーツ・フェア2014 (提携：玉川大学)	6.16~22	6	一般2,500/学生=2,000/リピー タ料金(一般=1,500、学生=1,000)	1,518	1,474	97.1	
少年社中第29回公演「ネバーランド」 (提携：少年社中)	7.6~15	12	5,000(前売=4,500)/ U-19=2,000	3,636	3,445	94.8	
Aoyama First Act #11 アンダーヘア vol.1「マボロシ兄妹」 (提携：悪い芝居)	7.16~21	6	4,500(前売=4,000)/U25 =3,500(前売=3,000)/高 校生=2,500(前売=2,000)	1,010	760	75.3	
えほん×ジャズ=コドモオトナもめちゃ ² 楽しいシアターライブ 月猫えほん音楽会2014 Final	7.22~27	7	大人=2,500/子ども=1,500	2,100	1,664	79.2	
KAKUTA 第24回公演「痕跡(あとあと)」 (提携：劇団 KAKTA)	8.7~17	11	4,300(サービステア=3,800/先 行予約=3,800/早割=4,000 /学割=3,000)	2,794	2,115	75.7	
Dance New Air 2014 ダンスの明日							
赤い靴	9.9~15	6	4,300(前売=3,800/学生= 2,500)/はしご券=8,500/通 し券=22,000	1,712	1,148	67.1	
Project Pinwheel	9.16~19	2		374	183	48.9	
談ス	9.20~23	3		1,014	980	96.7	
Les Oiseaux (鳥) La Traverse (渡洋)	9.24~28	2		366	212	57.9	
To Belong / Suwung	9.29~10.5	3		600	559	93.2	
青山演劇フェスティバル SPECIAL サヨナラの向こう側2014							
バンダ・ラ・コンチャンコンピアルバム 「御免ん祭～近藤さん出ずっぱりだって!!～」 (提携：バンダ・ラ・コンチャン)	10.6~13	8	4,900(前売=4,500)	2,000	1,370	68.5	
青山円劇カウンシル アンコール 「生きているものはいないのか」 (共催：ネルケプランニング)	10.14~26	16	6,000(17・18日のみ2,000)	4,663	4,137	88.7	
FUKAIPRODUCE 羽衣 「よるベナイター」 (提携：FUKAIPRODUCE 羽衣)	10.28~ 11.2	6	3,900(前売=3,500)/せいふ にやさしいシート(枚数限定=2,000) /ウルトラマニアチケット(特典あり =10,000)	1,628	1,211	74.4	
ベット&メイキングス「サナギネ」 (提携：ベット&メイキングス)	11.3~10	8	5,500(前売=5,000/学割 =3,500/高校生以下=1,500 /両サイド観劇引券=8,500)	2,135	1,816	85.1	
Théâtre des Annales vol.3 「トーキョー・スラム・エンジェルズ」 (提携：テアトルド アナール)	11.11~24	13	前期(17日まで)5,300(前 売=5,000/U25=3,000) 後期(19日から)5,800(前 売=5,500/U25=3,500)	3,328	2,008	60.3	
青山円形劇場プロデュース 「夕空はれて～よくかきうきやく～」	11.25~ 12.14	17	6,900	5,287	4,869	92.1	
青山円形劇場プロデュース 「ア・ラ・カルト アンコール～役者と音 楽家のいるレストラン～」	12.15~26	13	6,800(レビュー公演=5,000)	4,414	4,233	95.9	
こどもの城ファミリーオペレッタ 「夢の国のちびっこバク」	12.27~29、 H27.1.3~11	12	3,000	3,875	3,597	92.8	
第14回全国児童館・児童クラブ大会 TOKYO「青春際」	1.23~25	2	無料	420	300	71.4	
(自主・共催・提携 小計) 20件	177日	168		47,882	40,475	84.5	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈内部利用〉 こどもたちからのサウンドメッセージ ～歌はともだち～	5.31~6.1	2	1,500	522	495	94.8	音楽
(内部利用 小計) 1件	2日	2		522	495	94.8	
〈貸し館〉 東宝ミュージカル 「サ・ビ・タ～雨が運んだ愛～」(東宝)	4.1~6	9	6,500	3,151	2,531	80.3	
ナイロン100℃ 41st SESSION 「パン屋文六の思案～続・岸田國士一幕 劇コレクション～」(キューブ)	4.7~5.3	28	6,900 / 学生 = 4,300	7,981	6,687	83.8	
からくり人形楽団 ANNEX (ネクストロード)	5.9~11	3	7,300 (前売 = 6,800)	1,156	996	86.2	
Being at homw with Claude ～クロードと一緒に～(ZU々)	5.12~18	10	6,850 (前売 = 5,950) / 学生 = 3,900	2,498	1,896	75.9	
白崎映美 Presents 青山円形劇場 2days 「東北6県ろーるショー！」(19日) 「白ばらキャバレーナイトショー」(20日) (白崎映美)	5.19・20	2	5,500 (前売 = 5,000)	512	460	89.8	
Drastic Dance “0” 公演 「Studios・3」 (ドラスティックダンス“0”)	5.21~25	4	5,500 (前売 = 5,000) / 当 日ハーフプライス席 = 2,500	1,037	1,018	98.2	
猫森集会 2014 オールリクエスト in 青山円形劇場 (ネクストロード)	6.26・27	2	7,300 (前売 = 6,800)	766	619	80.8	
劇団ステージドア 第23回公演 ミュージカル「帰ってきたあいつ」 (劇団ステージドア)	6.28・29	3	3,000	967	828	85.6	
山田うん×高橋悠治 サティ「星たちの息子」全曲版 (山田うん)	7.2	1	4,200 (前売 = 3,800) / 学生 = 3,300	284	210	73.9	
アキコ・カンダ ダンスカンパニー公演 「夢、紡いで」(アキコカンダ事務所)	7.4・5	3	5,400	516	449	87.0	
JOE Company summer tour 2014 「4フィール - four feel -」 (ジョーカンパニー)	7.28~8.3	10	5,500	2,834	1,657	58.5	
Lenz ～桜の中に隠れた鳥～ (レイネット)	8.18~24	8	6,500	2,281	1,540	67.5	
望月龍平シアターカンパニー「Twelve」 (望月龍平カンパニー)	8.25~9.7	14	8,800 (前売 = 8,000) / 学 生 = 6,300 (前売 = 5,500)	3,521	2,272	64.5	
(貸し館 小計) 13件	85日	97		27,504	21,163	77.0	
(青山円形劇場 合計) 34件	264日	267		75,908	62,133	81.9	



青山円形劇場プロデュース「夜空はれて～よくかきうきやく～」



こどもの城ファミリーオペレッタ「夢の国ちびっこバク」

□□□ その他 □□□

■ ■ ■ 青山パフォーミング・アーツ・セミナー2014 (APAS) ■ ■ ■

名 称	対 象	受講数	日 時	内 容
〈ワークショップ〉 Project Pinwheel マスタークラス	経験者	(人) 10	9.15 13:30~20:30	ダンスワークショップ/講師=エステル・バルフェ (イギリス)、 チョン・ヨンドウ (韓国)、北村成美/青山劇場リハーサル室
クローディア・ ラ・ロコによる ワークショップ	経験者	22	9.16~20 18:30~21:00 ほか	ダンスワークショップ/講師=クローディア・ラ・ロコ (USA) / 11 階会議室
Performing the Air/Performing the Selfie	大学生	6	9.19~22 (うち 4 日)	ダンスワークショップ/講師=コスミン・マノレスク (ルーマニア) / 青山劇場リハーサル室
「BOX」オーディシ ョン&ワークショッ プ&ショーイング	経験者	12	9.21~10.5 (うち 7 日) 15:00~18:00 ほか	ダンスワークショップ/講師=ポール=アンドレ・フォルティ エ (カナダ) / 青山劇場リハーサル室ほか
ダンス ワークショップ	一般	5	9.24 18:00~21:00	ダンスワークショップ/講師=ハン・サンリユル (韓国) / 青山 劇場リハーサル室
ダンス ワークショップ	一般	12	9.25 18:00~21:00	ダンスワークショップ/講師=ナセラ・ベラザ (フランス/アル ジェリア) / 青山劇場リハーサル室
ダンスワークシ ョップ	一般	13	10.2 14:00~17:00	ダンスワークショップ/講師=コフランソワ・シェニョー (フラン ス) & セシリア・ベンゴレア (アルゼンチン) / 青山劇場リハ ーサル室
〈トーク〉 ルーマニア-日本 〈イースタン・コ ネクション〉アー ティスト・トーク	一般	(人) 13	9.13 14:30~16:30	コスミン・マノレスク (振付家)、山下残 (振付家)、ミハエラ・ ドンチ (ダンサー)、乗越たかお (作家・舞踊評論家) / 10 階会 議室
乗越たかお ダンス酔話会	一般	21	9.20 14:30~18:30	乗越たかお (作家・舞踊評論家) / 10 階会議室
クローディア・ ラ・ロコによる レクチャー	一般	50	9.21 14:30~16:30	クローディア・ラ・ロコ (詩人・ダンス批評家) / 10 階会議室
JaDaFo(日本ダンスフォー ラム) 連続トークVol.1 生かすも殺すも 小劇場	一般	32	9.26 19:00~21:00	企画・進行=石井達朗 (評論家) / ゲスト=伊藤直子 (セッション ハウス)、岸正人 (あうるすぽっと)、林慶一 (d-倉庫)、小野 晋司 (青山円形劇場) / 11 階会議室
JaDaFo(日本ダンスフォー ラム) 連続トークVol.2 ダンスを超える カラダ	一般	33	9.27 11:00~13:00	企画・進行=楢屋一之 (世田谷パブリックシアター) / ゲスト= 菅尾なぎさ (クリウイムバアニー)、羊屋白玉 (指輪ホテル)、矢 内原美邦 (ニブロール) / 11 階会議室
JaDaFo(日本ダンスフォー ラム) 連続トークVol.3 ダンスの深化と 拡張	一般	51	9.27 14:30~16:30	企画・進行=尼ヶ崎彬 (評論家) / ゲスト=田中混、北村明子、 山田うん / 11 階会議室
新たなダンス・ア ーカイブの手法	一般	33	10.1 19:00~21:00	オン・ケンセン (シアターワークス演出家、シンガポール国際芸 術フェスティバル芸術監督)、久野敦子 (公益財団法人セゾン文 化財団プログラムディレクター) / 10 階会議室
ダンスの明日	一般	36	10.2 14:30~17:00	伊藤千枝 (振付家・演出家・ダンサー・珍しいキノコ舞踊団主宰)、 石井達朗 (舞踊評論家)、オン・ケンセン (シアターワークス演出家、 シンガポール国際芸術フェスティバル芸術監督)、乗越たかお (作 家・舞踊評論家)、久野敦子 (公益財団法人セゾン文化財団プロ グラムディレクター)、小野晋司 (青山劇場・青山円形劇場) / 10 階会議室



ダンス・ワークショップ「BOX」ショーイング



〈新しい才能、発見!〉大学生ダンスプロジェクト

名 称	対 象	受講数 (人)	日 時	内 容
〈屋外パフォーマンス〉 15 X AT NIGHT	一般	—	9.20~10.4 (うち 15 日) 19:15~19:45 ほか	コンセプト=ポール・アンドレ・フォルティエ、ディアンヌ・ブッシュ / 振付=ポール・アンドレ・フォルティエ / 出演=マニユエル・ロック / ピロティ
〈新しい才能、発見!〉 大学生ダンスプロジェクト 『シッピング』	一般	—	9.13 16:30~17:00	武蔵野美術大学 / ピロティ
// 『(・o・)(・▽・)(・ s・)(・i・)(・s・)』	一般	—	9.14 16:30~17:00	多摩美術大学 / ピロティ
// 『がんばって踊ります のでよろしくお願いま す。』『As a mark of respect for 青山』	一般	—	9.15 16:30~17:00	日本大学有志 大東京舞踊団 / Von・noズ / ピロティ
// 『ヒマワリ』	一般	—	9.20 16:30~17:00	桜美林大学芸術文化学群演劇専修 丹 莨 2014 / ピロティ
// 『Pin-Gr-W~ Dance New Air 2014 version~』	一般	—	9.21 16:30~17:00	玉川大学 / ピロティ
// 『Thinking Time』	一般	—	9.22 16:30~17:00	大東文化大学 モダンダンス部 / ピロティ
// 『チャップリンのスピ ーチより』	一般	—	9.23 16:30~17:00	お茶の水女子大学芸術・表現行動学科舞踊教育学コース / ピロティ
// 『ダンス祭り』	一般	—	9.27 16:45~17:15	日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部 / ピロティ
// 『ニッタイダンスブ ームニバス』	一般	—	9.28 16:30~17:00	日本体育大学学友会ダンス部 / ピロティ
// 『時』	一般	—	10.4 16:00~16:30	筑波大学 ダンス部 / ピロティ

■■■ 青山劇場プロデュースによるツアー公演 ■■■

名 称	日 時	回数	内 容
月猫えほん音楽会	5.5・6	1	たましん RISURU ホール 小ホール (東京都立川市)
錆からでた実	11.8・9	2	京都芸術劇場春秋座 (京都府京都市) 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター
ア・ラ・カルト	12.27~30	3	近鉄アート館 (大阪府大阪市)



Dance New Air 2014 ダンスの明日
『To Belong / Suwung』



Dance New Air 2014 ダンスの明日 『談ス』



Dance New Air 2014 ダンスの明日 『赤い靴』

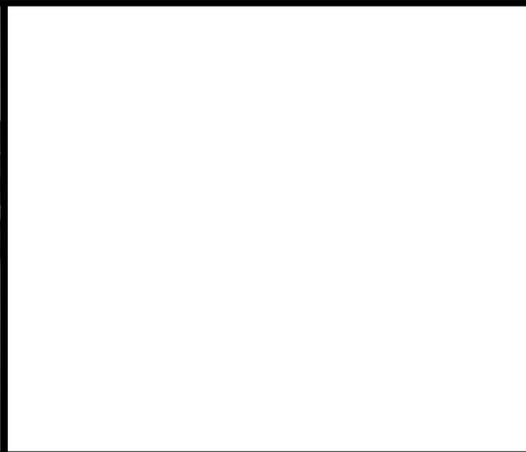
経営企画



「ぼかぼか広場」でスキンチェックとアドバイス(大島椿株)



赤ちゃん大集合



特殊塗料を使った体験イベント(株オプティマス)

平成 26 年度の活動

経営企画部は、新たな収入源の確保や経営全体の効率化を推進する目的で新設された部署として4年目となる。〔こどもの城〕全体の事業縮小を受け前年度末でホテルの運営を終了したことから、事業内容としては研修室の営業を中心に据え、外部企業との関係維持を図り、提携事業を広く実施することで、〔こどもの城〕運営全体のサポートとなるように事業を展開した。

また、研修室・駐車場・自動販売機の管理運営、売店・レストランの管理、利用者からの意見・要望などの把握、また利用者統計に関する事項を引き続き担当した。

企業と〔こどもの城〕の持つさまざまな資源の結びつきも、ますます関連企業に認知され広がって来ており、引き続き協賛・提携事業の具体化を進めた。

■■■ 企業との提携による事業 ■■■

3年目となる〔こどもの城〕の「フレンドシップ企業」制度を継続して運営した。登録された「フレンドシップ企業」は、〔こどもの城〕の事業と連携し、赤ちゃんのいる家庭のみならず、地域での子育てをさまざまな形で支援している。

本年度も10月に行われた「赤ちゃん大集合」や、11月の「ファミリーフェア」以外にも、「フレンドシップ企業」による商品サンプルの配布や参加型のイベントなどを実施した。

具体的には、大島椿株式会社が月1回、乳幼児から2歳未満向けの「ぼかぼか広場」にてスキンチェックとアドバイスとともにサンプルを配布した。

また、新規入会の株式会社オプティマスが、空気中の有害物質や臭いを吸着する塗料を親子で塗る体験イベントを9月に実施した。

最終年度ではあるが、企業との提携について、前年度以上に提携・協力関係を維持することができた。「フレンドシップ企業」の方々のみならず、これらの経験がより良い子育て支援、親子支援の活動の参考となり、今後の企業による社会貢献活動がさらに広がりを持つことを願う。

■フレンドシップ企業一覧■

持田ヘルスケア(株)／(株)赤ちゃんとママ社／マテル・インターナショナル(株)／アイクレオ(株)／(株)エイジェシー／大島椿(株)／(株)オプティマス／和光堂(株)／ビーンスターク・スノー(株)

(平成27年1月31日現在：順不同)

■■■ レストランの運営 ■■■

オープン 3 年目となる〔こどもの城〕のレストラン「カフェ・キャッスル」は、堅調に運営され、前年度の売上を越える月が更に増加した。レストランでの朝食提供は、前年度末ホテルとともに終了したが、引き続き劇場の売店、研修室の弁当、パーティーの飲食などを担当した。

■■■ まとめ ■■■

貸し会議室は、ホテルの終了に影響を受けたためか、年度当初の利用数が大幅に落ち込んだ。以前利用した企業を中心に積極的に連絡を取るなどの対策で、定期的に使用していた顧客が多少戻ったが、最後まで挽回はできなかった。

〔こどもの城〕の来館児・者数も年度当初は落ち込んだ。年間の開館日数自体が違うため比較しにくいですが、月単位で見ると、その後盛り返して前年度並みを維持できた。駐車場も、年度初めこそ来館児・者数とともに利用台数が落ちたが、料金実質値下げなどの効果もあり、利用者サービス部門の中では一番売上を挽回して、前年度並みを維持することができた。

〔こどもの城〕開館以来、〔こどもの城〕運営全体のサポートをするために事業を実施してきた営業部門であるが、〔こどもの城〕一般来館児・者向けの活動が 2 月 1 日終了した後、2 月 28 日をもって、駐車場以外の業務をすべて終了した。

4

こどもの城

30年の歩み

こどもの城 30年の歩み



皇太子殿下と同妃殿下（現天皇陛下）がご視察に（昭和60年12月6日）

30年間の活動のまとめ

国立総合児童センター〔こどもの城〕は、国際児童年を記念し児童福祉法に基づく児童厚生施設として厚生省（当時）が設置した。設置目的は、「子どもを全人的にとらえる」我が国最大級の児童福祉施設として、総合施設の機能を活用し健全育成機能、福祉教育、研修機能、福祉情報・研究機能、国際交流事業をふくめ次代を担う社会人を育成することにあつた（「こどもの城の基本構想」：昭和54年＝1979年）。

構想から6年後の昭和60（1985）年11月1日に開館、公益財団法人児童育成協会がその経営を委託され、子どもたちの健康と安全、健やかな成長を目的に、遊びを大切にプログラムを開発・実践してきた。また健全育成事業の普及支援、人材の育成・スキルアップ研修など、日本で唯一の国立総合児童センターとして児童健全育成分野におけるセンター的役割の実践を続けてきた。しかし、平成24（2012）年9月、国は施設の老朽化および、子どもをめぐる社会状況の変化を理由に平成27（2015）年3月末までの閉館を決定した。これを受け、公益財団法人児童育成協会は〔こどもの城〕の活動から退くこととなり、平成27（2015）年2月1日、〔こどもの城〕の一般利用を終了、同年3月末には講座等を含めすべての事業を終了した。

〔こどもの城〕は、開館以来おおむね毎年100万人の来館児・者を迎えてきた。平成26（2014）年7月13日には、2,800万人目の来館児・者を迎えた。多彩な遊びのプログラムの実践をとおして、子どもの可能性を引き出し、家族の子育てを支えてきた。本物に触れる体験や人とかかわる機会を提供し、感性を磨き、能力を培い、人とふれあう心地よさ、喜びや達成感を伝えてきた。子どもにとっての遊びは、自発性、創造性、人を思いやる心、役割、責任感、社会のルールを育むかけがえない栄養である。子どもたちがこれからも多くの人とふれあい、さまざまな刺激を受け、魂を揺さぶられるような体験を重ねてほしいと考えている。

「30年間の活動のまとめ」には、〔こどもの城〕の活動と、国立総合児童センターとしての役割と成果を取り上げた。「資料編」には来館児・者数など数字に現れる実績を掲載した。

また、平成27（2015）年4月1日には、これまでに実践してきたプログラムの一部を「こどもの城 Web ライブラリー」（<http://kodomonono-shiro-weblibrary.jp/>）として公表する。このライブラリーが、児童館活動の一助となり、健全育成のさらなる広がりにつながることを願っている。

□□□ 「こども活動エリア」の活動 □□□

〔こどもの城〕の活動は、日ごとに遊びにくる子ども、家族、団体を対象にした「一般利用活動」、固定されたメンバーで定期的に行う「講座・クラブ活動」、学校や保育所・幼稚園単位で特別プログラムを行う「グループ活動」に大別される。いずれの活動においても、子どもの〈あそび〉を専門的にとらえ直し、子どもの成長・発達に欠かせない“遊びのプログラム”として確立してきた。

■ ■ ■ 一般利用活動 ■ ■ ■

一般利用活動は、1日単位で入館する利用者へのプログラム活動を指す。プレイホール、造形スタジオ、音楽ロビー、ビデオライブラリー、屋上遊園、体育室、プールなどの遊び場で、毎日実践されてきたものである。“遊びのプログラム”は、年齢も体力も関心も異なる子どもの興味を引き立て、親のニーズを吸い上げ、成長・発達の機会につながる体験活動を意味する。さまざまな子どもが集まる〔こどもの城〕の活動から数多くのプログラムが誕生し、遊び場を利用した1,300万人を超える子どもや家族が、一日に複数のプログラムを体験してきた。“遊びのプログラム”の目的は「子どもの健全育成」にあり、そのなかでも、各エリアが専門性を生かして行ってきたものは以下のとおりである。

□体育部門の活動□

体育部門の活動は、体育室、プール、健康開発室などの体育エリアで実践されてきた。体を動かす楽しさを伝え、心身ともに健康になる基礎を養い、やがてスポーツへとつなげることを目的にしたものである。

運動不足と運動の偏りなどの問題解決には、幼いころから楽しく運動に親しむことが最も重要と考えて実践してきた。長年の経験による安全なプログラム運営のスキルを生かし、年齢も性別も運動能力も千差万別な子どもに対応してきた。得意不得意にかかわらず“全員が楽しく体を動かす”ことに配慮し、ボールなどの道具には全員がさわられるように工夫し、走ったり、大きく動くときには安全に配慮しながら全員が動けるように工夫してきた。年齢別の競技では、幼児には楽しく動くこと、高学年は勝負をかけたスピーディーな試合を取り入れてきた。スポーツの醍醐味とともに異年齢でチームを構成する貴重な体験となった。



〔こどもの城〕から生まれた「スポーツ鬼ごっこ」

心肺機能、骨や筋肉など体の機能に注目した「みんなのからだは芸術品」「汗はすばらしい友だち」「みがけ！みんなの運動センス」では、子ども自身が体の動きを意識し、体の仕組みを見つめ直すきっかけになった。道具や環境、指導

者がそろってなくてもスポーツ遊びを実践できるようにと開発した「身近な道具でスポーツ遊び」では、タオル、新聞紙、ひも、レジ袋などを活用して楽しく動くことを提案した。

体育室の壁面を利用した「ウォールサッカー」や、鬼ごっこにチームでのスピーディーなゲーム性を取り入れた「スポーツ鬼ごっこ」は、〔こどもの城〕から生まれた新しいスポーツとして定着してきた。

□プレイ部門の活動□

プレイ部門の活動は、プレイホールや屋上遊園・ふしぎが丘、パソコンルームを中心に実践されてきた。発達年齢や遊びの種類を考慮した環境設定をし、遊びながら学び、仲間作りができるようにすることを目的としてきた。

プレイホールは、“集いの広場”を中心に、幼児コーナー、小中学生コーナーを配置し、全体が“遊びのコミュニティ”として形作られ、さまざまな年代の子どもが、かかわり合いを深めながら遊ぶことができた。“集いの広場”では、紙芝居や人形劇、折り紙などの児童文化財を題材にしたプログラム、日本の季節行事や伝統行事、科学遊びプログラム「小学生ラボ」、遊びや実体験の中での発見と学びを目的にした「ハンズオン広場」などを実践してきた。

自分たちで活動内容を考え実行する、交流を目的にした“遊びのクラブ”や、自然の中で仲間と共同生活をするキャンプ活動も継続的に実施した。プレイ部門では、子どもたちが仲間とともに〈あそび〉をとおして学び合い、育ち合うことを大切に運営してきた。

開館当時から、パソコンを親しみやすい遊びの道具(ツール)として捉え、2つのコーナーでパソコン遊びの活動を行ってきた。コンピュータプレイルームでは、グラフィックスやパズル、音楽など、良質な既成ソフトから選んだ「個人プレイ」と、4人同時に参加できるヨットと熱気球レースのシミュレーションソフトの「集団プレイ」を開発し、仲間同士でかかわり合いながら参加できるコンピュータソフトという新しい形態を提示した。

パソコンルームでは、多彩な機能を持った道具であるパソコンを活用し、平面から立体をイメージしてデザインし、「紙飛行機」などを作るクラフトや、さまざまな形、色の画像データを自由に組み合わせる作品作りなど、多くのプログラムを構築した。また、パソコンを媒介にグループでの活動を楽しむことを目的に、子ども向けに作られたコンピュータ言語である「ロゴ(LOGO)」のプログラミングを内容としたパソコン教室や、「パソコンクラブ」も組織し、いずれも、パソコンを表現し、考えるための道具として活用した。子どもの学びに結びつく〈パソコン遊び〉のプログラムは大変貴重で、全国各地のモデルケースとなった。

□造形部門の活動□

造形部門の活動は、造形スタジオで実践されてきた。制作過程の“形に残らない体験”を大切に、子どもの感じる力、感性を伸ばすことを目的にしたものである。何歳の子が、何人、いつ来ても造形体験ができる環境を整備し、就学前の親子にはともに作る過程を楽しみながら表現する喜び、高学年には自分の関心にあわせてじっくり取り組み、作品を作り上げる喜びとなるプログラムを行ってきた。

子どもたちの意欲を引き出す環境設定を行い、やってみたいという気持ちを自発的に膨らませ、制作に入る流れを大切にしてきた。造形活動では、〈展示=見る〉→〈体験=さわる〉→〈制作=作る〉というスタイルをコンセプトに、3種類のワークショップを行ってきた。ワークショップは、①紙、木、土などの素材を捉える「素材との出会い展」②音楽や科学などの造形の隣接領域からアプローチする「造形発見展」③道具や技法を体験する「オープンスタジオ」に大別される。

さらに、正月、桃の節句、端午の節句などの季節の歳時プログラムを織り込んできた。歳時の由来や解説、日本各地の民芸品の展示などを合わせて行うことで、造形遊びをとおして日本の伝統を感じられるように心がけてきた。

□音楽部門の活動□

音楽部門の活動は、音楽ロビーを中心に実践されてきた。音楽の楽しみを共有する機会を提供することで、感性を磨き、創造性を伸ばし、音楽のもつ魂を揺さぶり感動させる力を感じとってもらうことを目的としてきた。

少子化の進行の中で、どんな施設にとっても乳幼児から参加できるプログラム開発は大きな課題である。音楽ロビーは、乳幼児を連れた親子から参加できる遊び場であった。保護者と離れて遊ぶことの難しいこの世代には、親子でともにふれあい、楽しめる音楽遊びや生バンドのコンサートを毎日行ってきた。週末や学校の季節休み期間には、世界の音楽にふれる鑑賞プログラムや楽器演奏体験、楽器制作など高学年も視野に入れたプログラムを行ってきた。音楽ロビーは、マリンバ、コンガ、カスタネットのほか、スタッフが創作した多くの手作りの打楽器を配置し、子どもたちは自

「こどもの城ニュース」第1号(昭和60年11月15日号)



ステージで歌やダンスを披露する
「うたっておどってハッピーハロウィン」



由に音を出して演奏に参加できた。音楽ロビーから誕生したプログラムも数多くある。たくさんの家族が一体になってリズムや歌を楽しむ「家族のWA」はスキンシッププログラムとして完成し、ステージで歌やダンスを披露する「うたっておどってハッピーシリーズ」は子どもの自己表現の場として定着した。また、バンドによる本格的なライブ演奏「Oshiro Band ライブ」は、ライブ演奏としての高いクオリティーを保ってきた。これらの活動の成果から誕生した「ガドガド スーパーライブ」は、バンド演奏にリズム遊び、世界の音楽がミック

□映像科学部門の活動□

映像科学部門の活動は、ビデオライブラリーでの視聴機会の提供を基本に、映像の視聴や制作をとおして感性を養うこと、また、科学を楽しむ芽を育むことを目的にしてきた。映像を〈みる〉ことにとどまらず、映像を〈作る〉ことを含め、子どもを引きつける魅力的なプログラムを実践してきた。表現豊かな映像作品を上映する「おもしろビデオ館」「こどもの城映画劇場」や、ニュース番組を制作して館内テレビで放送するキャスター体験プログラムも行った。

〈作る〉ことを体験するプログラムでは、視覚がん具を数多く紹介してきた。2枚の絵を動かして見せる「くるくるアニメ(マジックロール)」、10数枚の絵を動かして見る「ゾートロープ」、2枚の絵をビデオカメラでコマ撮りして画面で再生する「ぱたぱたアニメをつくろう」、「フィルムに絵を描こう」などを行った。絵が動いて見える仕組みに触れ、自分自身の手で動いて見える映像を生み出すことで、ビデオや映画をただ漫然と見るのではなく映像そのものの不思議やおもしろさへの興味につながるような工夫をしてきた。

アニメーションの第一歩を体験する映像遊びは、各地の児童館でも取り入れやすく、同時に科学体験の導入としても大きな役割を果たした。

■■■ 講座・クラブ活動 ■■■

講座・クラブの運営は、「こどもの城」活動の大きな柱の一つであった。継続的に子どもの成長を支援できること、固定されたメンバーでの活動であることなど、一般利用活動とは大きく異なる特徴を持っていた。スポーツ、音楽、造形などのスキルを伸ばすことにとどまらず、個性を大切に情操を育み、体力を養い、仲間作りの輪を広げることを目的にしてきた。健康作りや生活を豊かにすることを目的にした大人のための講座も開講した。

開館以来、開講された講座は3,300コース、受講生総数は2,100,000人におよぶ。主な講座は以下のとおりである。親子対象＝「幼児母親体育」「親子水泳」「就園前のリトミック」「親子でアート」など、幼児対象＝「幼児水泳」「幼児体育」など、小中高校生対象＝「新体操」「体育」「水泳」「パークッション」「サンバ」「合唱」「三味線」「和太鼓」「ガムラン」「造形」など、高校生一般対象＝「混声合唱」「マタニティ・スイミング」「水泳」「リズム&ストレッチ」「スポーツクラブ」など。

このほか、夏休みなどの学校休み期間には「水泳」や「体育」「造形教室」「楽器制作と演奏体験」「視覚がん具の制作」などのさまざまな短期講習を実施した。

■■■ グループ活動 ■■■

グループ活動は、小学校、保育所、幼稚園、特別支援学校などのグループを対象に、開館前の時間を活用して、独自プログラムで子どもを受け入れてきた活動である。昭和60(1985)年～平成24(2012)年に実施、延べ3,278グループ、73,226人を受け入れた。グループ活動は、一般利用活動や講座活動から作り上げたプログラムを、参加するグループの状態に合わせてアレンジして実施してきた。一人ひとりの個性を大切に、互いが刺激しあうことで影響しあい、新鮮な感性や創造性を育むことを目的に実施した。

プログラムの一例は以下のとおりである。音楽プログラム＝「忍者ってほんとうにいたの」「スカーフであそぼう」「まつりばやし」「たたいてみよう日本の楽器」など、造形プログラム＝「かげをうつそう」「木をつくろう」「粘土でジャングル旅行」など、映像プログラム＝「フィルムに絵を描いてみよう」「ビデオであそぼう」、体育プログラム＝「すてきな新体操」「球技で楽しく汗を流そう」「マットてつぼう とびばこ」「楽しい体育運動」など。

■■■■ 国際交流 ■■■■

国際人としての相互理解の推進、グローバルな視点の育成も重視してきた。“遊びのプログラム”に世界各国の要素を取り入れ、絵画展や交流プログラムなどをおして海外の文化を紹介することで、子どもが海外へ視野を広げるきっかけになるように心がけてきた。主な取り組みは以下のとおりである。

昭和 60(1985)年の「ファミリークリスマス」を皮切りに、「宇宙からの E メール」(平成 11 = 1999 年)まで青山円形劇場で日米 2 か国語のプログラムを行った。音楽をとおした国際交流活動では、平成 9(1997)年にカナダ・オタワ中央児童合唱団が来日し講座生と交流した。こどもの城児童合唱団は、上海市で開催された「上海国際少年文化芸術祭」に参加し(平成 9・12 = 1997・2000 年)、中国、アメリカ、カナダ、韓国など 8 か国の子どもたちと交流を図った。音楽ロビーから誕生したバンド「ガドガド」は、スイス、ドイツ、フランスなど 6 か国で公演を行った。

スポーツをとおした交流活動も実施した。「ブラジル日本修好 100 周年記念 ブラジル日本こども交流サッカー大会」(平成 7 = 1995 年)では在日ブラジル人の子どもとサッカーで、「V4 + JAPAN 絵本と鬼ごっこのつどい」(平成 26 = 2014 年)ではハンガリー、スロバキア、チェコ、ポーランドの子どもと鬼ごっこで交流を図った。

絵本や絵画から海外の文化や生活を伝える試みも行った。昭和 61(1986)年～平成 26(2014)年に開催した「アートスケープ展」は、首都圏インターナショナルスクール生による美術作品展である。作品展に合わせて行った陶芸ワークショップは、インターナショナルスクール生と直接交流する機会となった。このほか、「ザンビア子ども絵画展」(昭和 62 = 1987 年)、「日本インド子ども絵画交流展」(平成 10 = 1998 年)、「日本ノルウェー友好こども絵画展～瞳をひらいて」(平成 12 = 2000 年)、「オランダから写し絵と幻灯機がやってくる！ ジャンアント・ライト・サーカス」(平成 20 = 2008 年)などを行った。

造形活動では、5年、10年の節目ごとに造形教育に貢献した人をクローズアップした展覧会を行ってきた。開館記念(昭和 60 = 1985 年)と 20 周年記念(平成 17 = 2005 年)では、イタリアの作家「ブルーノ・ムナーリ展」を開催した。ムナーリは、子どもの触覚、視覚を刺激し造形感覚を磨こうと考え、「子どもの創造性をいかに愛情をもって引き出し育てるか」をテーマに絵本・遊具などを発表している。5 周年記念は子どもの自由な表現こそ、心の表出であると定義した「フランツ・チゼック展」、10 周年記念には美術館などの社会施設と家庭をつなぐ美術教育プログラムを展開した「ビクトル・ダミコ展～こどもアートカーニバル～」を行った。

平成 22(2010)年は、イタリア「マントヴァ国際子ども芸術・演劇フェスティバル」に出向き、子どもと指導者のそれぞれにワークショップ「かげをうつそう」を行った。平成 23(2011)年には、大きな布に絵を描くワークショップをダリオ・モレッティ(イタリア)の指導で行った。

映像活動においても、カナダ国立映画制作庁(NFBC = National Film Board of Canada)の短編作品 150 点をコレクションし(武藤行雄フィルムライブラリー)、定期的に上映してきた。平成 5～17(1993～2005)年には、ベルリン国際映画祭の子ども部門と協力し、「キンダー・フィルム・フェスティバル」を行い、バーバラ・ホフマン(ドイツ/平成 7 = 1995 年)、アン・ブロムバウト(イギリス



マントヴァ国際子ども芸術・演劇フェスティバル(イタリア)でワークショップ「かげをうつそう」を紹介

／平成9(1997年)など世界の映画人との交流を図った。平成12(2000年)には、アカデミー賞(短編アニメーション部門)を受賞している、カナダの人形アニメ作家、コ・ホードマンが子どもを対象としたワークショップなどを開催した。

■■■ 発達相談・障害児などの支援 ■■■

子どもの健康や成長、学習を巡る社会問題にも取り組んだ。小児保健クリニック(昭和60～平成25=1985～2013年)では、子どもの心身の健康や発達を考える部門として相談業務を行ってきた。自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害、知的発達障害、言語発達遅滞、ダウン症などの発達に関する相談、情緒・行動面の相談、肥満や低身長などの相談など、毎年約2,500件の相談を受け付け、総計で68,067件となった。

また、開館当初から障害児を対象にした講座を開講し、ひとり一人の成長に合わせた成長の支援を行った。ダウン症の子どもの成長を音楽面から支える「おんがく大好きミュージックパーク ダウン症児のための楽しいリトミック」(昭和61～平成25=1986～2013年)は未就学児を中心に行っているが、講習を修了し、成長したダウン症児の多くはこどもの城合唱団員として健常児とともに活動を継続している。

太りすぎの小学生を対象にした「健康スポーツ教室～太りすぎクラス」(昭和60～平成25=1985～2013年)では、体育部門のスタッフが運動面から健康な体作りのプログラムを行い、クリニックでは医学や栄養面から指導した。延べ432人が受講し、受講者の8割以上に改善がみられた。この実績から全国の養護教諭、栄養士を対象に研修会を行い、子どもの肥満対策の推進を図った。

手足に障害のある小中学生のための水泳の個人指導を行う「手足の不自由な子どものための水泳」など、継続的な援助を必要とする子どもや家族への支援を行ってきた。グループ活動においては、障害を持つ子どものグループでの利用が全体の3割を超えた。〔こどもの城〕の一般活動や講座では障害を持つ子も持たない子も分け隔てなく受け入れてきた。

□□□ 国立総合児童センターの活動 □□□

〔こどもの城〕は、「児童の健全育成の推進」を役割の中核ととらえ、〈あそび〉を成長・発達に欠かせない栄養と考え、健康と安全、健やかな成長を目的にしたプログラムを開発・実践してきた。時代のニーズに即したプログラム、乳幼児、小学生、中高生、家族単位のプログラム、居場所を必要とする思春期児童をも視野に入れた事業に取り組み、多くのプログラムは児童館のモデル事業として普及した。

また、唯一の国立の児童館として、プログラムを〈動くこどもの城〉事業などをとおして全国へ普及すること(平成6～26=1994～2014年/720件実施し、約40万人が参加)、研修会・講習会をとおして全国の子どもにかかわる児童厚生員、保育士、小児保健各分野の専門家への働きかけ(約2万人の人材を育成)、青年から育児経験のある女性を対象にした2,700人を超えるこどもの城ボランティアの育成も行った。

〔こどもの城〕の国立総合児童センターとしての役割は、①先駆的なプログラム開発 ②子育て支援の取り組み ③プログラムの全国への普及と人材育成の3点に分類される。

■■■ 先駆的なプログラム開発 ■■■

〔こどもの城〕は、新生児から高校生までの全児童を対象に“遊びのプログラム”を毎日実践している「遊びの現場」である。今までに3,500におよぶ遊びのプログラムを開発した。“児童館”という現場を持つ特性を生かし、子どもの目線や気持ちに寄り添って魅力的なプログラムとして磨きをかけてきた。子どもにとって魅力的であることと同時に、本来もっている能力を引き出すこと、さらに時代を先取りした先駆的なものであること、社会の変化に伴って発生する新しい問題に対応すること、またセンター館として各地の児童館でも活用できる汎用性を意識してきた。各遊びエリアが捉えてきた遊びのプログラム構築のポイントは以下のとおりである。

体育プログラムでは、体を動かす楽しさや醍醐味を伝え、みんながスポーツ好きになるスポーツ遊びの実践方法として、運動施設や道具の整わない環境や、幼児から高学年まで幅広い年齢にも対応できるノウハウを確立した。

プレイプログラムでは、時代にそった遊び、年齢を超えた遊び、子どもが創り出す遊び、遊びのなかの発見を学びにつなげる体験などをとおして、仲間作りや家族、子どもの生きる力につながるプログラムを構築してきた。

造形プログラムでは、造形体験をとおして感じる力、感性を伸ばすことを目的に、創造する意欲を引き出すテーマや素材の選定、環境整備などのノウハウを蓄積し、汎用性の高いプログラムを生み出した。

音楽プログラムでは、音楽の力や楽しみを感じ、豊かな感性を磨くプログラム作りをコンセプトに、リズム遊び、歌遊び、ダンス、自己表現、日本の伝統音楽や世界の音楽の体験プログラムと指導法を構築した。

映像プログラムでは、映像に親しみ、科学の芽を育むことを目的に、視聴の枠を超え、映像遊びや映像作りの実践方法を確立した。さらに、良質な映像作品の提示や環境や年齢に合わせた上映会運営方法も伝えてきた。

■■■ 子育て支援の取り組み ■■■

急速な少子化、核家族化、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、保育所・学童保育の不足、労働力としての女性活用の推進など育児や保育を取り巻く環境は大きく変化し、多様化している。〔こどもの城〕では、開館当初から母親の就労の有無にかかわらず、子育てを楽しめるようにという視点から子育て支援の取り組みを行ってきた。

保育部門では利用者の多様なニーズに応え、家庭外での子どもへの保育効果と親への保育援助を目的に、先駆的な保育システムを構築した。曜日を選べる定期保育、スポット的に利用できる不定期保育、緊急保育など、家庭で育児をする家族と短時間就労家庭を対象にした先進的な子育て支援を行ってきた。

また、小児保健部門では、平成3(1991)年に母親が赤ちゃんを集える場所の提供、母親のネットワーク作りの援助、正しい育児情報の提供を目的に「赤ちゃんサロン」を始めた。赤ちゃん連れで気軽に集まれる機会へのニーズを汲み取って誕生し、その後に児童館や保育所で行われるようになった子育て支援活動の先駆けとなった。

平成25(2013)年4月から運営している「0.1.2歳のぼかぼか広場」では、保健師、栄養士、保育士や遊びを指導するスタッフ、ボランティアが常駐し、安全管理とともに人と人をつなぐ機能、母親のちょっとした相談などを聞く体制の必要性を発信してきた。

さらに、ファミリー対象の遊びのプログラムとして、平成6(1994)年から行った「ファミリーブレイクタイム」では、父親の参加促進を意図したプログラム開発を行った。手打ちうどん作り、ピザ作り、段ボールのトンネル遊具、絞り染めなどを実施した。母親、父親の役割を再認識し、子どもへの言葉がけに気づきが生まれ、父親同士の交流が生まれたり、家族で子育てを楽しむきっかけに繋がった。

■■■ プログラムの全国への普及と人材育成 ■■■

スタッフが経験を重ねてノウハウを構築、継承したものを、児童館をとおして全国に普及することも重要な役割の一つとして取り組んできた。普及活動とともに、児童厚生員をはじめ子どもにかかわる専門職の人材育成に努めてきた。

〈動くこどもの城〉は、〔こどもの城〕で培われたプログラムを全国の児童厚生施設に提供することを目的に平成6(1994)年にスタート。各部門のプログラム企画・構築のステップも成熟し、次世代スタッフが育成されはじめたころであった。それまでも講師派遣として各地でプログラム実践や、指導者研修を実施していたが、国の事業として実施することで各地の負担を軽減することが可能になり、全国の児童館等から派遣要請があった。各地の児童厚生員とコミ



〈動くこどもの城〉指導者研修（山形県で）

コミュニケーションをはかり、外からの視点を加えながら特色を取り入れてアレンジを考えることは、スタッフの新しい意欲を生み出し、新たに開発するプログラムにも大変良い効果を生んだ。

また、体育、音楽、造形、映像科学などの児童健全育成分野や、小児保健、保育等において講師として招聘され各地で実技指導、指導者講習を行い、〈動くこどもの城〉プログラムで対応しきれないエリアや規模にも柔軟に対応してきた。

センター館の役割の一つとして現場職員の資質向上を目的に児童厚生、小児保健、保育分野の専門研修を実施した。また、講師派遣として児童健全育成現場での指導、行政や専門家などの視察見学対応、中高生から大学生までの職業体験、実習生受け入れなど多岐にわたる人材育成を担ってきた。さらに、全国の児童館につとめる児童厚生員の資質向上や交流を目的に、座学と実技を取り入れた実技指導講習会を実施した。ボランティア育成にも努め、活動に積極的に参加してもらった。

開発プログラム	612 タイトル 約 3,500 プログラム
動くこどもの城	767 件 516,114 人
講師派遣	3,418 件
専門家講習	348 件 21,174 人
ボランティア養成	2,797 人
ボランティア活動参加者	178,275 人
実習生・研修生・職場体験者	1,420 人

■■■ 東日本大震災支援活動 ■■■

平成 23(2011)年 3 月 11 日の東日本大震災直後には、来館児・者の安全確保や、遊びの機会の提供、また、被災した地域へ出向くリフレッシュプログラムを実施した。翌年からは、鯉のぼりの掲揚に「忘れない！みんなでゲンキに！」というメッセージを込めて全国に発信すること、酪農支援をとおして東北の現状を発信することなどで継続的な支援活動を行ってきた。

□義援金・文具・おもちゃなどの寄付□

来館児・者から預かった 77,980 円を日本赤十字社に寄付。こどもの城児童合唱団・混声合唱団によるチャリティーコンサート「子どもたちのサウンドメッセージ」の売上の一部と、会場で募金箱に集まった 300,700 円を(社福)釜石市社会福祉協議会へ寄付。その他、衣類、文房具、おもちゃなどを寄付した。

□鯉のぼり掲揚式典への招待□

平成 23(2011)年 4 月 17 日、鯉のぼり掲揚式典を実施。福島県から避難している家族 55 人を招待、横綱白鵬閣とともにセレモニーに参加、昼食をはさんで〔こどもの城〕で遊ぶ機会とした。

□スタッフの被災地派遣 遊びをとおして子どものケア支援□

国庫補助事業〈動くこどもの城〉として、岩手、宮城、福島の名県で音楽遊び、絵本プログラム(平成 24 年度 7 回、25 年度 3 回)を実施した。また、独自の活動として福島県郡山市の 3 事業「心と体のリフレッシュ」「楽しいリズム・みんなでライブ」(平成 24 = 2012 年 6 ~ 12 月、9 回、273 人)、「幼児期の遊び場と体を動かす機会」(平成 25 = 2013 年 6 ~ 12 月、10 回、516 人)をとおした支援を行った。

□児童館こいのぼりがいっぱいプロジェクト□

全国の児童館で一斉に鯉のぼりを掲揚することで、「みんなでゲンキに！」というメッセージを発信した。参加館は、平成 24 年度 = 275 館、同 25 年度 = 379 児童館、同 26 年度 = 約 500 館。

□がんばろう東北酪農キャンペーン□

東北の酪農の現状を紹介、酪農業の紹介、牛乳の消費促進の PR、「牛乳ができるまで」を紹介する展示や干草遊びコーナー、牛乳パックで帽子を作るコーナーなどを展開した。

平成 24 ~ 26 (2012 ~ 2014) 年、年 1 回。主催は東北酪農青年婦人会議(全酪連仙台支所)。

□こどもバザール□

平成 25(2013)年 5 月 25 ~ 26 日、こどもの城児童合唱団・混声合唱団とその保護者を中心に、ゲーム、バザー、物産展等を実施、売り上げの一部を復興支援に活用していただいた。

協力は、財団法人児童健全育成推進財団、石川県輪島市児童センター、新潟県立こども自然王国、石川県金沢市三輪児童館、広島県大竹市社会福祉協議会、北海道中標津児童館。

□東日本大震災中央子ども支援センターとの連携事業

「プレイ! プレイ!! プレイ!!! プロジェクト」□

平成 24(2012)年 8 月 20～24 日に、東日本大震災中央子ども支援センター協議会との連携で「遊びを通じた親子支援プロジェクト」を実施した。保護者のための各種相談コーナーや託児スペース等を設置し、専門家による親子支援事業を展開し、5 日間で 125 人の親子が参加した。

□□□ 青山劇場・青山円形劇場の活動 □□□

「児童の福祉・文化の向上を目指して、児童に内外の質の高い舞台芸術・音楽を鑑賞する場を提供し、また児童をそれらの芸術活動に参加・交流させることにより、豊かな情操と創造性を育てる。併せて、優れた劇場機能を活かした斬新な活動を推進し、万人のためのよりよい舞台芸術・音楽の発展、普及に資する」。

この運営目標を実現すべく、開館以来、「文化施設」と「文化事業機関」の両面を併せ持つ劇場として運営してきた。演目を選定して劇場を貸すという貸劇場公演と、公演作品を企画・制作して発信していく自主(共催)・提携公演を行うことである。

■ ■ ■ 自主(共催)・提携公演 ■ ■ ■

開館当初、〔こどもの城〕発の作品を発信しようという強い意識から、以下の作品が生まれ、それぞれシリーズ物として定着し高い評価を得た。閉館まで継続したもの、その使命を全うし終了したもの、その流れを汲む作品に発展的につながったものと分類される。

□青山劇場：「青山バレエフェスティバル」 → 「ローザンヌ・ガラ」

□青山円形劇場：「青山演劇フェスティバル」(終了)

「ア・ラ・カルト」 → 「ア・ラ・カルト 2」

「オブジェクト・シアター」(終了)

「五線譜のなかの動物たち」(終了)

「キリンファミリー劇場」(終了)

「こどもの城・キリンファミリーオペレッタ」 → 「ファミリーオペレッタ」

「月猫えほん音楽会」

また、開館 11 年以降は、運営目標に照らし、以前からのシリーズ物のほか、演劇、音楽、舞踊などの各分野で今後の活動が期待されるカンパニー・アーティスト等と協力・提携して公演を行い、パブリックな文化機関として先進的な文化・芸術を発信する役目、児童・青少年をはじめ、各年代、各層にわたる多くの人々の福祉の向上に貢献する役目、できる限り廉価で質の高い公演の鑑賞の機会を提供する役目を再認識し、外国の舞台芸術の鑑賞の場の提供及び共同制作にも力を入れるべく以下のシリーズ作品を生み出した。

□青山劇場：「ダンスビエンナーレ(トリエンナーレ) TOKYO」(青山円形劇場も)

「東京国際和太鼓コンテスト」

「青山太鼓見聞録」(青山円形劇場も)

□青山円形劇場：「Aoyama First Act」

「青山円劇カウンスル」

「青山演劇LABO」

「Dance Exchang」

このような自主(共催)・提携公演作品の発信により劇場が求心力を持ち、劇場のポテンシャルを高めることに成功し、劇場使用希望者に刺激を与えるとともに営業的効果(貸館)にも結びつき、全体として高い稼働率を保った。

■ ■ ■ 貸し館 ■ ■ ■

青山劇場では、劇団四季が開館記念公演「ドリーミング」でコンピュータ制御のハイテクな舞台機構を駆使した演出を披露して以来、その演出の流れはジャニーズ事務所「少年隊 PLAYZONE」、日本テレビミュージカル「アニー」と受け継がれた。その後も数々のミュージカルが上演され、ミュージカル劇場としての評価が定着した。閉館までその傾向は変わらなかったが、開館 25 年以降

は新進の制作会社のミュージカル制作への参入も積極的に受け入れ、日本のミュージカルシーンのバリエーションの多様化に貢献できた。

また、青山円形劇場は完全円形空間のおもしろさからさまざまな実験的、先駆的な舞台作品が作られ、そのジャンルもダンス、演劇、人形劇、演芸、ライブパフォーマンス、クラシックコンサートなどと多岐にわたった。特に若手の劇団にとっては青山円形劇場で上演することが羨望のまとなっていて、開館 11 年以降は徐々に若手劇団の台頭も目立つようになった。

■■■ 劇場 30 年の成果 ■■■

30 年を振り返り、青山劇場と青山円形劇場の果たした役割・成果は何だったのか？



青山劇場

青山劇場は“東洋一”とうたわれたコンピュータ制御の舞台機構でミュージカル、バレエ、コンサートなどあらゆるジャンルの舞台芸術に対応した。特にミュージカル公演が定着し、公演をとおして若手の俳優を育てるなど、ファンの聖地・ミュージカルの殿堂とまで言われるようになった。

青山円形劇場は観客が取り囲む形状の舞台空間が、他の劇場ではできない演出ができると、創り手の感性を刺激し、80 年代からの小劇場ブームを牽引した。また、30 年にわたり、毎年〔こどもの城〕発のファミリー向けオリジ

ナル作品を創造・上演し、児童の情操と創造性の育成に寄与した。

また、両劇場はバレエ・ダンス文化の発信地としての役割も果たした。青山劇場ではバレエフェスティバルが 15 年間開催され、アジア初の「ローザンヌ国際バレエコンクール」の会場にもなった。近年はコンテンポラリーダンスのフェスティバルも開催され、世界各地からたくさんのダンサー・関係者が集った。

このように世界にも知られる文化の拠点となり、両劇場は大人も子どもも楽しめる本物の、そしてここでしかできない舞台芸術の創造・発信地として機能したと思われる。



青山円形劇場

30年間の主な出来事

年月日	主な出来事
昭和59年 6月 (1984年) 10月	第1期「ボランティア養成講座」開始、平成25年までに88回の講習、2,797人を養成 「こどもの城全国連絡協議会」設立総会を開催
昭和60年 4月 (1985年) 11月1日 11月2日 11月15日 11月22日～ 12月15日 12月6日	こどもの城児童合唱団メンバー募集開始。現在では約300人、延べ約160公演を実施 午前11時、招待者の受け付け、施設見学。12時半から一般無料公開 中曽根首相(当時)視察 「こどもの城ニュース」創刊。平成25年3月第251号まで発行 開館記念「ブルーノ・ムナーリ展」開催。数々の記念事業を実施 皇太子殿下・同妃殿下(現天皇陛下)ご来館
昭和61年 3月30日 (1986年) 4月29日 8月16・17日 9月5日 9月7日	「イースター・国際こどもフェスティバル」開催 チャリティバザー「こどもデパート」開催。収益金は日本肢体不自由児協会へ 第1回「青山バレエフェスティバル」。平成12年度まで開催 「マタニティ・コンサート」開催。平成24年まで毎年1・2回開催 入館者100万人突破
昭和62年 4月1日 (1987年) 7月21日～ 8月31日 8月7～8日 10月26～30日	プレイホールに33畳のたたみ敷きコーナーを設置。親子の触れ合い遊びの場に 「渋谷スタンプラリー」開催(NHKスタジオパーク・たばこと塩の博物館・電力館)。 平成23年まで開催 「こどもの城保育セミナー」(保育専門家研修)を開催。平成25年まで毎年開催 「青山演劇フェスティバル」(青山円形劇場)開催。平成13年度まで。60作品上演
昭和63年 1月24～29日 (1988年) 7月20日 8月9～11日 11月8～14日	第17回ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催(青山劇場) 屋上遊園「まんまる広場」に「プレイボート」を設置 「世界人形劇フェスティバル'88東京」開催 事業運営の参考にするため入館者へアンケートを実施(708人)
平成元年 3月21日 (1989年) 8月10～12日 8月18・19日	「水泳記録会」開催。平成26年12月第27回目まで開催 「ちびっこ冒険団(低学年のキャンプ)」開催。平成24年まで毎年開催 「こども卓球大会」(東京の児童館の小中学生)。平成8年まで毎年開催
平成2年 4月28日～ (1990年) 5月27日 開館5周年 5月20日 11月1～30日 11月3～15日 11月5日	開館5周年記念 田沼武能写真展「遊ぶ 世界の子ども」開催 入館者500万人を突破 開館5周年記念「フランツ・チゼック展」開催 開館5周年記念「日本のミュージカル・龍の子太郎」(青山劇場)公演 健全育成シンポジウム「今、子どもたちは」開催
平成3年 5月16日 (1991年) 10月1日	「赤ちゃんサロン」開始。平成25年からは「0.1.2歳のぼかばか広場」として毎日実施 消費税法改正。児童福祉に関する事業が非課税になったため入館料を改定。こども310円を300円に、おとな410円を400円に
平成4年 4月12・18日 (1992年) 7月22日～ 8月7日 8月25～31日	「ユースクラブ」「キッズクラブ」発足。平成24年まで継続 「バルセロナ五輪速報写真展」開催 「武藤行雄記念文庫」開設。NFBCのアニメーション作品を収蔵。お披露目上映実施
平成5年 3月23日 (1993年) 6月11日 9月12日 12月11・12日	プレイホール大型アスレチック愛称を公募。「わくわくらんど」に決定 「動物とのふれあいプログラム」。協力：日本動物病院福祉協会 「おんがくがスキ!(Gado Gado)」宮城県名取市で公演。現在までに150公演実施 国際交流ファミリーシアター100回記念公演「サンタズ・トイボックス」公演
平成6年 5月3～5日 (1994年) 7月29・31日 国際家族年 11月1～3日	国際家族年記念「おやこフェスティバル」 「動くこどもの城(児童館巡回等支援活動事業)」第1弾音楽プログラムを岩手で実施 開館記念「親子体験ワークショップ おやっ!と発見 子ども発見」

年月日	主な出来事
平成7年 4月8日 (1995年)7月21日～ 開館10周年 8月10日 8月2～8日	入館料改定 子ども300円を400円に、おとな400円を500円に 開館10周年記念「第4回キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」ほか記念事業を実施 開館10周年記念「イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜」(青山劇場)公演
平成8年 8月1日 (1996年)12月21日～ 1月15日	「財団法人日本児童手当協会」から「財団法人児童育成協会」へ法人名変更 「昔あそび大集合～お父さんの少年時代」開催
平成9年 6月20日～ (1997年)7月20日 7月19日～ 8月31日 7月31日～ 8月9日	「万人のための美術展～もうひとつの美術教育」開催 「遊び・絵本・知育 コマガタワールド」開催 こどもの城児童合唱団「'97上海国際少年児童文化芸術祭」に参加
平成10年 7月18日 (1998年)9月12～27日	屋上「プレイポート」リニューアルオープン インド独立50周年記念「日本・インド子ども絵画交流展」開催。駐日インド公使来館
平成11年 8月9～11日 (1999年)9月25日	青山バレエフェスティバル「バレエと変容」(青山劇場) 入館者1,500万人を突破
平成12年 1月30日 (2000年)7月27日～ 8月3日	「色であそぼう 紙であそぼう 『はらぺこあおむし』のエリック・カールさんと」 こどもの城児童合唱団、上海「国際少年児童文化祭」に出演、平成9年につづき2回目
平成13年 3月26日～ (2001年)4月14日 4月1日 11月23～25日	「日本・ノルウェー友好子ども絵画展～瞳をひらいて」。皇后陛下、ノルウェー王国王妃来館 「スイミングプール」リニューアルオープン 大型児童館の遊びのボランティアの集い「じょいんフェスティバル」
平成14年 8月19～20日 (2002年)11月3日	日本の音楽シリーズ「日本の太鼓」(青山円形劇場)、翌年1月に「日本のふるさと弦楽器」 子育てママの悠々タイム「クリスマスボールのオーナメントをつくろう」
平成15年 10月11～13日 (2003年)12月13日～ 1月12日	サッカーフェスティバル2003 「ヤマムラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー」開催
平成16年 1月10～12日 (2004年)8月10～11日	高校生ボランティア10人が「じどうかんジャンボリー@北海道」に参加 高門宮憲仁親王メモリアル ローザヌ国際バレエコンクール日本開催15周年ローザヌ・ガラ(青山劇場)
平成17年 3月21日 (2005年)11月1日	入館者2000万人を突破 開館20周年記念シンポジウム「子どもはどこで育つ？」ほか記念行事を実施
平成18年 6月24日 (2006年)12月16～17日	保育関係者が行う子育て相談研修会「基礎編」春、同「基礎編」秋は10月28日に開催 こどもの城DEお仕事体験～ドルッチャワークス
平成19年 2月23日 (2007年)7月27日～ 8月27日	第1回こどもの城次世代育成支援講習会「思春期の心身の発達を考える」 あそびday キャンプ2007年夏。6コース開催
平成20年 10月12～19日 (2008年)11月22～24日	ブラジル移住100周年「ブラジルフESTA」サッカー、カポエイラ、歌遊び、手遊び ハンズオン広場「発見!体験!プレイホール」
平成21年 7月10日 (2009年)9月19～23日	こどもの城食育講習会「乳幼児期からの健康づくり」 こどもの城秋のフェスティバル～スポーツフェスティバル、秋まつり
平成22年 9月25日 (2010年)11月1日 12月11日	三味線講座25周年記念「三味線の調べ」 開館25周年記念 みんなあつまれ! チャレンジ25、合唱団コンサートほか記念行事を実施 小学生ラボスペシャル「TOYOTA 科学のびっくり箱! 二足歩行ロボット」

年月日	主な出来事
平成23年 2月19～20日 (2011年) 3月11日 4月10日 4月17日 6月11～12日 11月5日	JAXA 宇宙教育ワークショップ コズミックカレッジ 東日本大震災、帰宅困難になった来館者が宿泊。3月12～18日臨時休館 東日本大震災チャリティコンサート こどもたちからのサウンドメッセージ（青山劇場） こいのぼりがいっぱい！みんなゲンキに！ こいのぼり掲揚式 小学生プログラムスペシャル おとうさんのあそび市
平成24年 2月 (2012年) 7月12日 9月28日 10月1日 3月24日	東日本大震災中央子ども支援センター協議会に加盟 レストラン「カフェ・キャッスル」リニューアルオープン 厚生労働省より、国立総合児童センターこどもの城を平成27年3月末で閉館と発表 公益財団法人児童育成協会に移行（9月24日付けで内閣府より認定） 0・1・2歳のぼかばか広場を開設、毎日開催
平成25年 4月9日 (2013年) 5月25・26日	プレイホールを活用した貸切団体利用を開始 東日本大震災復興支援事業 こどもバザール
平成26年 6月14日 (2014年) 7月13日	東日本大震災復興支援事業 がんばろう東北の酪農 入館者2800万人を突破
平成27年 1月11日 (2015年) 1月24・25日 1月31日 2月1日 3月14日 3月31日	青山円形劇場閉館 第14回全国児童館・児童クラブ大会 TOKYO 青山劇場閉館 こどもの城児童活動エリア閉館 こどもの城講座クラブ終了 こどもの城事業終了



平成27年＝2015年2月1日、〔こどもの城〕児童活動エリア閉館

資 料

■■■「こどもの城」の出版物など■■■

〔こどもの城〕で開発した遊びのプログラムは、〔こどもの城〕の来館児・者に提供することにとどまらず、全国の児童館で実践されるように情報提供することがセンター館の役割である。〈動くこどもの城〉(児童館巡回支援活動等事業)や派遣依頼を受けて現地に出向き、遊びプログラムの実践と指導者への啓発を行うことが基本だが、出向いて指導を行うことができない児童館でも実践に役立つように以下の事例集、CD、DVDを発行・配布し、全国の児童健全育成事業の普及・支援に努めてきた。

□こどもの城活動事例集(冊子)□

- ・「手作り楽器とリズム遊び」(平成11年)
- ・「赤ちゃんとお母さんのすくすくスキンシップ」(平成11年)
- ・「スポーツ遊びで体力づくり」(平成12年)
- ・「レクリエーション大会の演出プラン」(平成18年)
- ・「不思議な映像実験室」(平成19年)
- ・「ぽかぽか広場 乳幼児と親の交流広場」(平成21年)
- ・「親子ふれあい体操1・2・3」(平成21年)
- ・「みんなで遊ぼう!パペットランド」(平成23年)
- ・「児童館の遊びに活用できる 遊びのプログラム1~3」(平成23~25年)

□こどもの城活動事例集(DVD、CD)□

- ・「レクリエーション大会の演出プラン」(平成18年)
- ・「身近な道具でスポーツ遊び」(平成18年)
- ・「赤ちゃんとお母さんのすくすくスキンシップ」(平成20年)
- ・「How to 手作り楽器とリズム遊び」(平成21年)
- ・「How to 親子ふれあい体操1・2・3」(平成22年)
- ・「みんなで遊ぼう!パペットランド」(平成23年)
- ・「かけをうつそう」(平成24年)
- ・「視覚玩具でアニメーションづくり ソーマトロープと驚き盤」(平成25年)
- ・「Gado Gado We Love Music おんがくがスキ!」(CDと解説書)
- ・「Gado Gado with Friends みんながいる!」(CDと解説書)
- ・「赤ちゃんとお母さんのすくすくスキンシップ」(CDと解説書)

このほか、各部門が開発・実践したプログラム事例から以下の書籍等を発行・販売している。

- ・「一緒に遊ぼう楽しく子育て 一人ひとりが輝くために」(保育部門/平成9年:中央法規出版)
- ・「うつるうごく“映像遊び”探検隊 アニメおもちゃからビデオまで」
(映像部門/平成9年:中央法規出版)
- ・「スポーツ遊びで健康づくり こどもの成長に合わせて」(体育部門/平成11年:中央法規出版)
- ・「新・健康の手帳(肥満児指導者用冊子)」(小児保健部門/平成15年:予防医学事業中央会)
- ・「実践!0・1・2歳児の子育て支援」(小児保健部門/平成24年:中央法規出版)
- ・「みる・しる・つくるアニメーションキット」(映像部門/平成7年)
- ・造形スタジオ 作るキット「ニョッキリ竹」など 7種
- ・造形スタジオ カタログ「木と造形」など 19種

■■■ 〔こどもの城〕の来館児・者数など ■■■

〔こどもの城〕の来館児・者数は、平成 26 年 7 月に 2,800 万人を超え、最終的な総計は 28,483,130 人となった。少子化の進行による子どもの数の減少に比べ、〔こどもの城〕来館児・者数は漸減傾向であった。平成 21 年後半から、22 年 6 月ごろまでは、長引く景気の低迷と新型インフルエンザの影響、同 22 年 3 月の東日本大震災の影響で 1 週間の休館を余儀なくされたなどの理由からの落ち込みが見られた。同 25 年は、休館日の増加、講座の縮小による影響で減少した。

また、新聞・テレビなど各メディアから受けた取材は、年間 150 件を超え、総数は 5,490 件となった。開館から年月が経過するなかでも一定の取材を受け続けてきたことは、〔こどもの城〕が先駆的、特徴的な活動を継続し、子どもの文化・芸術・保育・保健など各分野において第一線を保ってきた所以である。

こどもの城総入館者	28,483,130 人
児童館エリア利用者	13,314,422 人
青山劇場・青山円形劇場入場者	11,540,442 人
講座・クラブ受講者	3,300 コース 2,100,000 人
グループ活動利用者	3,278 件 73,226 人
取材件数	5,490 件
視察・見学者	6,173 件 53,119 人

■■■〔こどもの城〕年度別来館児・者数(人)■■■

年 度	来館児・者	劇場利用者	そ の 他	総来館児・者	累 計
昭和60年度(1985年度)	295,752	161,981	26,751	484,484	484,484
61年度(1986年度)	560,301	416,666	74,373	1,051,340	1,535,824
62年度(1987年度)	523,004	433,836	100,060	1,056,900	2,592,724
63年度(1988年度)	542,997	440,816	119,318	1,103,131	3,695,855
平成元年度(1989年度)	564,557	436,423	135,118	1,136,098	4,831,953
2年度(1990年度)	580,863	420,272	136,506	1,137,641	5,969,594
3年度(1991年度)	572,328	446,800	122,890	1,142,018	7,111,612
4年度(1992年度)	511,542	482,816	122,751	1,117,109	8,228,721
5年度(1993年度)	496,086	460,332	129,211	1,085,629	9,314,350
6年度(1994年度)	504,286	473,195	137,793	1,115,274	10,429,624
7年度(1995年度)	480,105	413,822	135,097	1,029,024	11,458,648
8年度(1996年度)	457,084	395,392	143,016	995,492	12,454,140
9年度(1997年度)	434,023	432,354	143,526	1,009,903	13,464,043
10年度(1998年度)	414,604	438,209	154,769	1,007,582	14,471,625
11年度(1999年度)	421,415	416,747	144,111	982,273	15,453,898
12年度(2000年度)	426,291	365,134	138,736	930,161	16,384,059
13年度(2001年度)	418,834	309,832	142,806	871,472	17,255,531
14年度(2002年度)	424,942	350,910	149,191	925,043	18,180,574
15年度(2003年度)	420,790	353,491	140,607	914,888	19,095,462
16年度(2004年度)	414,639	390,313	135,811	940,763	20,036,225
17年度(2005年度)	415,280	364,949	134,220	914,449	20,950,674
18年度(2006年度)	412,453	370,929	127,289	910,671	21,861,345
19年度(2007年度)	398,717	381,795	114,028	894,540	22,755,885
20年度(2008年度)	404,810	377,984	125,899	908,693	23,664,578
21年度(2009年度)	354,332	353,428	100,213	807,973	24,472,551
22年度(2010年度)	349,341	345,579	102,176	797,126	25,269,677
23年度(2011年度)	406,398	336,034	108,842	851,274	26,120,951
24年度(2012年度)	410,051	339,856	95,031	844,938	26,965,889
25年度(2013年度)	364,530	325,421	108,376	798,327	27,764,216
26年度(2014年度)	334,067	305,126	79,721	718,914	28,483,130
計	13,314,422	11,540,442	3,628,236	28,483,130	

※「来館児・者」には、「講座・クラブ利用者」が含まれる。

公益財団法人 児童育成協会



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
TEL 03-3797-5666 (代表) FAX 03-3797-5676
<http://www.kodomo-no-shiro.jp/>